

專賣局金澤製造所	勝山分工場 越前分工場 富山分工場	越前縣大野郡勝山町 石川縣石川郡越前町 富山縣上野川郡越前川村
專賣局産根製造所	八日市分工場	滋賀縣神前郡八日市町
專賣局大阪製造所	高田分工場 和歌山分工場 姫路分工場 高知分工場	奈良縣高田郡高田町 和歌山縣和歌山市 兵庫縣神戶郡西宮町 高知縣高知市
專賣局岡山製造所	久世分工場 中津井分工場 高橋分工場 井原分工場	岡山縣真庭郡久世町 岡山縣上房郡中津井村 岡山縣上房郡高橋町 岡山縣後月郡井原町
專賣局府中製造所	三原分工場 廣島分工場	廣島縣神門郡三原町 廣島縣廣島市
專賣局池田製造所	井川分工場 真光分工場 徳島分工場	徳島縣三好郡井川村 徳島縣美馬郡真光村 徳島縣徳島市
專賣局松山製造所	高松分工場 琴平分工場 三島分工場 今治分工場	香川縣高松市 香川縣仲多度郡榎井村 愛媛縣宇摩郡三島町 愛媛縣越智郡日吉村
專賣局福岡製造所	久留米分工場 志波分工場 佐賀分工場 長崎分工場	福岡縣久留米市 福岡縣朝倉郡志波村 佐賀縣佐賀市 長崎縣長崎市

專賣局熊本製造所	島原分工場	長崎縣南高來郡島原町
專賣局白杵製造所	竹田分工場	大分縣直入郡竹田村
專賣局鹿兒島製造所	宮崎分工場	宮崎縣宮崎郡大塚村
	都城分工場	宮崎縣北諸縣郡都城町
	國分分工場	鹿兒島縣姶良郡國分村
	川内分工場	鹿兒島縣薩摩郡東水引村
	指宿分工場	鹿兒島縣指宿郡指宿村
那覇分工場	沖繩縣那覇區	

○大藏省令第三十八號
 專賣局專賣局收納所、專賣局製造所、專賣局販賣所ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付圖ヲ代表ス
 附則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ施行ス
 明治四十年九月二十七日

大藏大臣法學博士男爵阪谷芳郎

○大藏省令第三十九號
 專賣局官吏ニ於テ検査、取締其ノ他監督上必要ノ處分ヲ爲ス際携帶スヘキ證書ノ様式左ノ通相定ム
 明治四十年九月二十七日
 大藏大臣法學博士男爵阪谷芳郎

(何)第 號

專賣局官吏證書

局 專 賣

局 印

(裏)

專賣局(何) 所在 勤

官 氏 名

○陸軍省令第十二號
明治四十年軍令陸第三號ノ施行ニ關シ左ノ通定ム
明治四十年九月十八日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍管區表ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三乃至第十八師團司令部、歩兵第二十
五乃至第三十六旅團司令部各其ノ衛戍地ニ就キ業務ヲ執ルニ至ル迄師團長ノ管轄及歩兵旅團長ノ
事務監督ノ關係及區域ハ別表ニ依ル
軍法會議ノ管轄ニ關シテハ第十三乃至第十八師團司令部各其ノ衛戍地ニ就キ業務ヲ執ルニ至ル迄
第一第十四兩師管區域ヲ以テ第一師管、第二十三兩師管區域ヲ以テ第二師管、第三第十五兩師管
區域ヲ以テ第三師管、第四第十六兩師管區域ヲ以テ第四師管、第五第十七兩師管區域ヲ以テ第五
師管、第十二第十八兩師管區域ヲ以テ第十二師管トス
(別表)

師團長	旅團長	聯隊	區
第八師團長	第四旅團長	青森 盛岡	
	第十六旅團長	弘前 秋田	
第二師團長	第三旅團長	仙臺 山形 福島 若松	
	第十五旅團長	新發田 村松 高田 松本	
第一師團長	第一旅團長	佐倉 本郷 麻布 甲府	
	第二旅團長	水戸 宇都宮 高崎 熊谷	
	第五旅團長	名古屋 岐阜 桑名 津	
第三師團長	第十七旅團長	静岡 沼津 豊橋 飯田	
第九師團長	第六旅團長	金澤 石川 富山 高岡	
第十師團長	第二十旅團長	福知山 神戸	
	第八旅團長	姫路 鳥取	
第五師團長	第二十一旅團長	廣島 松山 山口 岩國	
	第九旅團長	岡山 福山 松江 濱田	
第十一師團長	第十旅團長	丸龜 徳島	
	第二十二旅團長	善通寺 高知	
第六師團長	第十一旅團長	熊本 八代 鹿兒島 都城	
	第十二旅團長	小倉 福岡 中津 大分	
第十二師團長	第二十三旅團長	佐賀 大村	
	第二十四旅團長	久留米 高瀬	
	第十三旅團長	札幌 函館	
第七師團長	第十四旅團長	釧路 旭川	

第四師團長	第七旅團長	大阪 篠山 堺 和歌山
	第十八旅團長	敦賀 大津
第九師團長	第十九旅團長	奈良 京都
	第六旅團長	金澤 石川 富山 高岡
第十師團長	第二十旅團長	福知山 神戸
	第八旅團長	姫路 鳥取
第五師團長	第二十一旅團長	廣島 松山 山口 岩國
	第九旅團長	岡山 福山 松江 濱田
第十一師團長	第十旅團長	丸龜 徳島
	第二十二旅團長	善通寺 高知
第六師團長	第十一旅團長	熊本 八代 鹿兒島 都城
	第十二旅團長	小倉 福岡 中津 大分
第十二師團長	第二十三旅團長	佐賀 大村
	第二十四旅團長	久留米 高瀬
	第十三旅團長	札幌 函館
第七師團長	第十四旅團長	釧路 旭川

○陸軍省令第十三號
馬匹徵發事務細則附表ヲ別表ノ通改正ス

第十一	德島 香川 愛媛 高知 鹿兒島 山口 岡山 福岡 大分 佐賀 宮崎 新宮 群馬 長野 山梨 石川 富山 福井 滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山 徳島 香川 愛媛 高知 鹿兒島 山口 岡山 福岡 大分 佐賀 宮崎 新宮 群馬 長野 山梨 石川 富山 福井 滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山
第十二	山口 岡山 福岡 大分 佐賀 宮崎 新宮 群馬 長野 山梨 石川 富山 福井 滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山
第十三	群馬 長野 山梨 石川 富山 福井 滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山
第十四	山梨 石川 富山 福井 滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山
第十五	石川 富山 福井 滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山
第十六	富山 福井 滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山
第十七	福井 滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山

第十八	滋賀 京都 神戶 大阪 奈良 和歌山
-----	--------------------

○陸軍省令第十四號
 明治四十一年召募ノ士官候補生、中央幼年學校豫科生徒、地方幼年學校生徒及主計候補生志願者ニ
 限リ其ノ召募手續ハ總テ從前ノ師管區域ニ依リ之ヲ行フモノトス
 明治四十年九月二十日
 陸軍大臣寺內正毅

○陸軍省令第十五號
 陸軍召集條例施行細則中左ノ通改正ス
 明治四十年九月三十日
 陸軍大臣寺內正毅

第一條 召集擔任ノ官吏公吏ハ勳員手簿ヲ作り之ニ充員召集臨時召集及國民兵召集ニ關シ自ラ計
 畫準備シタル事項ヲ記入シ以テ召集實施ニ方リ事務ノ敏活ヲ圖リ且其ノ景況及參考ト爲スヘキ
 事項ヲ記スルノ用ニ供スヘシ
 勳員手簿ニハ前項ニ準シ馬匹徵發事務ニ關スル事項ヲモ附記スヘシ
 第二條中「ニ關係アル」ヲ「擔任ノ」ニ訂正スヘシ「訂正」レ諸官衙ニ關係アルモノハ其ノ異動ヲ同官
 衙ニ報告又ハ通報スヘシニ改ム
 第三條第一項中「及國民兵召集令」ヲ削リ同條第二項中「及」ヲ「同令狀及國民兵召集令狀」ニ改メ「交
 付スル爲」ノ下ニ「並至急ヲ要スル臨時召集令狀」ヲ送達スル爲「ヲ加フ
 第五條第一項中「補充」ヲ「臨時」ニ同條第二項中「普通」ノ封筒ヲモ用井サレモノトス「ヲ」總テ封筒ヲ用
 井サレモノトスニ改ム
 第六條 市町村長ハ其ノ所管外ニ在郷軍人又ハ第一國民兵ノ轉籍シタル者アルトキハ本人ニ關ス

ル在郷軍人名簿第三條又ハ第一國民兵名簿ヲ轉籍地市町村長ニ送付スヘシ但シ第一國民兵ニ係
ルトキハ仍其ノ戰時名簿ヲモ送付スヘシ

町村長ハ在郷軍人名簿ノ副本ヲ作り之ヲ郡長ニ差出スヘシ
第八條中但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ憲兵隊長ノ報告ハ憲兵司令官ヲ經由スヘシ又警視總監地方長官憲兵隊長ハ其ノ報告ト同時
ニ其ノ地所管ノ師團長ニ之ヲ通報スヘシ

第十五條中訂正スヘシヲ訂正シ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシニ改メ左ノ一項ヲ加フ
郡市長ハ在郷軍人中寄留若ハ旅行ノ届書ヲ受ケタルトキハ召集通報人ノ住所氏名ヲ記シタル紙
片ヲ令狀ノ一端ニ貼附シ置キ復歸シタルトキハ之ヲ除去スヘシ

第二十二條中「出發ヲ召集部隊ニ到着ニ改ム」
第二十三條第二項及第三項中「憲兵」ノ下「又ハ」ヲ削ル

第二十四條第一項中「憲兵」ノ下「又ハ」ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
前項ノ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミ市町村長ニ届出テタルトキハ市長ハ聯隊區司令
官町村長ハ郡長ノ通達ニ基キ到着セシムヘキ最終期日迄ニ指定ノ地ニ到着セシメ得ルトキハ其
ノ令狀ノ餘白ニ事由及到着日時ヲ記シ之ヲ本人ニ交付シテ出發セシメ否ヲサルトキハ其ノ出發
ヲ差止メ其ノ旨所在不明又ハ旅行ノ爲期日ヲ經過シテ市市長ハ聯隊區司令官及憲兵警察官吏ニ通知
シ町村長ハ郡長ニ報告シ憲兵警察官吏ニ通知スヘシ

第二十七條 郡長ハ第二十三條第一項ノ報告ヲ受ケタルトキハ令狀ノ發送ヲ終リタル月日時刻及
交付人員並各町村中令狀ノ交付ヲ終リタル最終ノ月日時刻ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二十九條第一項中「人名」ノ下ニ「住所」ヲ加ヘ二十五日ヲ三十日ニ改ム
第三十二條中「憲兵」ノ下「又ハ」ヲ削ル

第三十三條中「憲兵」ノ下「又ハ」ヲ削ル
第三十六條 郡長ハ聯隊區司令官ヨリ復員ニ方リ召集ヲ解除セラレタル者ノ人名ノ通知ヲ受ケタ
ルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第三十七條 市町村長ハ第三十二條及第三十六條ノ通達ニ基キ條例第三十二條ノ規定ニ違背シ
ル者アルトキハ其ノ人名住所及事由ヲ聯隊區司令官及憲兵警察官吏ニ通知スヘシ

第三十九條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ臨時召集令狀ヲ受ケタルトキハ直ニ待命員名簿又ハ充員
召集名簿ニ照較シ該名簿ニ召集部隊及到着期日ヲ記入シ待命員名簿ニ記載シタル者ニ在リテハ
之ヲ充員召集名簿ニ追記シ郡長ハ其ノ令狀ヲ町村長ニ送付シ市長ハ其ノ令狀ヲ各自ニ交付スヘ
シ

充員召集名簿及待命員名簿ニ記載セサル者ヲ召集スル場合ニ於テハ前項ニ依リ充員召集名簿ニ
追記スヘシ

郡市長ハ充員召集名簿ニ記載シタル者ノ臨時召集令狀ヲ受ケタルトキハ其ノ充員召集令狀ヲ直
ニ聯隊區司令官ニ返付スヘシ

第四十條中「補充」ヲ臨時ニ改ム
第四十四條 市町村長ハ國民兵ノ現在員國民兵役ニ轉入スヘキ者及國民軍編入ヲ許可サレタル者
並以上ノ者ニ付健康程度ヲ調査シタル結果ニ基キ國民兵人員表第九條及退役將校名簿第九條ヲ作リ

市長ハ十二月十五日迄ニ聯隊區司令官ニ町村長ハ十一月三十日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

第四十五條中「警視總監地方長官及」ヲ削ル

第四十七條中「追記スヘシ」ヲ「追記シ異動アル毎ニ戰時名簿ヲモ訂正スヘシ」ニ改ム

第五十條 市町村長ハ條例第四十七條ニ依リ國民兵召集名簿第九條ヲ編製シタルトキハ同名

明治四十年九月 省令 陸軍省第十五號

三九九

簿ニ基キ國民兵召集令狀第九條ニ住所元兵種官等級氏名召集部隊及到着地ヲ記入シ部隊毎ニ區分シ保管スヘシ

第五十一條 市長ハ聯隊區司令官、町村長ハ郡長ヨリ國民兵動員令ノ達ヲ受ケタルトキハ其ノ通知ニ係ル到着日數ヲ動員令ニ示ス動員第一日ヨリ起算シテ實際ノ曆日ニ換算シ到着日時ヲ記入スヘキ令狀表面ノ空位ニ記入シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ各自ニ交付スヘシ
汽車汽船ニ乗ルヘキ日時ヲ記入スヘキ令狀ニハ聯隊區司令官ノ通知ニ基キ之ヲ記入スルモノトス

第五十一條ノ二 國民兵召集ニ關シテハ第十六條乃至第十九條第二十二條乃至第二十四條第二十六條第二十七條第三十條乃至第三十八條ヲ準用ス但シ第二十四條第一項ノ屆書ハ聯隊區司令官又ハ郡長ニ差出スヲ要セス又第三十二條中待命員名簿ニ記載スルモノニ在リテハ別ニ名簿ヲ編製シテ記載スヘキモノトス

第五十一條ノ三 條例第四十九條ニ依リ臨時國民兵ヲ召集スル場合ニハ其ノ召集及解除ニ關シ本章及第三章中ノ規定ヲ準用ス

第五十三條中「演習召集」ノ下ニ「又ハ教育召集」ヲ演習」ノ下ニ「又ハ教育」ヲ加フ

第五十六條中「出發」ヲ到着ニ改ム

第六十一條第三項ヲ左ノ如ク改ム
第一項ニ依リ名簿發送後召集ニ應ジタル者アルトキ又ハ傷痍疾病ノ爲演習若ハ教育ニ堪ヘサル者兵役上ノ處分ヲアルトキハ直ニ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通知シ前二項ノ手續ニ依リ取扱フヘシ爲ス者ヲ除ク
第六十五條 郡市長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市長ハ其ノ應召セサル者ノ中屆書ヲ受ケサル者ノ人名ヲ憲兵警察官吏ニ通知スヘシ
第六十六條 町村長ハ前條ノ達ヲ受ケタルトキハ其ノ應召セサル者ノ中屆書ヲ受ケサル者ノ人名

ヲ憲兵警察官吏ニ通知スヘシ

第六十七條中「父母」ノ下ニ「妻子」ヲ加フ

第七十條第一項中「第一項」及同條第二項ヲ削除

第七十一條 郡長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ町村長ニ達スヘシ

第七十二條 削除

第七十三條中「第二十三條」ノ下ニ「第二項」ノ割註ヲ加ヘ「第二十七條」ニ依リ「以下」ヲ「第二十七條」ニ依リ通知スル際其ノ旨ヲ附記スルモノトスニ改ム

第七十八條 補缺召集ニ關シテハ第二十二條第二十三條第三項第四項第二十四條第二十五條第一項第二十六條第二十八條第二十九條第三十條第三十四條第五十六條乃至第五十八條第六十一條第一項第三項第六十二條第六十四條乃至第六十六條ヲ準用ス

第八十一條中「其ノ狀況ヲ悉シテ」ヲ「省略地名及其ノ在郷軍人ノ數等ヲ具シ其ノ狀況ヲ」ニ改ム

第八十六條中「憲兵」ノ下「又ハ」ヲ削除

第八十七條中「憲兵」ノ下「又ハ」ヲ削除

第八十八條中「憲兵」ノ下「又ハ」ヲ削除

第九十二條 簡閱點呼ニ關シテハ第二十六條第三十四條ヲ準用ス

第九十三條 削除

第一樣式記註第五號中「例トス」ヲ「例トシ且動員區分ヲ省略スルコトヲ得」ニ改メ左ノ一號ヲ加フ

六 國民兵ノ動員令ハ本樣式ニ準ス但シ「何師團」ヲ「何師管」トシ「何動員」ノ上ニ「國民兵」ノ三字ヲ記入スルヲ例トス

第三樣式ヲ別記ノ如ク改ム

第四樣式本文中「充員」ノ下ニ「臨時」ヲ加ヘ欄外記註第一號中「補充」ヲ「臨時」ニ改ム

第五樣式及第八樣式ノ一ヲ別記ノ如ク改ム
第八樣式ノ二欄外記註第一號中「二月」ヲ「四月」「二月」ヲ「三月」ニ改ム
第九樣式第十一樣式及第十二樣式ヲ別記ノ如ク改ム

附則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
師團長ハ本令施行後六箇月以内ニ在リテハ本令改正ノ一部ニ付仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
明治三十七年陸軍省令第十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別記)

第三樣式

勅令 號 通		受領時刻	月 日 午 時 分
		受領處	

(五分)曲尺(裏面共)

一 封筒用紙ハ適宜白色又ハ淡藍色ニシテ山形ハ紅色トス
二 勅ノ字ノ下ニ適宜ノ符號ヲ記入スルコトヲ得
第三樣式ノ二

在 郷 軍 人 名 簿			
兵 科	何 兵	族 姓(士)族 本	何 府 縣 何 官 署
入 隊	何 兵 士 官 候 補 年 何 月 何 日 何 隊 何 入 隊	所 任 職 務	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任
現 役	就 役 何 年 何 月 何 日 何 官 署 何 年 何 月 何 日 何 官 署 歸 休	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任
預 備 役	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任
後 備 役	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任
補 充	就 役 何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任
兵 役	教 育 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任	何 年 何 月 何 日 何 官 署 任 職 務 受 任

- 一本名簿ハ美濃紙半葉一名ヲ限リ記載シ役種兵科毎ニ區分シ之ヲ一括シ見出ヲ附シ置ク
- 一本名簿ノ表紙ハ在郷軍人名簿ト記シ左下ニ府縣郡市町村名ヲ記ス
- 寄留地旅行先及召集通報人住所氏名ハ附箋ヲ用カレモトス
- 第一國民兵名簿ハ本名簿ヲ轉用シ在郷軍人名簿ニ準シテ別ニ編製シ該表紙ニハ「第一國民兵名簿」ト記ス
- 補充兵ノ轉職卒ニ在リテハ其ノ職業ヲ欄外上部ニ記載ス
- 區畫及備考欄中「(ハ)記號例ヲ示ス
- 本樣式ハ名簿ノ初ニ添附シ置ク

第五様式

表

(尺曲)分五寸七

受領證

一 何月何日何隊へ召集ノ爲(何隊)召集ノ爲何月何日何集會場へ到着ス(キ)充員(臨時)召集令狀
右受領ス

明治 年 月 日 午前 時 分

何府縣郡市町村

召集通報人其ノ他本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ記名捺印ス(シ)

兵役官(兵種等級補充兵何兵) 何 某

何聯隊區司令部

御 中

四寸五分(曲尺)

充員(臨時)召集令狀

何府縣郡市町村

兵役官(兵種等級) 補充兵何兵) 何 某

右充員(臨時)召集令狀ヲ依テ左記日時到着地ニ差着シ此ノ令狀ヲ以テ當該召集事務所ニ届出ヘシ

但シ何月何日午 何時何分何隊(何港)積ノ汽車(汽船)ニ乗ルヘシ

召集部隊	何 隊
到着日時	何年何月何日午後何時
到着地	何市何區何町何隊(何集會場)

四寸(曲尺)

何聯隊區司令部 印

召集ニ應ズル爲汽車(汽船)ニ乗ルヘキ者ハ指定ノ日時場所以外ニ於テハ乘車(乘船)ノ準備ナキヲ注意ス(シ)

乘車(乘船)切符ヲ求ムルトキ及乘車(乘船)スルトキハ此ノ令狀ヲ係員ニ示ス(シ)

五寸(曲尺)

- 一 用紙ハ適宜ニシテ淡紅色トス
- 二 字及番地ハ必要ニ應ニ記入スルモノトス
- 三 到着地ハ何市何區何町又ハ何府縣何郡何村ノ何ト詳密ニ記載ス(シ)
- 四 但書及備外記註ハ一例ヲ示シタルニ過キス聯隊區司令部ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ記入ス(キ)モノトス
- 五 應召集ノ到着時刻ハ師團長ノ計畫セル應召集交付回数ニ基キ適宜之ヲ定ムルモノトス
- 六 下士適任職務所持者及特等者ハ氏名ノ右肩ニ(下) (時) (分) (未) 等又補充兵ニ在リテハ既教育ナルト未教育ナルトニ依リ(日)(未)ノ符號ヲ盛テスルモノトス
- 七 休職停職將校同相當官准士官ノ令狀ニ限リ發送ノ年月日ヲ記入スルモノトス
- 八 令狀中氏名及召集部隊名到着日時到着地等ハ特大ナル文字ヲ用弁且明瞭ニ記入ス(シ)
- 九 受領者印願ヲ所持セサルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲スモ妨ケナシ
- 十 外國ニ居住又ハ旅行中ノ者ノ到着日時ハ師團長ノ規定ニ基キ之ヲ記入スルモノトス

第五様式

召集旅費金何圓何拾錢

右何所ニ於テ支給ス依テ此ノ令狀ヲ係員ニ示シテ受領ス(シ)代人ヲシテ受領セシムルトキ爲シ得レハ其ノ委任狀中ニ召集部隊及到着地ヲ記入ス(シ)

裏

一 色ハ適宜トス
 二 聯隊區司令部ニ於テハ令狀返函ニ應召員及應召員ニ代リ令狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スルコトヲ要ス

面

第八様式ノ一

何郡市町村第一國民兵人員表

明治四十年九月

何郡市役所町村役場

何 級	年 齢		計	年 齢		計	年 齢		計	年 齢		計
	甲	乙		甲	乙		甲	乙		甲	乙	
歩兵	下	士		下	士		下	士		下	士	
兵	卒	充		卒	充		卒	充		卒	充	
計	甲	乙		甲	乙		甲	乙		甲	乙	
輜重兵	下	士		下	士		下	士		下	士	
衛生部	下	士		下	士		下	士		下	士	
經理部	下	士		下	士		下	士		下	士	
工務部	下	士		下	士		下	士		下	士	
海軍兵	下	士		下	士		下	士		下	士	
合計	甲	乙		甲	乙		甲	乙		甲	乙	

- 一 本表人員ハ元下士以下ノ者ヲ記ス
- 二 本表年齢ノ區畫ニハ月數ヲ記シ各年齢ニ相當スル人員ハ翌年四月一日ヨリ翌々年三月三十一日迄ニ續年ニ連スル者ヲ記ス
- 三 健康程度ノ欄中甲ハ應召後ノ勤務ニ堪ユル者乙ハ傷疾疾病等ノ爲勤務ニ適セザル者ヲ記ス
- 四 國民軍編入許可ノ元下士上等兵看護手ノ人員ハ朱ヲ以テ又元下士兵中特業ヲ有セシ人員ハ符號ヲ附シ相當欄中ニ別記スヘシ
- 五 海軍卒ノ區畫ニハ元雜卒職工ヲ合記ス
- 六 本表人員ニ異動ヲ生スルモ其ノ時時訂正ヲ要セス

第九様式

何郡市町村退役將校名簿

明治四十年九月

何郡市役所町村役場

住 所	年 齡	健康 程度	婚 否	官 名	兵 名
-----	-----	-------	-----	-----	-----

- 一 本表ノ年齢ハ月數ヲ記セス調査スル月ノ年齢ヲ記ス但シ月計算ニ依ル
- 二 健康程度ノ欄中甲ハ召集後ノ勤務ニ堪ユル者乙ハ傷疾疾向等ノ爲勤務ニ適セサル者ヲ記ス
- 三 國民軍編入許可ノ將校同相當官准士官ハ其ノ氏名ノ右肩ニ「志」ノ字ヲ朱書スヘシ

第九様式ノ二

何歳	甲(乙)	歩大尉	何	某
		一、軍醫		

何師管國民兵何動員	到著日數何日	何月何日	何郡(市)何町(村)役場
何隊國民兵召集名簿	到著時刻午前何時		
住 所	年 齡	精 要	元兵科官等級氏 名
			應 否

- 一 此ノ名簿ハ各隊毎ニ之ヲ作り聯隊區司令部ニ於テハ充員召集名簿ニ準シテ適宜ニ編綴シ表紙ヲ附スヘシ
- 二 國民軍編入許可者ハ「志」ノ字ヲ氏名ノ左肩ニ又元下士兵卒中特業ヲ有セン者ハ該特業ノ頭字例ハ(刺)或(水)等ノ符號ヲ氏名ノ右肩ニ朱書スヘシ
- 三 第二國民兵ニ在リテハ元六週間現役兵タリシ者ハ(六)幹部連任證書ヲ有スル者ハ(幹)ノ符號ヲ氏名ノ右肩ニ朱書スヘシ
- 四 摘要ノ區班ニハ名簿編綴後ニ於ケル身上ノ異動及召集後ノ職務上變遷ト爲スヘキ件等ヲ摘記ス

第九様式ノ二

表

(尺曲)分五寸七

面

(尺曲)寸四

國民兵召集令狀

何府縣何郡市町村
元兵種官等級 何 某

右國民兵召集ヲ令セラルル依テ左記日時到着地ニ參着シ此ノ令狀ヲ以テ當該召集事務所ニ届出ヘシ

但シ何月何日午 何時何分何縣(何港)渡(汽船)汽船(汽船)ニ乘ルヘシ

召集部隊 何 隊

到着日時 何年何月何日午前何時

到着地 何府縣何郡市町村(何集令場)

何府縣何郡市町村役場 印

受領証

一何月何日何隊(召集)何隊(召集)爲何月何日何集令場(到着)ヘキ(國民兵召集令狀)右受領ス

明治 年 月 日 午前 時 分

何府縣何郡市町村
元兵種官等級 何 某 印

召集通報人其ノ他本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ記名捺印スヘシ

府縣郡市町村役場
御 中

四寸五分(曲尺)

乘車(乘船)切符ヲ米ムルトキ及乘車(乘船)ムルトキハ此ノ令狀ヲ係員ニ示スヘシ

五寸(曲尺)

- 一 用紙ハ適宜ニシテ淡紅色トス
- 二 字及番地ハ必要ニ應ジ記入スルモノトス
- 三 國民軍編入許可者ハ「志」ノ字ヲ氏名ノ左肩ニ又元下士兵軍中特等ヲ有セシ者ハ該特等ノ頭字例ヘハ(明)(木)等ノ符號ヲ第二國民兵ニ在リテハ元六通開現役兵タリシ者ハ(六)幹部通任證書所持者ハ(幹)ノ符號ヲ氏名ノ右肩ニ應書スヘシ
- 四 到着地ハ何市何區何町又ハ何府縣何郡何村ノ何ト詳密ニ記載スヘシ
- 五 但書及例外記註ハ例ヲ示シタルニ過キス必要ト認メタル事項ハ附隊區司令官ノ指示ニ基キ市町村長ニ於テ之ヲ記入スルモノトス
- 六 應召員ノ到着時刻ハ附隊區司令官ノ指定ニ基キ之ヲ記入スルモノトス
- 七 召集部隊ノ下ニハ必要ニ應ジ其ノ所在地ヲ括弧内ニ記載スヘシ
- 八 受領者印願ヲ所持セサルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲スモ妨ナシ

第九様式ノ三

裏

召集旅費金何圓何拾錢
右何所ニ於テ支給ス依テ此ノ令狀ヲ係員ニ示シテ受領スヘシ代人ヲシテ受領セ
レムルトキ當レ得レハ其ノ委任狀中ニ召集部隊及到着地ヲ記入スヘシ

面

- 一 色ハ適宜トス
- 二 市町村役場ニ於テハ令狀裏面ニ應召員及應召員ニ代リ令狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スルコトヲ得

第十一様式

受領證

一 何月何日ヨリ何日間何隊(召集)演習(教育)召集令狀
右受領ス

明治 年 月 日 午前 時 分

表

何府縣市町村
召集通報人其ノ他本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ記名捺印スヘシ
何聯隊區司令部
御中
某 某

演習(教育)召集令狀

何府縣市町村

兵役官(兵種等) 兵種等(補充兵) 何 某

右演習(教育)ノ爲何日間召集ヲ令セラル候テ左記日時到着地ニ参着
シ此ノ令狀ヲ以テ當該召集事務所ニ届出ヘシ

(尺曲)寸四

召集部隊	何 隊
到着日時	何年何月何日午後何時
到着地	何市何區何町何隊

何聯隊區司令部 印

四寸五分(曲尺)

五寸(曲尺)

面

(尺曲)分五寸七

- 第十一様式
- 一 字及番地ハ必要ニ應シ記入スルモノトス
 - 二 到着地ハ何市何區何町又ハ何府縣何町何村ノ何ト詳密ニ記載スヘシ
 - 三 受領者印願ヲ所持セサルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲スモ妨ナシ

召集旅費金何圓何拾錢

右何所ニ於テ支給ス依テ此ノ令狀ヲ係員ニ示シテ受領スヘシ代人ヲシテ受領セ
シムルトキ爲シ得レハ其ノ委任狀中ニ召集部隊及到着地ヲ記入スヘシ

裏

聯隊區司令部ニ於テハ應召員及應召員ニ代リ合狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スルコトヲ得
第十二様式

面

受領證

一點呼令狀
右受領ス

明治 年 月 日 午前 時 分 後

兵役官(兵種等) 補充兵(何兵) 何 某
召集通報人其ノ他本人ニ代リ受領シタル者ハ左ニ記名捺印スヘシ

何聯隊區司令部

御 中

點呼令狀

何府縣市町村

分五寸七

(尺曲)

(尺曲)寸四

右簡點呼ノ尺曲合フ合セラル俟テ左記日時對著地ニ赴者シ兵ノ合
狀ヲ以テ簡點呼執行官ニ届出ヘシ

到 著 日 時 何年何月何日午前何時

到 著 地 何市何區何町村ノ何所

何聯隊區司令部印

四寸五分(曲尺)

五寸(曲尺)

- 一 字及番地ハ必要ニ應シ記入スルモノトス
- 二 到著地ハ何市何區何町又ハ何府縣何郡何町村ノ何所ト詳密ニ記載スヘシ
- 三 本令狀ノ裏面ニハ聯隊區司令部ニ於テ點呼委員會者及之ニ代リ合狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スルコトヲ得
- 四 受領者印願ヲ所持セサルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲スモ妨ナシ

〔參照〕

陸軍省令第二十九號陸軍召集條例施行細則(明治三十二年十月十一日)抄録
 第一條 召集ニ關係アル官吏ハ勳員手續ヲ作リ之ニ充員召集補充召集及國民兵召集ニ關シ自ラ計畫準備シタル事項ノ
 要領並召集實施ニ方リ其ノ景況及參考ト爲スヘキ事項ノ要領ヲ記シ其ノ他前記諸法ニ依リ召集準備事項ニ關スル事項ヲ
 毛附記スヘシ
 第二條 召集ニ關係アル官吏公吏ニ於テ召集ニ關シ保管スル諸名簿及諸表ハ其ノ要領ヲ知リタル等ニ訂正スヘシ

第三條 勳員令第一及國民兵召集令ノ通過ハ至急官報ノ電信、使了等確實迅速ノ方法ヲ用ルモノトス。其ノ使了ヲ用ルル
トキハ一時間ニ一里半ノ行進速度ヲ以テ基準トス。

第五條 充員召集令狀ヲ郡長ヨリ町村長ニ送付シ及市町村長ヨリ各自ニ交付スル爲ニ用ルル使了行進速度ノ基準モ前項ニ依ル
シ其ノ文符ヲ受領シタル者ハ封筒上ニ設ケタル地位ニ受領事柄ヲ記入シ捺印ノ上返付スヘシ但シ本人ニ代テ受領シタル
者ハ其ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ。

第六條 市町村長ヨリ各自ニ交付スルニハ普通ノ封筒ヲモ用ルルモノトス。

第七條 市町村長ハ其ノ所管外ニ在郷軍人又ハ第一國民兵ノ籍籍シタル者アルトキハ本人ニ關シ在郷軍人名簿又ハ第一國
民兵名簿ニ記載セル事項ヲ轉轄地市町村長ニ通知スヘシ但シ第一國民
第八條 師團長警視總監地方官憲兵司令官及憲兵隊長ハ條例第四條ノ檢閲ヲ爲シタルトキ及爲サシメタルトキハ其ノ狀
況ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ但シ憲兵隊長ノ報告ハ憲兵司令官ヲ經由スヘシ。

第十五條 郡市長ハ在郷軍人死亡轉籍其ノ他異動ノ屆書ヲ受ケタルトキハ充員召集令狀ヲ訂正シ其ノ屬書ニ令
狀ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ送付スヘシ但シ管内ニ於テ轉籍シタル者又ハ氏名ヲ變更シタル者ニ在テハ名簿及令狀ヲ訂正ス
ヘシ。

第二十二條 郡長ハ聯隊區司令官ノ通知ニ基キ傷病疾病其ノ他ノ事故ニ因リ應召スルコト能ハサル者事故止ミ町村長ニ屬
出テタル場合ニ於テ之ヲ出發セシムヘキ最終日ヲ町村長ニ送付スヘシ。

第二十四條 市町村長ハ傷病疾病所在不明旅行等ノ爲應召スルコト能ハサル者ノ屬書及令狀ヲ受ケタルトキハ調査ノ
上其ノ屆書ハ毎日之ヲ取極メ市長ハ聯隊區司令官ニ町村長ハ郡長ニ送付シ令狀ハ之ヲ保管スヘシ又其ノ人名住所及事故
ヲ應召又ハ警察官吏ニ通知スヘシ。

前項ノ應召スルコト能ハサル者其ノ事故止ミ市町村長ニ届出テタルトキハ市長ハ聯隊區司令官ノ町村長ハ郡長ノ通知ニ
基キ出發セシムヘキ前日付ナルトキハ其ノ令狀ノ餘白ニ事由及出發日時ヲ記シ之ヲ本人ニ交付シテ出發セシメ期日俟テ
ルトキハ其ノ出發ヲ禁止シ其ノ旨ヲ市長ハ聯隊區司令官及憲兵又ハ警察官吏ニ通知シ町村長ハ郡長ニ報告シ憲兵又ハ警
察官吏ニ通知スヘシ。

第二十七條 郡長ハ第二十三條第一項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ一表ニ作り之ニ令狀ノ發送ヲ終リタル月日時刻及町
村長ノ令狀ヲ受領シタル月日時刻ヲ記入シ聯隊區司令官ニ送付スヘシ。

第二十九條 郡長ハ第二十五條ノ令狀ヲ受ケタルトキハ其ノ人名及事由ヲ待命員名簿ニ記入シ其ノ令狀ハ召集期日後二十
五日以内ニ聯隊區司令官ニ送付スヘシ。

第三十六條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ復員ニ方リ召集ノ解除セサル者セシメタル場合ハ其ノ人名及事由又ハ召集中郡

第三十七條 町村長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ應召又ハ警察官吏ニ通知スヘシ。

第三十九條 郡市長ハ聯隊區司令官ヨリ補充召集令狀ヲ受ケタルトキハ直ニ待命員名簿ニ照映シ該名簿ニ召集解除及調査
期日ヲ記入シ郡長ハ其ノ令狀ヲ町村長ニ送付シ市長ハ其ノ令狀ヲ各自ニ交付スヘシ。

待命員名簿ニ記載セサル者ヲ召集スル場合ニ於テハ前項ニ依リ該名簿ニ記載スヘシ。

第四十四條 市町村長ハ國民兵ノ現在國民兵役ニ轉入スヘキ者及國民軍編入ヲ許可シタル者ニ基キ國民兵人員表及
及退役將校名簿ニ依リ市町村長ハ十二月十五日迄ニ警視總監地方官及聯隊區司令官ニ町村長ハ十一月三十日迄ニ郡長
ニ送付スヘシ。

第四十五條 郡長ハ前條ノ人員表及名簿ニ基キ國民兵人員表及退役將校名簿ヲ作り十二月十五日迄ニ警視總監地方官及
聯隊區司令官ニ送付スヘシ。

第四十七條 市町村長ハ第一國民兵役ニ轉入シタル者ノ職時名簿ヲ受ケタルトキハ之ニ依テ其ノ人名及其ノ他ノ事項ヲ第
一國民兵名簿ニ追記スヘシ。

第五十條 市町村長ハ應召員ヲ其ノ集合場ニ引導スルニ方リ應召員ノ人名書退役將校名簿第一國民兵名簿及應召員ノ職時
名簿ヲ携帶スヘシ。

第五十一條 警視總監地方官ハ師團長ヨリ國民兵召集ノ通知ヲ受ケタルトキハ所定ノ國民軍ヲ成立セシムル爲第一條ニ
依リ計畫準備シタル事項ノ外隨處應ニ處置ヲ爲スヘシ。

第五十三條 師團長ハ師管内ニ演習召集ヲ爲スヘキ部隊無キ者アルトキハ演習ヲ爲サシメントスル部隊所管ノ師團長ニ依
據シテ召集日時等ヲ定メ前條第一項ノ例ニ依リ聯隊區司令官ニ送付スヘシ部隊所管ノ師團長ハ之ヲ部隊長ニ送付スヘシ。

第六十一條 召集部隊長ハ召集期日ニ至レハ召集事務所開設シ應召員到着アルトキハ直ニ召集檢査ヲ行ヒ召集名簿ニ應
召不應召其ノ他ノ事故ヲ記シ之ヲ召集期日後三日以内ニ聯隊區司令官ニ宛送スヘシ。

傷病疾病ニ因リ演習又ハ教育ニ堪ヘサル者ハ軍隊手續ニ其ノ旨ヲ記シテ歸郷セシメ召集期日後三日以内ニ其ノ歸郷證書
第一項ニ依リ名簿發送後召集ニ應シタル者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ聯隊區司令官ニ通知スヘシ其ノ召集ニ應シタル者ニ
就テハ前二項ノ手續ニ依ルヘシ。

第六十五條 郡市長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ郡長ハ之ヲ町村長ニ送付シ市長ハ之ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ。

第六十六條 町村長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通知スヘシ。

第六十七條 召集部隊長ハ召集中ノ者ニシテ父母ノ疾病危篤又ハ死亡其ノ他止ムを得サル事故ノ爲歸省休暇ヲ許可シタル

著アルトキハ直ニ其ノ人名事由及休暇日ヲ其ノ本籍地所管ノ縣區司官及郡市長ニ通知スヘシ
 第七十條 縣區司官ハ前條第一項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ
 前條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキ亦同シ
 第七十一條 郡市長ハ前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ町市長ニ通知シ市及ハ之ヲ憲兵又ハ警察官更ニ通知スヘシ
 第七十二條 町市長ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ憲兵又ハ警察官更ニ通知スヘシ
 第七十三條 演習召集教育召集ニ關シテハ第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第一項第二十六條乃至第二十八條
 第二十九條第一項及第三十四條ヲ準用ス但シ郡長ハ令狀ヲ町市長ニ移送シタル場合ニ於テハ第二十七條ニ依リ送付スル
 表中ニ其ノ旨ヲ附記シ市町市長ノ第二十三條第二項ニ依リ令狀ヲ交付シタル人名及其ノ召集部隊ヲ通知スルニハ召集日
 數ヲ附記スルモトス
 第七十八條 補缺召集ニ關シテハ第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第一項第二十六條乃至第二十八條第二十九
 條第一項第三十四條第五十六條乃至第五十八條第六十一條第一項第三項第六十二條第六十四條乃至第六十六條及第七十
 四條ヲ準用ス但シ郡長ハ令狀ヲ町市長ニ移送シタル場合ニ於テハ第二十七條ニ依リ送付スル表中ニ其ノ旨ヲ附記スルモ
 トス
 第八十一條 師團長ハ前條點呼ヲ省略スル場合ニ於テハ其ノ狀況ヲ悉ク陸軍大臣ニ報告スヘシ
 第九十二條 前條點呼ニ關シテハ第二十三條第一項第二十六條第二十七條第三十四條及第七十四條ヲ準用ス
 第九十三條 屯田兵下士兵卒ノ演習召集兩點呼ニ關シテハ第七師團長本則ニ準シ應宜其ノ方法ヲ規定シ陸軍大臣ニ報告
 スヘシ
 明治三十年四月四日陸軍省令第十四號ハ臨時召集ニ關スル件ナリ

○司法省令第二十七號

名古屋地方裁判所管内名古屋區裁判所熱田出張所ノ管轄ニ屬スル商業登記並法人及夫婦財產契約
 登記ノ事務ハ名古屋區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ
 本令ハ明治四十年九月二十五日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十年九月十九日
 司法大臣松田正久

○司法省令第二十八號

盛岡地方裁判所管内磐井區裁判所氷上出張所ヲ磐井區裁判所高田出張所ト改稱ス
 本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十年九月十九日
 司法大臣松田正久

○司法省令第二十九號

新潟地方裁判所外三地方裁判所管内ニ左記甲號表ニ掲グル區裁判所出張所ヲ置ク
 明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中乙號表ノ通改正ス
 本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十年九月十九日
 司法大臣松田正久

甲號

名	稱	位	置
新潟	三條區裁判所吉田出張所	越後國西蒲原郡吉田村	
安波津	木本區裁判所崎殿出張所	紀伊國南牟婁郡崎殿村	
福岡	飯塚區裁判所植木出張所	筑前國葦手郡植木町	
札幌	旭川區裁判所深川出張所	石狩國雨龍郡深川村	

乙號

地方裁判所	區	出張所	管轄
新潟	三條	吉田	西蒲原郡ノ内 卷町會根村 升瀨村 越野尾村 間瀬村 角田村 雙澤村 和納村 赤塚村 峰岡村 浦渡村 岩室村 道上村 漆山村 中野小區
		鶴後	西蒲原郡ノ内 吉田村 細庄村 松長村 米納津村

安濃津		福岡		札幌	
木本		飯塚		旭川	
鷺股	上野	直方	植木	深川	瀧川
紀伊	紀伊	筑前	筑前	石狩	石狩
南本妻郡ノ内	南本妻郡ノ内	鞍手郡ノ内	鞍手郡ノ内	空知郡ノ内	空知郡ノ内
木本町 泊村 南輪内村 北輪内村 菊取村 新鹿村 有井村 神志山村 市木村 神川村 五瀬村 飛鳥村	尾呂志村 入風村 西山村	鞍手郡ノ内 鴨股村 赤田村 阿田和村 御船村 相野谷村 上川村	直方町 頓野村 新入村 香井田村 勝野村 福地村 下境村	瀧川村 砂川村	瀧川村 砂川村
		植木町 木屋敷町 古月村 西川村 劍村		深川村 一巳村 秩父別村 北龍村	

○司法省令第三十號
 樺太地方裁判所管内樺太島「コルサコフ」ニウラシミロフカ區裁判所コロサコフ出張所ヲ置ク
 明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中樺太地方裁判所轄ノ次ニ左表ノ一欄ヲ追加ス

本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年九月十九日

司法大臣松田正久

地方裁判所	區裁判所	出張所	市	町	村
樺太	ウラシミ ロフカ	コルサコフ	樺太	樺太	樺太
			本島南端「シラヌシ」岬ヨリ「モノコ」山「ウインヂス」山「ベルニ セツト」山「スパンベル」山「エスツル」山ヲ連繫スル山脈ヲ越セ 國境ニ至ル一線ヲ境界トシ其ノ以東ノ内中央「ミツリ」ロフカ東 海岸「トシナイチヤ」西海岸「タラントマリ」ノ各北端ヲ連繫スル 一線ヲ境界トシ其ノ以北	本島南端「シラヌシ」岬ヨリ「モノコ」山「ウインヂス」山「ベルニ セツト」山「スパンベル」山「エスツル」山ヲ連繫スル山脈ヲ越セ 國境ニ至ル一線ヲ境界トシ其ノ以東ノ内中央「ミツリ」ロフカ東 海岸「トシナイチヤ」西海岸「タラントマリ」ノ各北端ヲ連繫スル 一線ヲ境界トシ其ノ以南	本島南端「シラヌシ」岬ヨリ「モノコ」山「ウインヂス」山「ベルニ セツト」山「スパンベル」山「エスツル」山ヲ連繫スル山脈ヲ越セ 國境ニ至ル一線ヲ境界トシ其ノ以西

○文部省令第二十七號
 實業學校諸規程中左ノ通改正ス

明治四十年九月二十一日

文部大臣牧野伸顯

明治三十二年文部省令第八號工業學校規程第四條、同年文部省令第九號農業學校規程第五條、同年
 文部省令第十號商業學校規程第五條、同年文部省令第十一號商船學校規程第五條及同二十四年文

部省令第十六號水産學校規程第四條中「四箇年」ヲ「二箇年」ニ改ム

明治三十二年文部省令第八號工業學校規程第九條 同年文部省令第九號農學學校規程第十四條 同

年文部省令第十號商業學校規程第十四條 同年文部省令第十一號商船學校規程第十四條 同三十四

年文部省令第十六號水産學校規程第九條中「高等小學校第二學年修了」ヲ「尋常小學校卒業」ニ改ム

明治三十二年文部省令第十號商業學校規程第九條 同年文部省令第十一號商船學校規程第九條中「十

年」ヲ「十二年」ニ改メ「修業年限四箇年」ヲ削ル

明治三十二年文部省令第九號農業學校規程第九條中「修業年限四箇年」ヲ削ル

明治三十五年文部省令第一號實業補習學校規程第五條中「十年」ヲ「十二年」ニ改メ「學齡ヲ過キタル

者」ヲ「就學ノ義務ナキ者」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

工業學校、甲種農業學校、水産學校、本科、甲種商業學校、甲種商船學校ニ於ケル修業年限四箇年ノ尋常
小學校ノ課程ヲ卒業シタル者ノ入學ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
徒弟學校、乙種農業學校、乙種商業學校及乙種商船學校ニ於テハ本令施行後三箇年間ニ限リ修業年
限四箇年ノ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

〔參照〕

文部省令第八號工業學校規程(明治三十二年二月二十五日)抄錄

第四條 工業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但外
國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第九條 理科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムハシ

文部省令第九號農業學校規程(明治三十二年二月二十五日)抄錄
第五條 甲種農業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス

但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第九條 乙種農業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムハシ

文部省令第十號商業學校規程(明治三十二年二月二十五日)抄錄

第五條 甲種商業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス

但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第九條 乙種商業學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十一年以上學力修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムハシ

第十四條 理科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムハシ

文部省令第十一號商船學校規程(明治三十二年二月二十五日)抄錄

第五條 甲種商船學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス

但外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第九條 乙種商船學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十一年以上學力修業年限四箇年ノ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムハシ

第十四條 理科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムハシ

文部省令第十六號水産學校規程(明治三十四年十二月二十八日)抄錄

第四條 水産學校本科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十四年以上學力修業年限四箇年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス

第九條 理科ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムハシ

文部省令第一號實業補習學校規程(明治三十五年一月十五日)抄錄

第五條 實業補習學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齢十一年以上學力尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムハシ但レ尋常小學校ヲ
卒業セサルモ學齡ヲ過キタル者ニ限リ特ニ入學セシムルコトヲ得

○文部省令第二十八號

明治三十二年勅令第二十九號實業學校令第十五條ニ基キ公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程
ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十年九月二十一日 文部大臣 牧野伸顯

公立私立實業學校教員資格ニ關スル規程

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ實業學校ノ教員タルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者
 二 帝國大學分科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者
 三 文部大臣ノ指定シタル者
 四 文部大臣ノ認可シタル者
 第二條 地方長官ニ於テ認可シタル者ハ其ノ道府縣ニ於ケル實業補習學校ノ教員タルコトヲ得
 第三條 第一條又ハ第二條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ其ノ從事セントスル學校ノ種類、程度、學科
 並ニ擔任ノ學科目ヲ記載シタル願書ニ履歷書ヲ添ヘ當該官廳ニ申請スヘシ
 第四條 特別ノ必要アルトキハ公立實業學校ニ在リテハ地方長官、私立實業學校ニ在リテハ設立
 者ニ於テ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ヲ教員トシテ採用スルコトヲ得
 前項ニ依リ採用シタル教員ハ公立實業學校ニ在リテハ教諭、助教諭、訓導又ハ准訓導ト稱スルコ
 トヲ得ス
 第五條 徒弟學校及實業補習學校以外ノ實業學校ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員ノ數之ヲ有
 スル教員ノ二分ノ一ヲ超過スル場合及徒弟學校ニ於テ第一條ノ資格ヲ有セサル教員ノ數之ヲ有
 スル教員ニ超過スル場合ニハ公立實業學校ニ在リテハ地方長官、私立實業學校ニ在リテハ設立者
 ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
 前項ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ當該學校現在教員ノ氏名、履歷、資格、從事ノ學科、擔任ノ學
 科目及詳細ナル事由ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ
 實業補習學校ニ於テ前條第一項ニ依リ採用スル教員數ノ制限ニ關シテハ地方長官ノ定ムル所ニ
 依ルヘシ
 第六條 本令ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘク地方長官ハ其ノ意見ヲ具

スヘシ
 第七條 本令ハ實業專門學校ニ關シテハ之ヲ適用セス

附 則

第八條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

第九條 本令公布ノ際現ニ公立實業學校ノ教諭、助教諭又ハ訓導ノ職ニ在リテ第一條又ハ第二條
 ノ資格ヲ有セサル者ニ對シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

第十條 本令公布ノ際現ニ實業學校ノ教員タル者ハ第一條又ハ第二條ノ資格ヲ有セサルモ引續キ
 同一學校ニ在職スル場合ニ限り本令施行ノ日ヨリ一箇年間第五條ノ關係ニ於テ第一條又ハ第二
 條ノ資格ヲ有スル教員ノ數ニ算入ス

○文部省令第二十九號

明治十六年太政官布達第三十四號醫術開業試驗規則中左ノ通改正ス

明治四十年九月二十六日

文部大臣 牧野伸顯

第五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但外國ノ醫師免許證書ヲ有スル外國人ニ限り前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得

○文部省令第三十號

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十年九月二十六日

文部大臣 牧野伸顯

市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程

第一條 明治四十年勅令第二百十七號第二條ニ依リ北海道地方費及府縣ニ於テ市町村立小學校教

員住宅費ニ補助スル場合ハ本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 住宅費補助ハ教員住宅ノ新築又ハ改築ノ場合ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ

對シテ之ヲ爲スモノトス

前項補助ノ歩合及條件並補助金交付ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 住宅費補助金ノ殘餘ハ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸資金ニ編入スヘレ

第四條 本令中市町村、町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用ス

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

○農商務省令第十八號

明治四十年農商務省令第十四號中左ノ通改正ス

明治四十年九月二日

「沖繩縣知事」ノ下ニ「日本大博覽會會長」ノ八字ヲ加フ

農商務大臣松岡康毅

〔參照〕

明治四十年五月二日農商務省令第十四號ハ不動産登記ノ場託ニ就キ官定指定ノ件ナリ

○逓信省令第三十九號

明治三十三年九月逓信省令第四十六號電報規則中左ノ通改正シ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年九月十六日

逓信大臣山縣伊三郎

第四十六條中「之ヲ錢位ニ切上ク」之ヲ切捨ツニ改ム

第四十七條中「其ノ納付人ノ請求ニヨリ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ」ヲ「其ノ納付人ノ請求ニ據リ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手、通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付ス」ニ改ム

〔參照〕

逓信省令第四十六號電報規則(明治三十三年九月二日)抄録

第四十六條 電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上ク

第四十七條 左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

○逓信省令第四十號

明治三十六年十一月逓信省令第五十三號電信局所ノ電報取扱時間及其時間外電報取扱規則中左ノ通改正シ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年九月十六日

逓信大臣山縣伊三郎

第九條中「納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス」ヲ「納付人ノ請求ニ據リ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手、通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付ス」ニ改ム

〔參照〕

逓信省令第五十三號電信局所ノ電報取扱時間及其時間外電報取扱規則(明治三十六年十一月二十八日)抄録

第九條 時間外取扱料ヲ納付シタル電報ニシテ時間外ノ取扱ヲ爲サザリトキハ之ニ對スル時間外取扱料ハ納付人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

○逓信省令第四十一號

明治三十三年九月逓信省令第五十一號官廳用電信電話規程第一條第二號ノ電話ヲ施設スル府縣カ其ノ電話線ヲ逓信省ニ無償引渡シタル場合ニ於テ該府縣ノ府縣費支辨ニ係ル加入者カ其ノ相互間ニ該電話線ニ依リ明治二十九年六月逓信省令第二十五號電話規則ノ加入區域外通話ヲ爲ストキハ引渡後當分ノ内其ノ電話料ヲ半減ス

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年九月十八日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第四十二號

外國郵便規則左ノ通相定ム

明治四十年九月二十一日

逓信大臣山縣伊三郎

外國郵便規則

第一章 郵便物

第一節 總則

第一條 羅馬締結萬國郵便條約、羅馬締結價格表記書狀及箱物交換約定又ハ特別ノ條約ニ依ル通
常郵便物並羅馬締結小包郵便物交換條約又ハ特別ノ條約ニ依ル小包郵便物ハ之ヲ外國郵便物ト
總稱シ郵便局ニ於テ之ヲ取扱フ但シ特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル局ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 左記ノ物品ヲ外國郵便禁制品トス

一、內國郵便禁制品

二、關稅其ノ他ニ關スル法令ニ依リ輸出入ヲ禁スル物品

第三條 郵便ニ關スル條約ニ依リ郵送ヲ許ササル物品ニシテ外國ニ於テ定ムルモノハ之ヲ告示ス

第四條 外國郵便物ノ寸尺、容積及重量ノ制限ヲ超過シ其ノ他成規ニ違反シテ差出シタル郵便物

ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ差出人ニ還付ス此ノ場合ニ於テハ何等郵便料ヲ徵收セス

第五條 外國郵便ニ關スル料金ハ之ヲ告示ス

第六條 外國郵便ニ關スル料金ノ未納又ハ不足カ郵便局ノ過失ニ因リタルトキハ其ノ不納額ハ之

ヲ徵收セス

第七條 帝國郵便局ニ於テ徵收シタル外國郵便ニ關スル料金ニシテ左ニ記載スルモノハ其ノ納付

人ノ請求ニ依リ郵便切手ヲ以テ之ヲ還付ス

一、郵便局ノ過失ニ因リ徵收シタル料金

二、特殊取扱ノ請求アリタル郵便物ニシテ郵便局ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於
ケル特殊取扱ノ料金

三、郵便局ノ過失ニ因リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ名宛人ニ到達シタル別
配達取扱ノ料金

四、名宛變更、取戻又ハ代金引換金額ノ取消若ハ代金引換金額ノ低減ノ請求アリタル郵便物ニ
シテ郵便局ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル其ノ取扱ノ料金

五、亡失ニ因リ損害賠償ヲ爲スヘキ場合ノ書留若ハ價格表記通常郵便物又ハ小包郵便物ノ料金
但シ價格表記料ヲ除ク

六、特ニ條約ニ規定スル場合ニ於ケル料金

第八條 前條ノ料金還付ノ請求ハ第一號乃至第四號及第六號ニ付テハ料金納付ノ日ヨリ六月内ニ

第五號ニ付テハ損害賠償決定ノ日ヨリ三十日内ニ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ

第九條 料金納付用ノ郵便切手ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ郵便物ニ貼附スヘシ

第十條 外國郵便ニ關スル料金納付ノ爲ニ用井タル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ票紙ハ

郵便局ニ於テ日附印ヲ以テ之ヲ消印ス

第十一條 帝國ト返信切手券ヲ交換スル諸國ハ之ヲ告示ス

返信切手券ノ代價ハ一枚ニ付金十二錢トス

返信切手券ハ賣捌ノ際日附印ヲ押捺ス

第十二條 外國郵便物ハ長途ノ遞送ニ耐ユヘキ堅固ノ包裝ヲ爲シ且其ノ品質及形狀ニ應シテ危險

損害又ハ惡臭ヲ防止スルニ足ルヘキ適當ノ包裝ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 通常郵便物

第十三條 書狀トハ全部又ハ一部ヲ筆書シタルト印刷シタルトニ拘ラス現實的且對人的通信ヲ記

職シタル文書ニシテ郵便葉書ニ依ラサルモノヲ云フ

第十四條 書狀ノ寸尺容積及重量ニ付テハ何等ノ制限ナシ

第十五條 外國ニ發送スル郵便葉書ハ政府發行ノ萬國郵便聯合葉書又ハ同往復葉書ヲ用ウヘシ

政府發行ノ内國郵便葉書又ハ羅馬締結萬國郵便條約施行規則第十六條ニ定ムル條件ヲ具備スル私製葉書ハ郵便葉書トシテ之ヲ外國ニ發送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ政府發行ノ内國郵便葉書ノ料額ハ之ヲ有效トス

第十六條 内國郵便用ノ封緘葉書ヲ外國郵便ニ差出ストキハ書狀トシテ之ヲ取扱フ此ノ場合ニ於テハ前條第三項ノ規定ヲ準用ス

第十七條 往復葉書ニ依ル返信ニ付テハ郵便規則第十六條ノ規定ヲ準用ス

第十八條 郵便葉書ニシテ其ノ料額印面ノ汚斑シタルモノハ料金未納ノ郵便葉書トシテ之ヲ取扱フ

第十九條 帝國ト價格表記箱物ヲ交換スル諸國ハ之ヲ告示ス

第二十條 價格表記書狀又ハ箱物ノ受授ニ關シテハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 羅馬締結價格表記書狀及箱物交換約定第一條第三項ニ依ル價格表記金額ノ制限ハ一萬法トス

外國宛價格表記書狀又ハ箱物ノ價格表記金額ノ制限ハ之ヲ告示ス

第二十二條 價格表記書狀又ハ箱物ノ價格表記金額ニシテ帝國貨幣ニテ記載シアルトキハ引受郵便局ニ於テ引受日ノ外國爲替金換算割合ニ依リ之ヲ佛貨ニ換算ス

第三節 小包郵便物

第二十三條 羅馬締結小包郵便物交換條約ニ依ル取扱困難ノ小包郵便物ハ之ヲ取扱ハス

第二十四條 小包郵便物ニハ其ノ名宛面ニ羅馬條約ニ依リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ聯合小

包特別ノ條約ニ依リ差出ス小包郵便物ノ場合ニハ「英國小包」、「加那太小包」、「米國小包」、「澳洲小包」、「香港小包」等ノ名稱ヲ記載スヘシ

第二十五條 小包郵便物ノ受授ニ關シテハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 羅馬條約ニ依ル小包郵便物ノ差出人ハ送狀ノ通知券ニ其ノ小包郵便物ニ關スル通信文ヲ記載スルコトヲ得

第二十七條 米國トノ條約ニ依ル小包郵便物ニシテ米國ヨリ返送セラレタルモノノ還付ニ付テハ所定ノ料金ヲ徴收ス

第二章 郵便物ノ特殊取扱

第一節 總則

第二十八條 外國宛郵便物ノ特殊取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ

一、書留料 郵便物一箇毎ニ 金十錢

二、到達證料 郵便物一箇毎ニ 金五錢

三、別配達料 通常郵便物一箇毎ニ 金十二錢
小包郵便物一箇毎ニ 金二十錢

四、代金引換料 小包郵便物一箇毎ニ 代金引換金額金八圓
又ハ其ノ増額毎ニ金八錢

第二十九條 外國來別配達郵便物ニ付テハ左ノ料金ヲ名宛人ヨリ徴收ス

通常郵便物一箇毎ニ 配達局ヨリ陸上ニ里ヲ超過シ三里ヲ超過セザルトキ 金二十三錢

三里ヲ超過シタルトキハ別ニ一里迄毎ニ 配達局ヨリ陸上ニ里ヲ超過シ三里ヲ超過セザルトキ 金十五錢

解船ニ依ル場合ハ別ニ解船料ノ實費額 三里ヲ超過シタルトキハ別ニ一里迄毎ニ 金十五錢

解船ニ依ル場合ハ別ニ解船料ノ實費額 三里ヲ超過シタルトキ 金十五錢

小包郵便物一箇毎ニ 解船ニ依ル場合ハ別ニ解船料ノ實費額

前項ノ場合ニ於テハ郵便規則第七十二條ノ二ノ規定ヲ準用ス

第三十條 左記ノ郵便物ニ付テハ差出人ニ於テ各其ノ下ニ記載スル指定ヲ名宛面ニ記載スヘシ

第三十條 左記ノ郵便物ニ付テハ差出人ニ於テ各其ノ下ニ記載スル指定ヲ名宛面ニ記載スヘシ

第三十條 左記ノ郵便物ニ付テハ差出人ニ於テ各其ノ下ニ記載スル指定ヲ名宛面ニ記載スヘシ

第三十條 左記ノ郵便物ニ付テハ差出人ニ於テ各其ノ下ニ記載スル指定ヲ名宛面ニ記載スヘシ

第三十條 左記ノ郵便物ニ付テハ差出人ニ於テ各其ノ下ニ記載スル指定ヲ名宛面ニ記載スヘシ

小包郵便物ニシテ送狀ノ添附ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ送狀ニモ記入スヘシ

- 一、書留郵便物 書留
- 二、到達證請求郵便物 到達證
- 三、別配達郵便物 別配達
- 四、留置郵便物 何局留置
- 五、價格表記郵便物 價格表記
- 六、代金引換郵便物 代金引換

第二節 通常郵便物

第三十一條 書留通常郵便物ノ受授ニ付テハ郵便規則第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 外國來到達證請求通常郵便物ニ付テハ配達ノ際到達證ニ名宛人ノ受領印ヲ求ムハシ郵便物配達ノ後到達證ノ請求アル場合ニ於テ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ名宛人ノ受領印ヲ求ムル能ハサルトキハ配達郵便局其ノ配達ヲ證明ス

第三十三條 到達證ノ請求ナキ書留又ハ價格表記通常郵便物ノ差出人ハ郵便物一箇毎ニ金五錢ヲ納付シテ該郵便物ノ踪跡取調ヲ引受郵便局ニ請求スルコトヲ得

第三十四條 普通通常郵便物ノ差出人又ハ名宛人ハ踪跡ノ不明ヲ證明シ得ル書類ヲ呈示シ別ニ料金ヲ納付スルコトナク該郵便物ノ踪跡取調ヲ郵便局ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ該郵便物ヲ郵便ニ差出シタル日ヨリ一年内ニ限リ之ヲ受理ス

第三十五條 帝國ト別配達ノ普通、書留又ハ價格表記通常郵便物ヲ交換スル諸國ハ之ヲ告示ス

第三十六條 代金引換又ハ稅付ノ外國來別配達通常郵便物ニ付テハ其ノ到着通知書ノ別配達ヲ爲ス

第三十七條 別配達ノ通常郵便物ニシテ配達ノ際名宛人不在其ノ他ノ事由ニ因リ交付スルコト能

ハサルトキハ別配達ノ效力ヲ失フ

第三十八條 通常郵便物ハ之ヲ留置ト爲スコトヲ得此ノ郵便物ハ差出人ノ指定スル郵便局ニ留置キ名宛人ノ出頭ヲ待テ之ヲ交付ス

第三十九條 外國來留置通常郵便物ノ留置期間ハ六十日トス但シ船船乗組人、旅行者等ニ宛テタル郵便物ニシテ交付ノ見込アルモノニ付テハ其ノ期間ハ三十日以内ヲ延長ス

代金引換又ハ稅付ノモノニ在リテハ其ノ代金引換又ハ稅金納付ノ期間ヲ以テ留置期間トス

第四十條 帝國ト代金引換、書留又ハ價格表記通常郵便物ヲ交換スル諸國ハ之ヲ告示ス

第四十一條 外國來代金引換通常郵便物ノ代金引換金額ノ制限ハ金四百圓トス

第四十二條 外國宛代金引換通常郵便物ノ代金引換金額ノ制限及表示貨幣ハ之ヲ告示ス

第四十三條 外國宛代金引換通常郵便物ノ取立濟代金ニ對スル爲替券ノ拂渡ハ該郵便物ノ受領證及該爲替券ト引換ニ之ヲ爲ス

前項ノ受領證ヲ亡失シタルトキハ郵便規則第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第四十四條 帝國トノ關係ニ於テ代金引換通常郵便物ノ代金引換ノ取消又ハ代金引換金額ノ低減ノ請求ヲ許ス諸國及其ノ請求書ヲ宛テハ其ノ官署名ハ之ヲ告示ス

第四十五條 外國來代金引換通常郵便物ハ配達郵便局ニ留置キ其ノ到着ヲ名宛人ニ通知シ同局ニ於テ代金ト引換ニ之ヲ交付ス

第四十六條 外國來代金引換通常郵便物ノ名宛人カ差出國ト代金引換通常郵便物ノ交換ヲ爲ス他國ニ移轉シタルトキハ尙代金引換トシテ之ヲ轉送ス

第四十七條 外國ヨリ轉送セラレタル代金引換通常郵便物ニ付テハ第六十三條第一項ノ規定ヲ準用ス

第四十八條 軍艦閉塞ハ遞信大臣ノ指定スル帝國郵便局ト帝國郵便局ノ設置ナキ郵便聯合國ニ在

ル帝國ノ艦隊又ハ軍艦トノ間ニ之ヲ交換ス

第四十九條 軍艦閉塞ニ納ムル郵便物ハ特殊取扱ト爲ササル料金完納ノ通常郵便物ニ限ル此ノ郵便物ニハ名宛面ニ「軍艦郵便」ノ文字ヲ記載スヘシ

前項ノ郵便物ニハ料金共ノ他ニ關シ内國郵便ノ規定ヲ準用ス

第五十條 郵便規則ニ依ル郵便私書函使用人ハ其ノ郵便私書函ニ依リ普通郵便ニ依ル料金完納ノ外國通常郵便物ヲモ受取ルコトヲ得

郵便私書函使用人ニシテ豫メ許可ヲ受ケタル者ハ寄留、價格表記、到達證請求又ハ料金不納ノ外國通常郵便物ヲモ郵便局ニ於テ受取ルコトヲ得

第三節 小包郵便物

第五十一條 外國來到達證請求小包郵便物ニ關シテハ第三十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十二條 到達證ノ請求ナキ小包郵便物ノ踪跡取調ニ關シテハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第五十三條 帝國ト別配達小包郵便物ヲ交換スル諸國ハ之ヲ告示ス

第五十四條 外國來別配達小包郵便物ノ配達ニ關シテハ第三十六條及第三十七條ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 留置小包郵便物ニ關シテハ第三十八條及第三十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十六條 帝國ト價格表記小包郵便物ヲ交換スル諸國ハ之ヲ告示ス

第五十七條 羅馬締結小包郵便物交換條約第一條第一項第三節ニ依ル價格表記金額ノ制限ハ三千

法トス 外國宛價格表記小包郵便物ノ價格表記金額ノ制限ハ之ヲ告示ス

第五十八條 外國宛價格表記小包郵便物ノ價格表記金額ニ關シテハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第五十九條 帝國ト代金引換小包郵便物ヲ交換スル諸國ハ之ヲ告示ス

第六十條 羅馬締結小包郵便物交換條約第八條第一項ニ依ル代金引換小包郵便物ノ代金引換金

額ノ制限ハ金四百圓トス

外國宛代金引換小包郵便物ノ代金引換金額ノ制限ハ之ヲ告示ス

第六十一條 外國宛代金引換小包郵便物ノ代金引換金額ニハ錢位未滿ノ端數ヲ附スルコトヲ得ス

第六十二條 外國宛代金引換小包郵便物ノ代金引換爲替券ノ拂渡ニ付テハ第四十三條ノ規定ヲ準

用ス

第六十三條 外國來代金引換小包郵便物ニ付テハ逓信大臣ノ指定スル郵便局ニ於テ到着日ノ外國

爲替金換算割合ニ依リ代金引換金額ヲ換算ス

前項ノ小包郵便物ノ交付ニ付テハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第六十四條 代金引換小包郵便物ノ代金引換ノ取消又ハ代金引換金額ノ低減ニ關シテハ第四十四

條ノ規定ヲ準用ス

第六十五條 外國來代金引換小包郵便物ノ轉送ニ關シテハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條 郵便規則ニ依ル郵便私書函使用人ニシテ豫メ許可ヲ受ケタル者ハ外國小包郵便物ヲ

モ郵便局ニ於テ受取ルコトヲ得

第三章 郵便物ノ差出及配達

第六十七條 郵便物ノ差出ニ關シテハ郵便規則第六十九條乃至第七十一條ノ規定ヲ準用ス

第六十八條 郵便物ノ配達ニ關シテハ郵便規則第七十三條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第四章 郵便物ノ轉送及返送

第六十九條 帝國トノ關係ニ於テ郵便物ノ取戻又ハ名宛變更ノ請求ヲ許ス諸國及其ノ請求書ヲ宛

ツヘキ官署名ハ之ヲ告示ス

外國ニ差立前ノ外國宛郵便物ノ取戻又ハ名宛變更ニ關シテハ郵便規則第七十九條ノ規定ヲ準用

第七十條 外國來郵便物ノ轉送及返送ニ關シテハ郵便規則第八十條第一項及第八十一條ノ規定ヲ準用ス但シ第八十一條第二項ノ期間ハ三十日トス

外國來小包郵便物ノ帝國内ニ於ケル轉送及返送ハ無料トス

第七十一條 外國來郵便物ノ名宛人一時其ノ居所ヲ移轉シタル場合ニ於テ名宛人該郵便物ノ轉送ヲ原配達郵便局ニ請求スルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條 外國來郵便物ニシテ名宛人ニ交付スルコト能ハサルモノハ外國ニ返送スルニ先テ其ノ名宛ヲ公示ス

第五章 郵便物ノ通關

第七十三條 外國來小包郵便物又ハ價格表記箱物ニシテ關稅又ハ内國稅ヲ課スヘキモノハ之ヲ郵便局ニ留置キ到着通知書ヲ名宛人ニ交付ス名宛人ハ通知書ノ日附ヨリ十五日内ニ稅金ヲ納付シテ其ノ郵便物ヲ受取ルコトヲ得

關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲ス者ハ同時ニ其ノ事由ヲ關係郵便局ニ申出ツヘシ其ノ異議ノ判定アリタルトキハ直ニ其ノ書類ヲ該郵便局ニ呈示スヘシ關稅又ハ内國稅ノ賦課ニ關シ大藏大臣ニ訴願シタル場合及其ノ訴願ノ裁決アリタルトキ亦同シ

第七十四條 前條第二項ノ場合ニ於テ郵便物留置期間ノ經過ハ郵便局ヘノ申出ヨリ異議ノ判定ノ確定又ハ訴願ノ裁決迄之ヲ停止ス

第六章 損害賠償及報酬

第七十五條 價格表記書狀若ハ箱物又ハ小包郵便物ノ交付又ハ運付ノ際名宛人又ハ差出人ニ於テ郵便物ニ損害アリト申立ツルトキハ郵便局ニ於テ七日ノ期間内ニ申立人ヲ立會ハシメ之ヲ開披シテ損害ノ有無ヲ検査シ損害ナシト認ムルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル圖書ト共ニ郵便物ヲ申立人ニ交付スヘシ損害アリト認ムルトキハ損害圖書ヲ作成シ之ヲ損害賠償ノ請求權ヲ有スル者

ニ交付シ郵便物ハ之ヲ郵便局ニ留置クヘシ但シ申立人ニ於テ損害賠償ノ請求權ヲ拋棄シ郵便物ノ交付ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十六條 前條ノ場合ニ於テ申立人立會ヲ爲ササルトキハ郵便物ハ其ノ申立人名宛人ナル場合ニハ配達シ能ハサルモノトシテ之ヲ取扱ヒ申立人差出人ナル場合ニハ運付シ能ハサルモノトシテ之ヲ取扱フ

第七十七條 書留通常郵便物ノ亡失又ハ價格表記書狀、價格表記箱物若ハ小包郵便物ノ亡失若ハ毀損ニ關シ損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ差出人ノ場合ニハ其ノ郵便物ノ引受ヲ爲シタル郵便局ニ又名宛人ノ場合ニハ其ノ郵便物ノ配達ヲ爲スヘキ郵便局ニ該郵便物ノ種別、番號、名宛人及差出人ノ居所氏名、差出日、包有品ノ名稱、數量及實價並請求金額ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ第七十五條ノ場合ニ於テ損害賠償ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ圖書ヲ添附スヘシ

第七十八條 損害賠償ノ責任及其ノ金額ハ逓信省ニ於テ之ヲ審査シ其ノ決定ヲ請求人ニ通知ス第七十九條 米國又ハ濠洲トノ條約ニ依ル小包郵便物ニシテ帝國ニ於テ引受ケタルモノヲ帝國郵便業務中ニ於テ亡失又ハ毀損セシメタル場合ニ於テハ是カ賠償ノ責任及其ノ金額ニ付テハ内國書留小包郵便物ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十條 郵便法第四條ニ依ル損害ノ賠償及同法第五條ニ依ル報酬ニ付テハ郵便規則第八十三條第二項及第三項、第八十六條第二項並第八十七條ノ規定ヲ準用ス

第八十一條 此ノ規則ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年十一月十一日 逓信省令第五十二號 外國郵便規則及同年 逓信省令第五十三號 外國小包郵便規則

- 一 郵便局ノ過失ニ因リ徵收シタル料金
 - 二 郵便局ノ過失ニ因リ普通郵便ニ依リテ到達シ得ヘキ時刻ヨリ遅レテ名宛人ニ到達シタル通常爲替別配達取扱ノ料金
 - 三 特殊取扱ノ請求アリタル爲替ニ對シ郵便局ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル特殊取扱ノ料金
 - 四 羅馬約定ニ依ル爲替ニシテ名宛變更若ハ取戻ノ請求アリタルモノ又ハ米國、加那太、英國若ハ香港トノ條約ニ依ル爲替ニシテ名宛變更ノ請求アリタルモノニ對シ郵便局ノ過失ニ因リ其ノ取扱ヲ爲ササリシ場合ニ於ケル其ノ取扱ノ料金
 - 五 爲替金拂渡濟否取調ノ請求カ郵便局ノ過失ニ起因シタル場合ニ於ケル取調料金
- 前項ノ請求ハ爲替ノ有効期間内又ハ其ノ滿了後一年内ニ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局ニ之ヲ爲スヘシ但シ第三號中羅馬約定ニ依ル爲替ノ振出後ニ請求シタル拂渡通知書ノ料金及第五號ニ付テハ其ノ期間ハ一年ヲ延長ス

第二章 通常爲替

第一節 振出

第九條 明治三十三年九月逓信省令第四十五號郵便爲替規則第五條乃至第九條及明治三十四年三月逓信省令第十三號郵便爲替證書線引讓渡規則ハ之ヲ外國郵便爲替ニ準用ス但シ郵便爲替證書線引讓渡規則第一條第一項ノ場合ニ於テハ羅馬約定ニ依ル爲替ニ在リテハ爲替券ノ裏面ニ於ケル裏書ノ場所ニ線引ヲ爲スヘシ

第十條 外國通常爲替ノ差出人ハ郵便局ニ於テ交付スル用紙ニ依リ外國郵便爲替振出請求書ヲ調製シ爲替料ヲ添ヘ之ヲ郵便局ニ差出スヘシ同局ニ於テ爲替金額ヲ帝國通貨ニ換算シ之ヲ其ノ請求書ニ記入シテ示ストキハ該金額ヲ差出スヘシ同局ニ於テハ之ニ對シ外國郵便爲替金受領證書ヲ交付ス

同一地ニ二箇以上ノ國ノ郵便局在リテ其ノ孰レニモ爲替ヲ振宛テ得ルトキ又ハ二箇以上ノ國ノ孰レノ媒介ニ依リテモ同一地ニ爲替ヲ振宛テ得ルトキハ差出人ハ振宛郵便局又ハ媒介國ヲ指定シ外國郵便爲替振出請求書ニ「何國郵便局」又ハ「何國媒介」ノ指定ヲ記載スヘシ

第十一條 香港及在清國英國郵便局宛爲替ニシテ交換局ニ非サル局ニ於テ振出スモノ並香港媒介爲替ニ付テハ爲替券ヲ差出人ニ交付セシ

第十二條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ハ之ヲ留置ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ差出人ハ外國郵便爲替振出請求書中名宛人居所ノ部ニ「何局留置」ノ指定ヲ記載スヘシ

第十三條 羅馬約定ニ依ル媒介爲替ニ付テハ芬蘭及「リベリア」ニ宛ツルモノヲ除クノ外爲替券ニ通信文ヲ附記スルコトヲ得ス

差出人ニシテ通信文ヲ附記セムトスルモノハ振出ノ際郵便局ニ申立テ振出局交換局ナル場合ニ於テハ同局ヨリ交付スル爲替券ニ之ヲ記載シテ差出スヘシ

振出局カ交換局ニ非サル場合ニ於テハ通信文ハ之ヲ簡單ニ適宜ノ紙片ニ記載シテ差出アヘシ交換局ニ於テ之ヲ爲替券ニ轉記ス

第十四條 帝國トノ關係ニ於テ羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ別配達ノ請求ヲ許ス諸國ハ之ヲ告示ス

羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ差出人爲替ノ別配達ヲ請求セムトスルトキハ外國郵便爲替振出請求書ノ相當欄ニ「別配達」ノ指定ヲ記載シ且爲替一口毎ニ金十二錢ノ料金ヲ納付スヘシ

第十五條 羅馬約定ニ依ル媒介爲替ニ付テハ「リベリア」ニ宛ツルモノヲ除クノ外拂渡通知書ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ差出人振出ノ際拂渡通知書ヲ請求セムトスルトキハ外國郵便爲替振出請求書ノ相當欄ニ「拂渡通知」ノ指定ヲ記載シ且爲替一口毎ニ金五錢ノ料金を納付スヘシ

前項ノ爲替差出人振出ノ後拂渡通知書ヲ請求セムトスルトキハ必要ナル事項ヲ記載シタル拂渡通知書請求書ヲ振出局ニ差出シ且前項ノ場合ト同額ナル料金を納付スヘシ

前二項ノ請求ニ對シ振出局ニ於テ通知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ普通通常郵便ニ依リ之ヲ差出人ニ送達ス

第十六條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ差出人ニシテ拂渡通知書ヲ請求セサルモノ又ハ米國、加那太、英國若ハ香港トノ條約ニ依ル爲替ノ差出人ハ振出ノ後郵便ニ依ル爲替金拂渡否ノ取調ヲ請求スルコトヲ得此ノ請求ハ爲替ノ有効期間内又ハ其ノ滿了後一年内ニ限リ之ヲ受理ス

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ必要ノ事項ヲ記載シタル取調請求書ヲ振出局ニ差出シ且爲替一口毎ニ金五錢ノ料金を納付スヘシ取調ノ結果ハ普通通常郵便ニ依リ書面ヲ以テ之ヲ請求人ニ通知ス

第十七條 帝國トノ關係ニ於テ羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ取戻又ハ名宛變更ノ請求ヲ許ス諸國及其ノ請求書ヲ宛ツヘキ官署ハ之ヲ告示ス

前項ノ取戻又ハ名宛變更ヲ請求セムトスル者ハ必要ノ事項ヲ記載シタル取戻又ハ名宛變更申立書ニ記名調印シ之ヲ振出局ニ差出シ且外國郵便爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ振出局カ交換局ナル場合ニ於テハ申立書ト共ニ取戻又ハ名宛變更請求書ヲ差出スヘシ

外國ニ差立前ノ爲替ニ關スル第一項ノ請求ニ付テハ明治四十年九月逓信省令第四十二號外國郵便規則第六十九條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十八條 前條ニ依ル取戻ノ請求人ニハ振出局ヨリ書留通常郵便ニ依リ爲替券ヲ送達ス但レ未タ爲替券ヲ發行セサル場合及爲替券ヲ發行シタル後ト雖爲替券ノ返送ナキ場合ニ於テハ書留通常

郵便ニ依リ取戻通知書ヲ請求人ニ送達ス取戻通知書ハ拂戻ニ關シテハ之ヲ爲替券ト看做ス

第十九條 米國、加那太、英國又ハ香港トノ條約ニ依ル爲替ノ差出人ハ郵便ニ依ル名宛人又ハ差出人ノ居所氏名ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ必要ノ事項ヲ記載シタル居所氏名變更請求書ニ記名調印シ之ヲ振出局ニ差出シ且外國郵便爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第一項ノ請求ニ關シテハ羅馬約定ニ依ル爲替ノ名宛變更ニ關スル規定ヲ準用ス

名宛國ニ於テ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後ナルトキハ振出局ハ其ノ旨ヲ差出人ニ通知ス

第二十條 外國振出爲替ノ到着

第二十條 羅馬約定ニ依ル通常爲替券到着シタルトキハ拂渡局ヨリ書留通常郵便ニ依リ之ヲ名宛人ニ送達ス

差出人カ別配達ヲ請求シタル爲替ニ付テハ到着後直ニ特使ヲ以テ其ノ爲替券ヲ送達ス

第二十一條 羅馬約定ニ依ル留置通常爲替券ノ交付ニ關シテハ外國郵便規則第二十八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ爲替券ノ留置期間ハ其ノ有効期間ニ同シ

第二十二條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ニシテ違例ノ爲拂渡シ能ハサルモノアルトキハ拂渡局ニ於テ其ノ旨ヲ名宛人ニ通知ス

第二十三條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ名宛人共ノ居所ヲ帝國内ニ於テ又ハ帝國及振出國ト羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ交換ヲ保持スル外國ニ移轉シタルトキハ爲替券ノ郵便ニ依ル轉送ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ名宛人共ノ居所ヲ振出國ト羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ交換ヲ保持シ且帝國ト同約定ニ依ル電信爲替ノ交換ヲ保持スル外國ニ移轉シタルトキハ爲替ノ電信ニ依ル轉送ヲ請求スルコトヲ

得
前二項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ必要ノ事項ヲ記載シタル轉送請求書ニ記名調印シ之ヲ原拂渡局ニ差出スヘシ

第二十四條 香港及在清國英國郵便局振出ノ爲替ニシテ交換局ニ非サル局ニ於テ拂渡スヘキモノ並香港媒介爲替ニ付テハ拂渡局ヨリ書留通常郵便ニ依リ爲替券ヲ名宛人ニ送達ス

第二十五條 米國、加那太又ハ英國トノ條約ニ依ル爲替ニ付テハ拂渡局ヨリ書留通常郵便ニ依リ爲替券ヲ名宛人ニ送達ス

第二十六條 米國、加那太、英國又ハ香港トノ條約ニ依ル爲替ノ名宛人共ノ居所ヲ帝國内ニ於テ移轉シタルトキハ別ニ料金ヲ納付スルコトナク爲替券ノ郵便ニ依ル轉送ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ第二十三條第三項ノ規定ヲ準用ス

第二節 拂渡

第二十七條 外國通常爲替ノ名宛人爲替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ爲替券ニ記名調印シ之ヲ拂渡局ニ差出スヘシ

第二十八條 拂渡局ニ於テハ拂渡請求人ニ差出人及名宛人ノ居所氏名共ノ他ノ事項ヲ尋問シ權利者タルコトヲ認メタル後爲替券ト引換ニ爲替金ノ拂渡ヲ爲ス

第二十九條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ日附ノ認證ヲ請求スル者ハ爲替券ヲ拂渡局ニ差出スヘシ
同局ニ於テハ之ニ對シ受領證書ヲ交付ス

拂渡局ニ於テ認證ヲ記載シタル爲替券ノ返送ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ名宛人ニ通知ス
爲替券ハ同局ニ於テ通知書及受領證書ト引換ニ之ヲ交付ス

第三十條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ名宛人拂渡認可書ヲ請求セムトスルトキハ必要ノ事項ヲ記載シタル拂渡認可書請求書ニ記名調印シ之ヲ拂渡局ニ差出スヘシ

拂渡局ニ於テ拂渡認可書ノ送付ヲ受ケタルトキハ書留通常郵便ニ依リ之ヲ名宛人ニ送達ス

第三十一條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ差出人名宛人ノ爲ニ拂渡認可書ヲ請求セムトスルトキハ必要ノ事項ヲ記載シタル拂渡認可書請求書ニ記名調印シ之ヲ振出局ニ差出シ且外國郵便爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第三十二條 米國、加那太、英國又ハ香港トノ條約ニ依ル爲替ノ名宛人爲替券ノ踪跡不明、亡失又ハ毀壞ニ因リ第二爲替券ヲ請求セムトスルトキハ必要ノ事項ヲ記載シタル第二爲替券請求書ニ記名調印シ之ヲ拂渡局ニ差出スヘシ

第二爲替券ハ爲替金カ未タ拂渡又ハ拂戻サレサルコトヲ確認シタル後發行シ拂渡局ヨリ書留通常郵便ニ依リ之ヲ名宛人ニ送達ス

第三十三條 郵便爲替規則第二十二條乃至第二十六條ノ規定ハ外國通常爲替金ノ拂渡ニ之ヲ準用ス

第四節 拂戻

第二十四條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求スルトキハ爲替券ニ記名調印シ外國郵便爲替金受領證書ト共ニ之ヲ振出局ニ差出スヘシ同局ニ於テハ之ト引換ニ爲替金ノ拂戻ヲ爲ス

第二十五條 羅馬約定ニ依ル爲替券ノ踪跡不明、亡失又ハ毀壞ノ場合ニ於テ差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セムトスルトキハ必要ノ事項ヲ記載シタル外國郵便爲替金拂戻請求書ニ記名調印シ之ヲ振出局ニ差出シ且外國郵便爲替金受領證書ヲ呈示スヘシ

第二十六條 羅馬約定ニ依ル通常爲替ノ名宛人カ差出人ノ爲ニ爲ス拂渡認可書ノ請求ニ關シテハ第三十條第一項ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 米國、加那太、英國又ハ香港トノ條約ニ依ル爲替金ノ拂戻ノ請求ニ關シテハ第三十五條

條ノ規定ヲ準用ス

第三十八條 第三十五條及第三十七條ニ依リ外國郵便爲替金ノ拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ其ノ爲替金カ未ダ拂渡サレズ且拂渡サレサルヘキコトヲ確認スルトキハ振出局ハ書留通常郵便ニ依リ拂渡認可書ヲ差出人ニ送達ス

第三十九條 外國通常爲替カ有効期間經過、受取拒絶其ノ他ノ事由ニ因リ名宛人ニ拂渡サレザリシ爲外國ヨリ返還セラレタルトキハ羅馬約定ニ依ル通常爲替ニシテ爲替券ノ返送アル場合ニ於テハ其ノ爲替券ヲ又同約定ニ依ル通常爲替ニシテ爲替券ノ返送ナキ場合又ハ米國、加那太、英國若ハ香港トノ條約ニ依ル爲替ノ場合ニ於テハ拂渡認可書ヲ振出局ヨリ書留通常郵便ニ依リ差出人ニ送達ス

第四十條 前二條ノ場合ニ於テ差出人ハ拂渡認可書又ハ爲替券ニ記名刷印シ外國郵便爲替金受領證書ト共ニ之ヲ振出局ニ差出スヘシ同局ニ於テハ之ト引換ニ爲替金ノ拂戻ヲ爲ス

第四十一條 外國通常爲替金ノ拂戻ハ振出局ニ爲替金トシテ拂込ヲ受ケタル帝國貨幣額ニ對シテ之ヲ爲ス但シ媒介爲替ニシテ媒介國ニ於テ其ノ金額ヨリ媒介料ヲ控除シタルモノニ付テハ其ノ殘額ニ對シテ拂戻ヲ爲ス

第四十二條 第二十七條乃至第二十九條及第三十三條ノ規定ハ外國通常爲替金ノ拂戻ニ之ヲ準用ス

第五節 拂渡局又ハ拂戻局ノ變更

第四十三條 外國通常爲替ノ名宛人ハ爲替券又ハ拂渡認可書ノ送達ヲ受ケタル後拂渡局ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

外國通常爲替ノ差出人ハ爲替券又ハ拂渡認可書ノ送達ヲ受ケタル後拂戻局ノ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 郵便爲替規則第三十五條、第三十六條及第三十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六節 爲替金居宅拂

第四十五條 外國通常爲替ノ名宛人ハ爲替金ノ居宅拂ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ニ對シテハ爲替一口毎ニ金四錢ノ料金ヲ徴收ス

第四十六條 郵便爲替規則第六十條第二項及第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章 電信爲替

第四十七條 外國電信爲替ノ振出請求ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ準用ス但シ外國郵便爲替振出請求書ノ相當欄ニ「電信爲替」ノ文字並至急返信料前納、照校受信報知、郵便送達又ハ別配達ヲ請求スルトキハ其ノ指定ヲ記載シ且電報料ヲ支拂フヘシ

第四十八條 外國電信爲替ノ差出人ニシテ爲替電報ニ名宛人ニ宛ル通信文ヲ附記セムトスルモノハ振出局ニ申立テ爲替電報本文ノ末尾ニ通信文ヲ記載シテ差出スヘシ

第四十九條 外國振出電信爲替ニ付テハ電報送達紙ヲ以テ爲替券トス

前項ノ爲替券ノ送達ニ關シテハ第二十條第一項ノ規定ヲ準用ス
第五十條 第十二條、第十五條乃至第十八條、第二十一條乃至第二十三條、第二十七條乃至第三十一條、第三十二條乃至第三十六條、第三十八條乃至第四十六條ノ規定ハ之ヲ外國電信爲替ニ準用ス

附則

第五十一條 此ノ規則ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年九月逓信省令第五十七號外國郵便爲替規則及明治三十四年五月逓信省令第二十四號ハ

之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十四年八月十日 逓信省令第二十四號ハ郵便爲替證書發行規則ヲ外國郵便爲替ニ準用ノ事ナリ

○逓信省令第四十四號

船舶通報規則左ノ通相定ム

明治四十年九月二十六日

逓信大臣 山縣伊三郎

船舶通報規則

第一條 船舶通報ヲ別チテ左ノ二種トス

一 通過報

二 信號報

第二條 通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ沿海ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

一 船名

二 通過時分

第三條 信號報トハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ト船長トノ間ニ於ル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ沿海ヲ通過スル船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂フ

第四條 通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スヘキ電信局所ニ差出スヘシ

一 船名(必要ナルトキハ信號符字)

二 國籍

三 船舶所有者名

四 燈臺名

五 請求者

六 臨時ニ通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ前項各號ノ事項ノ外尙豫定通過日時ヲ記載スヘシ

七 通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ前條ノ電信局所ニ登記料ヲ前納スヘシ但シ臨時ニ其ノ取扱ヲ望ム者ハ此ノ限ニ在ラス

八 登記料ハ一會計年度毎ニ金一圓トス

九 第六條 通過報ノ料金左ノ如シ

一 登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ

一通毎ニ 金十錢

二 登記料ヲ納付セサル者ニ對シテハ

一通毎ニ 金二十錢

夜間(日没ヨリ日出マテ)通過ノ船舶ニ對スル通過報ノ料金ハ前項料金ノ二倍トス

前二項ノ料金ハ配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徴收ス

第七條 第四條ノ請求ヲ受ケタル電信局所ニ於テ豫定通過日時切迫ノ爲燈臺ニ電報ヲ以テ通知ヲ要スルトキハ請求者ハ其ノ電報ノ料金ヲ前納スヘシ

第八條 第四條ノ請求書ニ記載セル船舶カ燈臺ノ沿海ヲ通過シタル場合ト雖該燈臺ニ於テ其ノ船名ヲ知り得サリシトキ又ハ全ク船舶ノ通過ヲ知り得サリシトキハ通過報ヲ發セサルコトアルヘシ

第九條 信號報ノ取扱ヲ望ム船舶所有者又ハ其ノ代理人ハ豫メ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スヘキ電信局所ニ差出スヘシ

一 船名(必要ナルトキハ信號符字)

二 船名(必要ナルトキハ信號符字)

三 船名(必要ナルトキハ信號符字)

四 船名(必要ナルトキハ信號符字)

五 船名(必要ナルトキハ信號符字)

六 船名(必要ナルトキハ信號符字)

七 船名(必要ナルトキハ信號符字)

八 船名(必要ナルトキハ信號符字)

九 船名(必要ナルトキハ信號符字)

二 國籍

三 船舶所有者名

四 燈臺名

五 請求者ノ住所氏名

第十條 信號報ノ取扱ヲ望ム者ハ前條ノ電信局所ニ登記料ヲ前納スヘシ

登記料ハ一會計年度毎ニ金一圓トス

第十一條 信號報ノ料金左ノ如シ

信號料 一通ニ付 金一圓

電報料又

ハ郵便料 實費

船舶ヨリ發スル信號報ノ料ハ之ヲ受信者ヨリ徵收ス

第十二條 船舶所有者又ハ其ノ代理人信號報ヲ發セムトスルトキハ和文電報書法ニ從ヒ和營事項

ヲ賴信紙ニ記載シ之ヲ第九條ノ電信局所ニ差出スヘシ但シ之ニ關スル郵便切手ハ賴信紙ニ貼附

スヘカラス

前項ノ場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同時ニ其ノ旨ヲ申出ツヘシ此ノ場合ニ於

テハ適宜ノ用紙ニ記載スルコトヲ得

第十三條 電信局所ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ指定ノ方法ニ依リ之ヲ燈臺ニ傳送シ燈

臺ニ於テ之ヲ船舶ニ通達ス

第十四條 船舶ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ノ受信

者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十五條 燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ和文電報ヲ以テ之ヲ第九條ノ電信局所ニ傳

送シ電信局所ハ之ヲ受信者ニ配達ス

第十六條 燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以内ニ限ル

第十七條 船舶ニ通達シ能ハサル信號報ノ料金中信號料ハ納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十八條 燈臺ト船舶トノ間ニ於ル信號ハ晝間ニ限リ之ヲ行ヒ其ノ方法ハ萬國船舶信號書ノ定ム

ル所ニ依ル但シ船舶所有者又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ燈臺ニ於テ夜間通過ノ信號ヲ受タルコ

トアルヘシ

第十九條 船舶通報ニ關係ヲ有スル海上ノ船舶ハ特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及

信號符字ヲ掲クヘシ

前條但書ニ依リ夜間通過ノ信號ヲ爲サムトスルトキハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ハ特定信號ヲ

定メ豫メ航路標識管理所ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條 本令中料金ノ徵收又ハ還付ニ關シ明文ナキ事項ハ凡テ明治三十三年九月逓信省令第四十

六號電報規則ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 船舶通報ノ受信者住所ニ異動ヲ生シタルトキハ請求書ヲ差出シタル電信局所ニ其ノ

旨ヲ届出ツヘシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ

消滅シタルモノト看做ス

第二十二條 船舶通報ノ通達ヲ受クヘキ場所ハ内國ニ限ル

第二十三條 燈臺以外ノ場所ニ於テ船舶通報ノ取扱ヲ爲ストキハ本令ヲ準用ス

附則

第二十四條 本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第四十五號

國際返信切手券ハ郵便局ニ於テ是カ賣捌及引換ヲ爲ス但シ賣捌ヲ爲ス郵便局ハ之ヲ告示ス

國際返信切手券ノ賣捌ニ付テハ明治三十三年九月逓信省令第七十九號郵便切手類賣捌規則ヲ準用ス
本令ハ明治四十年十月一日ヨリ施行ス

明治四十年九月二十六日

逓信大臣山縣伊三郎

○逓信省令第四十六號

明治三十三年九月逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則中左ノ通改正ニ來十月一日ヨリ施行ス

明治四十年九月三十日

逓信大臣山縣伊三郎

一第六條乃至第八條ヲ左ノ通改ム

第六條 清國又ハ韓國發日本宛ノ小包郵便物ニシテ關稅又ハ內國稅ヲ課スヘキモノハ之ヲ郵便局所ニ留置キ到着通知書ヲ名宛人ニ交付ス名宛人ハ通知書ノ日附ヨリ十五日内ニ稅金ヲ納付シテ其ノ郵便物ヲ受取ルコトヲ得

第七條 關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲ス者ハ同時ニ其ノ事由ヲ關係郵便局所ニ申出ツヘシ其ノ異議ノ判定アリタルトキハ直ニ其ノ書類ヲ該郵便局所ニ呈示スヘシ關稅又ハ內國稅ノ賦課ニ關シ大藏大臣ニ訴願シタル場合及其ノ訴願ノ裁決アリタルトキ亦同シ

第八條 前條ノ場合ニ於テ郵便物留置期間ノ經過ハ郵便局所ヘノ申出ヨリ異議ノ判定ノ確定又ハ訴願ノ裁決迄之ヲ停止ス

一第九條及第十三條ノ第二項中「三十日以内」トアルヲ「十五日以内」ト改ム

〔參照〕

逓信省令第五十六號清韓小包郵便規則(明治三十三年九月十一日)抄錄

第六條 清國若ハ韓國發日本ヘ到着ノ小包郵便物カ輸入稅若ハ內國稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ輸入稅ノ場合ニ於テハ內國稅ニ相當スル輸入印紙ヲ通知書ニ貼付シ內國稅ノ場合ニ於テハ明治三十七年勅令第六十五號ニ據リ輸入印紙若ハ特別ノ印紙ヲ通知書若ハ輸入

物品ニ貼付シ郵便局所ノ消印ヲ受ケ通知書ハ之ヲ郵便局所ニ送付シ其ノ小包郵便物ヲ受取ルヘシ關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スモノハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ又其ノ異議ノ判定ヲ得タルトキハ其ノ書類ヲ該郵便局所ニ送付スヘシ

第七條 前條ノ小包郵便物ノ保有者カ關稅定率法稅關法若ハ其ノ他ノ法令ニ依リ關稅ヲ免除セラルヘキモノナル場合ニ於テ受取人カ其ノ免除ヲ得ントスルトキハ直ニ稅關ニ申立且其ノ事由ヲ郵便局所ニ申出ヘシ

第八條 第六條ノ郵便物留置期間ノ經過ハ同條第二項ノ場合ニ於テハ異議ノ判定若ハ訴願ノ裁決アリタルトキ又第七條ノ場合ニ於テハ關稅免除許否ノ通知ヲ得ルマテ之ヲ中止ス

第九條 日本若ハ清國發韓國ヘ到着ノ小包郵便物カ關稅關ニ於テ輸入稅ヲ課スヘキモノナルトキハ其ノ郵便物ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ通知書ニ稅金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ送付スヘシ受取人此ノ規定ヲ履行セザルトキハ該郵便物ハ之ヲ送出人ニ還付ス

第十三條ノ二 日本若ハ韓國發清國ヘ到着ノ小包郵便物若ハ清國內ヨリ發シ清國內ヘ到着ノ小包郵便物カ清國稅關ニ於テ輸入稅ヲ課スヘキモノナルトキハ之ヲ郵便局所ニ留置キ其ノ通知書ヲ受取人ニ送付ス受取人ハ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ通知書ニ稅金ヲ添ヘ之ヲ郵便局所ニ送付スヘシ但シ受取人ヨリ直接ニ稅金ヲ稅關ニ納付シ通知書ヲ受ケタル後之ヲ郵便局所ニ送付スモ妨ケナシトス

○内務省令第二十三號

明治三十年内務省令第三十二號徵兵旅費規則中左ノ通改正ス

明治四十年十月九日

内務大臣原敬

第四條第一項第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二 官用ノ船舶ニテ渡航スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ日數ニ應ル食卓料金五

拾錢ヲ支給ス

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條 臺灣總督府管内ニ限リ第四條ノ支給額ハ總テ其ノ倍額トス

○内務省令第二十四號

明治四十年勅令第四十五號ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ沖繩縣ニ施行ス

明治四十年十月十二日

内務大臣原敬

〔参照〕

明治四十年三月十六日勅令第四十五號ハ沖繩縣間切島並ニ東京府伊豆七島及小笠原島ニ於ケル名稱及區域ノ變更等ニ關スル件ナリ

○内務省令第二十五號

沖繩縣及島嶼町村制ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ沖繩縣ニ施行ス

明治四十年十月十二日

内務大臣原敬

○内務省令第二十六號

改選後ノ府縣會ニ於テ始メテ議長ヲ選舉スル場合ニハ會議ノ決議ニ依ルニ非ケレハ其ノ日ノ會議ヲ閉チ又ハ中止スルコトヲ得ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十月二十一日

内務大臣原敬

○大藏省令第四十一號

鐵道國有法第四條ニ依リ政府ノ承繼シタル明治三十七年東京舊關西鐵道株式會社債ニ關スル規程左ノ通之ヲ定ム

明治四十年十月十日

大藏大臣法學博士男露阪谷芳郎

第一條 舊關西鐵道株式會社債ニ關シテハ日本銀行本店、支店及出張所ヲ以テ取扱店トス

第二條 舊關西鐵道株式會社債券又ハ其ノ利札ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代債券ノ交付又ハ元金ノ償還若ハ利子ノ仕拂ヲ受ケントスル者ハ國債規則第十七條又ハ第六十二條ノ規定ニ準シタル請

求書ニ除權判決ノ正本又ハ謄本ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第三條 國債規則第十六條第十八條第四十八條乃至第五十一條、第五十六條乃至第五十八條及明治三十九年大藏省令第二十五號ノ規定ハ舊關西鐵道株式會社債ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○大藏省令第四十二號

明治三十年大藏省令第十號國稅徵收法施行細則中左ノ通改正ス

明治四十年十月十日

大藏大臣法學博士男露阪谷芳郎

第十六條 加入保證金又ハ契約保證金ノ割合ハ買受望人各自ノ公賣財產見積價格百分ノ五以上トシ公賣ノ時々之ヲ定ムルモノトス

第一號書式備考第五ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

六 收入官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納稅告知書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ收入官吏檢更檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

第八號書式備考三三ヲ四トシ同書式及第七號書式備考第二ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

三 收入官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本書式納付書中餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ收入官吏檢印ヲ爲シ領收濟通知書ヲ省略スルコトヲ得

〔參照〕

大藏省令第十號國稅徵收法施行細則(明治三十年六月二十六日)抄録

第十六條 加入保證金又ハ契約保證金ハ公賣財產ノ見積價格百分ノ十以内ニ於テ適宜其ノ金額ヲ定ムルモノトス

○大藏省令第四十三號

明治四十年九月大藏省令第三十七號專賣局收納所出張所名稱位置表中三田尻收納所ノ部長府出張所ノ下「長府村」ヲ「王司村」ニ「菱海出張所」ノ下「菱海村」ヲ「日置村」ニ改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十月十日

大藏大臣法學博士男露阪谷芳郎

○大藏省令第四十四號

粗製樟腦樟腦油專賣法施行細則中樟腦事務局ヲ專賣局收納所ニ改メ左ノ通改正ス

明治四十年十月十一日

大藏大臣法學博士男露阪谷芳郎

第二十三條 第十一條第十六條ニ關スル事務ハ熊本收納所、鹿兒島收納所、大阪收納所、神戸出張所、熊本收納所、福岡出張所及熊本收納所長崎出張所ニ於テノミ之ヲ行フ

〔參照〕

大藏省令第二十三號租稅釐關稅關油專賣法施行細則(明治三十六年九月十五日)抄錄
第二十三條 第十一條第十六條及第二十四條ヲ除クノ外本則中標價事務局長ニ屬スル事務ハ標價事務局長出張所アル地方ニ於テハ標價事務局長出張所之ヲ行フ

○大藏省令第四十五號
明治三十五年五月大藏省令第十號中左ノ通改正ス

大藏大臣法學博士男露阪谷芳郎
明治四十年十月十九日

「煙草專賣局長」葉煙草收納所長「煙草製造所長」樟腦事務局長「鹽務局長」鹽務局出張所長ヲ削リ
「專賣局長官」專賣局收納所長「專賣局製造所長」專賣局販賣所長「專賣局收納所出張所長」印刷局長ヲ加フ

○大藏省令第四十六號
專賣局官制第十六條ニ依リ專賣局販賣所設置所名稱位置左ノ通之ヲ定ム

本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大藏大臣法學博士男露阪谷芳郎
明治四十年十月二十五日

專賣局販賣所設置所名稱位置

販賣所名	名稱	位置	區
專賣局熊本販賣所	大川橋區所	福岡縣三浦郡大川町	

○大藏省令第四十七號
明治二十六年大藏省令第三十二號第三號書式中款ノ欄ヲ削リ(一)ノ下主任又ハ分任收入官吏官氏

名ノ上ニ「何屬」ノ二字ヲ加フ

明治四十年十月二十九日

大藏大臣法學博士男露阪谷芳郎

〔參照〕

明治二十六年十一月大藏省令第三十二號ハ總計算事務令領收據及諸帳簿ノ様式ナリ

○陸軍省令第十六號

韓國ニ在ル第十三師團及步兵第十二旅團ノ諸隊ニ屬スル兵卒ニシテ現役期限滿ル者ハ徵兵令第七條ニ依リ當分其ノ服役ヲ延期ス

明治四十年十月七日

陸軍大臣子爵寺內正毅

○陸軍省令第十七號

憲兵隊管區施行ノ期日、憲兵隊配置、憲兵分隊管區ノ改正及管轄區分左ノ通定ム

陸軍大臣子爵寺內正毅

明治四十年十月十日

東京仙臺名古屋大阪廣島熊本旭川弘前金澤姫路普通寺小倉臺灣韓國駐劄及關東各憲兵隊管區ハ明治四十年十月九日ヨリ、其ノ他ノ憲兵隊管區ハ當該憲兵隊本部設置ノトキヨリ之ヲ施行ス
憲兵隊配置及憲兵分隊管區別表ノ通改正ス
高田宇都宮豐橋京都岡山及久留米各憲兵隊管區ニ在ル既設憲兵分隊管區ハ當該憲兵隊本部設置ノトキ迄從前ノ管區ニ從ヒ舊所管憲兵隊長之ヲ管轄ス
未設憲兵分隊ノ管區ハ當該分隊設置ノトキヨリ之ヲ施行シ其ノ設置ノトキ迄既設分隊長之ヲ管轄ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年陸軍省令第四號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

憲兵隊本部位置	憲兵分隊位置	東 京									
		仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府
仙臺	仙臺	仙臺	府 甲	賀 須 横	濱 横	川 市	第 一 兵 京	第 二 兵 京	第 一 兵 京	第 二 兵 京	東 京 府

熊 本	廣 島			大 阪			名 古 屋			臺 東
	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東
熊 本	山 松	口 山	吳 島	山 松	和 歌	山 松	山 松	和 歌	山 松	臺 東

金		前弘		川		旭		本	
石川縣		青森縣		函館縣		北海道		鹿兒島縣	
大津市、青森市、上北郡、東津輕郡、西津輕郡、南津輕郡、中津輕郡、三戸郡		弘前市、青森市、上北郡、東津輕郡、西津輕郡、南津輕郡、中津輕郡、三戸郡		函館市、函館區、北見市、北見區、網走市、網走區、紋別市、紋別區、稚子市、稚子區、室蘭市、室蘭區、千歲市、千歲區、石狩市、石狩區、札幌市、札幌區、旭川市、旭川區、釧路市、釧路區、帯広市、帯広區、大館市、大館區、青森市、青森區、弘前市、弘前區、南津輕郡、中津輕郡、三戸郡		北海道		宮崎縣、南宮崎郡、北宮崎郡、西宮崎郡、東宮崎郡、兒湯郡	
石川縣		秋田縣		北海道		北海道		鹿兒島縣	
大津市、青森市、上北郡、東津輕郡、西津輕郡、南津輕郡、中津輕郡、三戸郡		秋田市、大館市、大館區、青森市、青森區、弘前市、弘前區、南津輕郡、中津輕郡、三戸郡		北海道		北海道		鹿兒島縣	
石川縣		青森縣		北海道		北海道		鹿兒島縣	
大津市、青森市、上北郡、東津輕郡、西津輕郡、南津輕郡、中津輕郡、三戸郡		弘前市、青森市、上北郡、東津輕郡、西津輕郡、南津輕郡、中津輕郡、三戸郡		北海道		北海道		鹿兒島縣	

小		寺通善		路		姫		澤	
石川縣		香川縣		兵庫縣		兵庫縣		石川縣	
小倉市、小倉區、大分市、大分區、宮崎縣		香川縣		兵庫縣		兵庫縣		石川縣	
小倉市、小倉區、大分市、大分區、宮崎縣		香川縣		兵庫縣		兵庫縣		石川縣	
小倉市、小倉區、大分市、大分區、宮崎縣		香川縣		兵庫縣		兵庫縣		石川縣	
小倉市、小倉區、大分市、大分區、宮崎縣		香川縣		兵庫縣		兵庫縣		石川縣	

倉		高田		宇都宮		豊橋		京	
下關市		新潟市		宇都宮市		豊橋市		京都市	
山口縣		新潟縣		宇都宮縣		豊橋縣		京都府	
(山口分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)		(富田分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)		(東京分隊第一管區ニ屬スル區域ヲ除ク)		(名古屋分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)		(京都分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)	
下關市	山口縣	新潟市	新潟縣	宇都宮市	宇都宮縣	豊橋市	豊橋縣	京都市	京都府
下關市	山口縣	新潟市	新潟縣	宇都宮市	宇都宮縣	豊橋市	豊橋縣	京都市	京都府
下關市	山口縣	新潟市	新潟縣	宇都宮市	宇都宮縣	豊橋市	豊橋縣	京都市	京都府

都		岡山		久留米	
伏見市		岡山市		久留米市	
京都府		岡山縣		久留米縣	
(金澤分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)		(京都分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)		(久留米分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)	
伏見市	岡山市	久留米市	岡山市	久留米市	岡山市
伏見市	岡山市	久留米市	岡山市	久留米市	岡山市
伏見市	岡山市	久留米市	岡山市	久留米市	岡山市

〔參照〕

明治三十七年十一月陸軍省令第四號ハ新兵隊配置及新兵分隊管區表ナリ
 ○陸軍省令第十八號
 陸軍召集諸費支出規程中左ノ通改正ス

明治四十年十月十四日

陸軍大臣子爵寺内正毅

第一條第十條第十一條第十三條第十四條第二十八條第三十二條第三十四條第三十五條第三十七條及第一樣式區分ノ欄第四樣式記註第一號中「補充召集」ヲ「臨時召集」ニ改ム
 第一條第三項第四十三條中「其ノ他臨時ノ召集」ヲ削ル
 第七樣式ヲ別記ノ如ク改ム

附則

本令ハ明治四十年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
 師團長ハ本令施行後四箇月以内ニ在リテハ本令改正ノ一部ニ付仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
 國民兵召集諸費支出規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別記)

第七樣式

勸 借 通		受領時刻	月 日 午 時 分
受領 處			

- 一 封筒用紙ハ適宜白色又ハ淡藍色ニシテ山形ハ紅色トス
- 二 勸ノ字ノ下ニ適宜ノ符號ヲ記入スルコトヲ得

五分(曲尺) (裏面共)

○陸軍省令第十九號

陸軍旅費規則中左ノ通改正ス

明治四十年十月二十一日

陸軍大臣子爵寺內正毅

第十五表中「憲兵上等兵」ノ次ニ「監獄看守警守」ヲ加フ

○司法省令第三十一號

福岡地方裁判所管内甘木區裁判所ニ於テ其ノ管轄ニ屬スル刑事事務ノ全部ヲ取扱フ

本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十月七日

司法大臣松田正久

○司法省令第三十二號

金澤地方裁判所管内輪島區裁判所大谷出張所ヲ「輪島區裁判所西海出張所」ト改稱ス

本令ハ明治四十年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十月十日

司法大臣松田正久

○司法省令第三十三號

名古屋地方裁判所管内名古屋區裁判所廣路出張所管轄尾張國愛知郡呼続町大字「彌富東山村」大字「田代」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ名古屋區裁判所ニ於テ、名古屋區裁判所勝川出張所管轄同國東春日井郡篠原村大字「大草」及名古屋區裁判所枇杷島出張所管轄同國西春日井郡勝村大字「鹿田」井瀬木「高田寺」能田「二子」久地野「片場」豊山村大字「豊場」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ名古屋區裁判所小牧出張所ニ於テ、名古屋區裁判所廣路出張所管轄同國愛知郡長久手村大字「長湫」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ名古屋區裁判所瀬戸出張所ニ於テ、名古屋區裁判所管轄同郡猪高村大字「猪子石」藤森「猪子石原」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ名古屋區裁判所廣路出張所ニ於テ之ヲ取扱フ

名古屋地方裁判所管内一宮區裁判所布袋出張所管轄尾張國丹羽郡西成村大字「瀬部」時ノ島「西大海道」春明「定水寺」及一宮區裁判所稻澤出張所管轄同國中島郡刈安賀村大字「北高井」於保「南高井」屬スル商業登記ノ事務ハ一宮區裁判所ニ於テ、一宮區裁判所管轄同郡稻澤町大字「下津」陸田「赤池」子生和「長野」萩原町大字「花井方」富田方「及一宮區裁判所祖父江出張所管轄同郡明治村大字「西島」横野「片原一色」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ一宮區裁判所稻澤出張所ニ於テ、一宮區裁判所管轄同郡朝日村大字「西萩原」蓮池並一宮區裁判所稻澤出張所管轄同郡平和村大字「三宅」東條「須ヶ谷」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ一宮區裁判所祖父江出張所ニ於テ、一宮區裁判所布袋出張所管轄同國丹羽郡大口村大字「豐田」秋田「大屋敷」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ一宮區裁判所犬山出張所ニ於テ、一宮區裁判所所出張出張所ニ於テ、一宮區裁判所所出張出張所ニ於テ之ヲ取扱フ

名古屋地方裁判所管内津島區裁判所七寶出張所管轄尾張國海東郡美和村大字「篠田」乙ノ子「小橋方」二ツ寺「北刈」花長「東溝口」花正「富塚」古道「木折」及津島區裁判所蟹江出張所管轄同郡永和村大字「善太新田」大野「鱒江新田」神守村大字「百町」高安寺「白濱」神尾「大坪」萩原「金柳」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ津島區裁判所ニ於テ、同郡七寶村大字「伊福」鷹居「下ノ森」德寶「益橋」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ津島區裁判所七寶出張所ニ於テ、津島區裁判所七寶出張所管轄同郡宮田村大字「千音寺」新家「松下」服部「ニ屬スル商業登記ノ事務ハ津島區裁判所蟹江出張所ニ於テ之ヲ取扱フ

名古屋地方裁判所管内半田區裁判所管轄尾張國知多郡河和町大字「布土」北方「時志」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ半田區裁判所内海出張所ニ於テ、同郡根立志村大字「古場」熊野「槍原」河屋「ニ屬スル商業登記ノ事務ハ半田區裁判所大野出張所ニ於テ、半田區裁判所内海出張所管轄同郡小鈴谷村大字「上野間」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ半田區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ

名古屋地方裁判所管内岡崎區裁判所福岡出張所管轄三河國碧海郡六ツ美村大字「上青野」在家「下青野」合歡木「福桶」高橋「安藤」高畑「下中島」正名「定國」上三ツ木「中」國正「坂左右」下和田「野畑」下三ツ木及岡崎區裁判所所知立出張所管轄同郡矢作町大字「小針」柿崎「宇頭」尾崎「宇頭」茶屋「上郷村」大字「渡刈」鷺嶋「隣松寺」永登新郷「和會」廣畔新郷「福受新郷」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ岡崎區裁判所ニ於テ、西尾區裁判所管轄同國幡豆郡豐坂村大字「逆川」上六栗「桐山」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ岡崎區裁判所福岡出張所ニ於テ、碧海郡安城町大字「古井」及西尾區裁判所新川出張所管轄同郡安城町大字「福釜」赤松「依佐美村」大字「高棚」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ岡崎區裁判所所知立出張所ニ於テ、岡崎區裁判所藤岡出張所管轄同國西加茂郡猿投村大字「西枝下」西廣瀬「石野村」大字「松嶺」押澤「藤澤」富田並岡崎區裁判所大沼出張所管轄同國東加茂郡松平村大字「松平」羽明「東宮口」眞垣内「南篠平」日明「正作」仁王「杉木」下屋敷「二口」大津「茅原」太田「歌石」椿木「堤立」所石「大楠」築山「ニ屬スル商業登記ノ事務ハ岡崎區裁判所舉母出張所ニ於テ、岡崎區裁判所大沼出張所管轄同郡盛岡村大字「岩谷」下平「及岡崎區裁判所舉母出張所管轄同郡盛岡村大字」則定「霧山」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ岡崎區裁判所足助出張所ニ於テ之ヲ取扱フ

名古屋地方裁判所管内西尾區裁判所一色出張所管轄三河國幡豆郡福知村大字「市子」平口「征曾根」野々宮「横手」天竹「上道目記」下道目記「行用」八ヶ尻「針會根」長繩「熱池」齋藤「及西尾區裁判所新川出張所管轄同國碧海郡明治村大字「西端」東端「榎前」和泉「根崎」並岡崎區裁判所管轄同郡櫻井村大字「川島」村高「ニ屬スル商業登記ノ事務ハ西尾區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ

名古屋地方裁判所管内豐橋區裁判所豐川出張所管轄三河國寶飯郡小坂井村大字「篠束」宿「小坂井」平井「及新城區裁判所富岡出張所管轄同國八名郡石卷村大字「平野」中山「秋平」小野田「西川」馬越「ニ屬スル商業登記ノ事務ハ豐橋區裁判所ニ於テ、豐橋區裁判所福江出張所管轄同國瀨美郡赤羽

根村大字「若見」越戸ニ屬スル商業登記ノ事務ハ豊橋區裁判所田原出張所ニ於テ之ヲ取扱フ
名古屋地方裁判所管内新城區裁判所大野出張所管轄三河國八名郡舟着村大字「乘木」ニ屬スル商業
登記ノ事務ハ新城區裁判所富岡出張所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年十月二十三日
司法大臣松田正久

○司法省令第三十四號

金澤地方裁判所管内金澤區裁判所森本出張所管轄加賀國河北郡川北村大字「大浦」「東蚊爪」「木越」小
坂村大字「宮保」「疋田」「今」「千木」「千田」「神谷内」「柳橋」「横枕」「法光寺」「百坂」「金市新保」「新保荒屋」「福久」ニ
屬スル商業登記ノ事務ハ金澤區裁判所ニ於テ、金澤區裁判所鶴來出張所管轄同國能美郡川北村大
字「三反田」「宮竹新」「土室」「山田先出」「一ッ屋」「灯臺笹村」内字藤瀬ニ屬スル商業登記ノ事務ハ金澤
區裁判所美川出張所ニ於テ之ヲ取扱フ
金澤地方裁判所管内小松區裁判所山上出張所管轄加賀國能美郡寺井野村大字「湯谷」「石子」「和田」「佐
野」「國府村大字「坪野」「金剛寺」「館」「鍋屋」「和氣」「寺島」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ小松區裁判所ニ於
テ、小松區裁判所白峯出張所管轄同郡尾口村大字「五味島」「釜谷」「深瀬」「橋ヶ谷」ニ屬スル商業登記ノ
事務ハ小松區裁判所鳥越出張所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年十月二十三日
司法大臣松田正久

○司法省令第三十五號

福岡地方裁判所管内柳河區裁判所瀬高出張所管轄筑後國山門郡三橋村大字「百丁」「白鳥」「久末」「中
山」「垂見」「棚町」「五十丁」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ柳河區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ

福岡地方裁判所管内小倉區裁判所首屋出張所管轄筑前國遠賀郡水巻村大字「猪籠」ニ屬スル商業登
記ノ事務ハ小倉區裁判所折尾出張所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年十月二十三日
司法大臣松田正久

○司法省令第三十六號

熊本地方裁判所管内御船區裁判所隈庄出張所管轄肥後國上益城郡大島村大字「上仲間」「下仲間」「餘
「大淵」ニ屬スル商業登記ノ事務ハ御船區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年十月二十三日
司法大臣松田正久

○司法省令第三十七號

青森地方裁判所管内弘前區裁判所藤崎出張所管轄陸奥國南津輕郡光田寺村大字「川部」「和泉」ニ屬ス
ル商業登記ノ事務ハ弘前區裁判所黒石出張所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年十月二十三日
司法大臣松田正久

○文部省令第三十一號

明治二十年文部省令第二號教科用圖書檢定規則中左ノ通改正ス
明治四十年十月四日
文部大臣牧野伸顯
第一條ニ左ノ二項ヲ加フ
本規則ニ於テ教科用圖書ト稱スルハ師範學校中學校高等女學校ニ關シテハ生徒用圖書トシ小學
校ニ關シテハ教師用圖書及兒童用圖書トス

前項ノ教師用圖書トハ教授スヘキ事項教授上ノ注意及應用ニ關スル事項等ヲ記載シタル圖書又ハ該圖書ニ附屬シテ兒童ニ示スヲ目的トスル掛圖類ヲ云フ

第三條第一項中「一種毎ニ」ノ下「該圖書」ヲ「第一條第二項ノ掛圖類ハ二部ノ定價共ノ他ハニ改ム

第九條中「ヲ納ムルコトヲ要セス」ヲ「ノ半額ヲ納ムヘシ」但第四條ノ指示ヲ受ケテ修正ヲ加フル場合ハ此限ニアラスニ改ム

第十四條中「生徒」ヲ「兒童」ニ改ム

第二十一條中「第一項」ノ下ニ「及第九條」ヲ加フ

第二十二條ヲ第二十三條トシ其ノ丙號書式中「、、、部」ノ下ニ「及手数料金、、、」ヲ加ヘ第二十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十二條 檢定ヲ得タル圖書ノ出版ヲ止ムルカ爲ニ需要者ニ對シ次學年ニ供給スル能ハサル事情アルトキハ發行並ニ檢定濟年月日ヲ具シ其ノ前年十月末日迄ニ文部省ニ届出ソヘシ

前項本文ノ届出ナクシテ圖書ノ供給ヲ怠ル者ハ供給スヘキ學年ノ始ヨリ起算シ五箇年間其ノ者ノ發行ニ係ル圖書ノ檢定ヲ行ハサルコトアルヘシ

附則

第二十二條ハ明治三十三年三月末日前ニ檢定ヲ受ケタル圖書ニハ之ヲ適用セス

〔參照〕

文部省令第三號教科用圖書檢定規則(明治二十年五月七日)抄錄

第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ該圖書二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定額並ニ添ハ文部省ニ納ムヘシ但檢定ヲ得タル後定價ヲ增加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ

第九條 檢定出題中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ヲ納ムルコトヲ要セス

○農商務省令第十九號

明治三十五年農商務省令第七號漁業法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十年十月十日

農商務大臣松岡康毅

第二十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ入漁者ニ於テ専用漁業免許ノ告示アリタル後一箇年以内ニ免許漁業原簿ノ登錄ヲ申請シテ其ノ登錄ヲ受ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ第六十五條第一號中「第五十一條」ノ五字ヲ削除シ同條ヲ第六十五條ノ二ニ改ム

第六十五條 第五十一條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十五日以下ノ禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ漁具及漁獲物ヲ沒收ス但シ沒收スヘキ漁獲物ヲ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第七十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第七十六條 明治四十年九月三十日以前ニ専用漁業免許ノ告示アリタル専用漁場ニ對スル第二十六條ノ入漁ノ登錄申請ハ明治四十一年九月三十日迄之ヲ爲スコトヲ得

○逓信省令第四十七號

明治三十三年^{十二}逓信省令第八十七號船舶検査法施行細則中左ノ通改正ス

明治四十年十月十一日

逓信大臣山縣伊三郎

第五十二條第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

第三區ノ二 紀伊國駒崎ヨリ太地崎ニ至ル線内

○逓信省令第四十八號

明治四十年十月五日 逓信省令第二十一號勸業債券購買媒介郵便規則中左ノ通改正シ本月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

逓信大臣山縣伊三郎

第一條ニ左ノ一項ヲ追加ス

一等郵便局ニ於テ前項ノ委託ヲ受ケタルトキハ其ノ債券ヲ適宜各郵便局所ニ配付ス

第三條第四條及第六條ヲ左ノ通改ム

第三條 郵便局所ノ媒介ニ依リ勸業債券ヲ購買セムトスル者ハ其ノ代金ヲ郵便局所ニ納付シ即時債券ヲ受取ルヘシ

第四條 前條ノ債券代金ニ對シテハ郵便局所ニ於テ通常爲替證書ヲ作製シ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

第六條 本規則ニ依ル通常爲替證書ニハ一枚ノ金額ニ制限ヲ付セス

第七條中「日本勸業銀行ヨリ」之ヲ「日本勸業銀行ヨリ」現金ヲ以テ之ヲ徴收スト改ム

〔参照〕

逓信省令第二十一號勸業債券購買媒介規則(明治四十年五月九日)抄録

第三條 勸業債券購買媒介ヲ請求セムトスルモノハ債券代金ニ對シテ通常爲替出請求書ヲ作製シ且其ノ特殊取扱指定欄ニ勸業債券購買ノ旨ヲ附記シ之ニ現金ヲ添へ郵便局所ニ提出シ爲替金受領證書ヲ受取ルヘシ但シ爲替料金ハ購買者ニ於テ之ヲ納付ヲ要セス

前項ノ場合ニ於テ郵便局所ハ通常爲替證書ヲ作製シ所轄一等郵便局ヲ經テ之ヲ郵便爲替貯金管理所ニ送付ス

第四條 一等郵便局ニ於テ前條第二項ニ依リ爲替證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ對シテ債券ヲ債持表記郵便ニ依リ購買者ニ送達ス

第六條 債券賣切レ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ債券ノ交付ヲ爲ス能ハサルトキハ債券代金ハ之ヲ其ノ購買請求人ニ還付ス

第七條 勸業債券購買媒介取扱料金ハ債券額(金)ニ通シ付金十錢ノ割合ヲ以テ總テ日本勸業銀行ヨリ之ヲ徴收ス

○逓信省令第四十九號

明治三十九年十月六日 逓信省令第二十五號電話規則中左ノ通改正シ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十月十九日

逓信大臣山縣伊三郎

第三十五條第一項第三號電話料中加入區域外通話ノ段「三里以内」ノ前ニ左ノ一行ヲ加フ

一里以内

金五錢

金五錢

○宮内省令第五號
勅任待遇奏任待遇宮内職員職制勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

明治四十年十一月一日

宮内大臣 伯耆田中光顯

勅任待遇奏任待遇宮内職員職制

第一條 侍從職ニ侍從職勅務及侍從職出仕ヲ置ク

侍從職勅務ハ三人侍從職出仕ハ五人共ニ奏任待遇トス側近ニ奉仕ス

第二條 式部職ニ舍人長ヲ置ク

舍人長ハ五人奏任待遇名譽職トス典式ニ關シ式部官ヲ助ク

第三條 諸陵寮ニ陵墓名譽守長ヲ置キ主獵寮ニ獵場名譽監守長ヲ置ク

陵墓名譽守長及獵場名譽監守長ハ各五人共ニ奏任待遇名譽職トス

第四條 御歌所ニ寄人及參候ヲ置ク

寄人ハ七人勅任待遇又ハ奏任待遇名譽職トス歌詠ニ關スル編纂選述ヲ分掌ス

參候ハ十五人奏任待遇名譽職トス歌御會ノ事ヲ分掌ス

第五條 各帝室博物館ニ評議員及學藝委員ヲ置ク

評議員ハ東京帝室博物館五人京都及奈良帝室博物館各二人共ニ勅任待遇又ハ奏任待遇名譽職ト

ス總長又ハ館長ノ諮詢ニ應ス

學藝委員ハ東京帝室博物館七人京都及奈良帝室博物館各三人共ニ奏任待遇名譽職トス列品ノ鑑

査解説及編纂著譯ヲ分掌ス

第六條 御用掛ハ本官アル者ヲ除クノ外勅任待遇又ハ奏任待遇トシ名譽職ト爲スコトヲ得

本官アル者ハ其ノ本官ノ待遇ヲ享ク

第七條 侍從職勅務侍從職出仕及御用掛ノ俸給ハ年俸トシ左ノ定限ニ依ル

侍從職勸務 千二百圓以下
 侍從職出仕 六百圓以下
 勅任待遇御用掛 三千圓以下
 委任待遇御用掛 二千圓以下
 宮内官官等俸給令第六條第十條乃至第十四條第十七條乃至第十九條中高等官ニ關スル規定ハ前
 項ノ職員ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 ○宮内省令第六號
 准判任待遇等外宮内職員職制左ノ通定ス

明治四十年十一月一日

宮内大臣伯耆田中光國

准判任待遇等外宮内職員職制
 第一條 大臣官房ニ受授員ヲ置ク
 受授員ハ三十人等外トス文書受授ノ雜務ニ從事ス
 第二條 侍從職ニ内舍人ヲ置ク
 内舍人ハ十六人准判任トス内禁ノ雜務ニ從事ス
 第三條 式部職ニ舍人ヲ置ク
 舍人ハ八十人准判任トシ宮内判任官又ハ他ノ准判任宮内職員ヨリ兼務ス典式ニ關スル雜務ニ從
 事ス
 式部職樂部ニ樂手及樂生ヲ置ク
 樂手ハ十五人准判任トス樂師ヲ助ク

樂生ハ三十人等外トス樂事ヲ修習ス
 第四條 大膳寮ニ主膳補及膳手ヲ置ク
 主膳補ハ專任十五人准判任トス主膳ヲ助ク
 膳手ハ專任十五人等外トス膳差ノ雜務ニ從事ス
 第五條 諸陵寮ニ陵墓守長及陵墓守部ヲ置ク
 陵墓守長ハ三十五人准判任トス陵墓ノ管守ニ從事ス
 陵墓守部ハ百八十八人名譽職又ハ有給職トシ名譽守部ハ准判任有給ノ守部ハ判任待遇トス共ニ陵
 墓守長ヲ助ク
 第六條 主殿寮ニ仕人ヲ置ク
 仕人ハ百七十五人等外トス宮殿管守ノ雜務ニ從事ス
 主殿寮警察部ニ皇宮警手ヲ置ク
 皇宮警手ハ三百二十五人判任待遇トス皇宮警部ヲ助ク
 第七條 主馬寮ニ調馬手馭手掌車及蹄鐵工長ヲ置ク
 調馬手ハ專任十人准判任トス馬匹調習ニ從事ス
 馭手ハ專任三十五人准判任トス馭術ニ從事ス
 掌車ハ六人准判任トス車輛ノ整備ニ從事ス
 蹄鐵工長ハ一人准判任トス蹄鐵ニ關スル技術ニ從事ス
 第八條 主獵寮ニ獵場監守長獵場監守鷹匠長及鷹匠ヲ置ク
 獵場監守長ハ九人准判任トス獵場ノ管守ニ從事ス
 獵場監守ハ專任三十三人名譽職又ハ有給職トシ名譽監守ハ准判任有給ノ監守ハ判任待遇トス共
 ニ獵場監守長ヲ助ク

鷹匠長ハ一人准判任トス鷹準ノ調習ニ従事ス
 鷹匠ハ八人等外トス鷹匠長ヲ助ク
 第九條 東宮職ニ東宮内舍人ヲ置ク
 東宮内舍人ハ六人准判任トス宮中ノ雜務ニ従事ス
 第十條 准判任職員ノ俸給ハ月俸トシ等級及俸給ノ定限ハ別表ニ依ル
 第十一條 陵墓守長及獵場監守長ハ三等以下トス其ノ俸給ハ年俸トシ陵墓守長ハ百五十圓以下獵場監守長ハ三百五十圓以下トス
 第十二條 陵墓名譽守部及獵場名譽監守ハ四等以下トス
 第十三條 陵墓守部獵場監守ノ俸給ハ年俸皇宮警手ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル
 獵場監守 自二十圓至百八十圓
 皇宮警手 自十二圓至二十圓
 第十四條 等外職員ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル
 受授員 自十圓至十七圓
 樂生 自五圓至十圓
 膳手 自十圓至十七圓
 仕人 自十圓至十七圓
 鷹匠 自十圓至三十圓
 第十五條 初メテ皇宮警手ニ採用スル者ノ俸給ハ十四圓以下トシ受授員膳手及仕人ニ採用スル者ノ俸給ハ十二圓以下トス
 判任特選以上ノ官職ニ在ル者又ハ在リタル者ヲ皇宮警手ニ採用スル場合及等外以上ノ官職ニ在ル者又ハ在リタル者ヲ受授員膳手若ハ仕人ニ採用スル場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ前官職ノ俸給額ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十六條 判任特選及等外ノ職員ハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ増俸スルコトヲ得ス
 第十七條 増俸ハ判任特選職員ニシテ年俸ヲ賜フ者ニ在リテハ三十六圓以內月俸ヲ賜フ者ニ在リテハ三圓以內トシ又等外職員ニ在リテハ二圓以內トス
 第十八條 宮内官官等俸給令第三條第四條第六條第十條乃至第十四條第十七條乃至第十九條ノ規定ハ本令ノ職員ニ之ヲ準用ス

附則
 第十九條 本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十條 本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セス雅樂手ハ樂手ニ雅樂生ハ樂生ニ財部ハ主膳補ニ膳部補ハ膳手ニ守部ハ陵墓守部ニ取者ハ取手ニ主獵局監守ハ獵場監守ニ命セラレタルモノトス
 第二十二條 宮内官官等俸給令第二十二條第二十三條ノ規定ハ本令ノ職員ニ之ヲ準用ス
 (別表)

准判任宮内職員等級及俸給表

内 舍 人	等級				
	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
級一	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓
級二	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十五圓	十五圓
樂 手	級一 十六圓	級二 十四圓	級三 十二圓	級四 十圓	級五 八圓

職名	東宮内舎人			職名	主 册 補		
	級三	級二	級一		級三	級二	級一
調 査 手	五十	四十	三十	調 査 手	七十五	五十五	三十五
取 手	六十	五十	四十	取 手	六十五	五十	三十五
監 工 長	六十	四十五	三十五	監 工 長	六十	四十五	三十五
主 册 補				主 册 補			
調 査 員	級三	級二	級一	調 査 員	級三	級二	級一
	三十五	四十五	三十五		三十五	四十五	三十五
	二十五	三十五	二十五		二十五	三十五	二十五
	十五	二十五	十五		十五	二十五	十五

○宮内省令第七號

帝室林野管理局支廳職制勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

明治四十年十一月一日

帝室林野管理局支廳職制

第一條 帝室林野管理局支廳ノ名稱位置及管轄區域ハ左ノ如シ

名 稱	位 置	管 轄 區 域
札幌支廳	北海道札幌區	札幌區 石狩區 天鹽區 網走區 日高區
東京支廳	東京府東京市	郡城區 若代區 上野區 下野區 荒川區 上野區 下野區 武蔵區 相模區 佐波區 伊豆國田方郡ノ内熱海町字佐美村南代村多賀村
名古屋支廳	愛知縣名古屋市	尾張區 三河區 美濃區 飛騨區 伊勢區 遠州區
静岡支廳	静岡縣静岡市	駿河區 遠江區 伊豆國田方郡ノ内熱海町字佐美村南代村多賀村

宮内大臣 伯耆田中光顯

- 第二條 各支廳ニ於テハ其ノ管轄區域ニ屬スル土地及林野ノ管理經營ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第三條 各支廳ニ支廳長ヲ置ク帝室林野管理局主事ヲ以テ之ニ充テ
- 支廳長ハ職務ヲ掌理シ所部職員ヲ監督ス
- 第四條 各支廳ニ帝室林野管理局技師屬及技手ヲ分屬セシム
- 第五條 各支廳ノ事務ヲ分擔セシムル爲出張所ヲ設キ前條ノ職員中ヨリ之ニ在勤セシム
- 各出張所ノ名稱位置及管轄區域ハ之ヲ告示ス
- 第六條 各支廳ニ分屬セシムル又ハ各出張所ニ在勤セシムル職員ノ配置ハ帝室林野管理局長官之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○宮内省令第八號

諸陵寮主殿寮出張所職制勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

明治四十年十一月一日

諸陵寮主殿寮出張所職制

- 第一條 諸陵寮及主殿寮ノ出張所ヲ京都ニ置ク
- 第二條 各出張所ニ所長ヲ置ク
- 第三條 所長ハ各本寮所屬ノ高等官又ハ判任官ノ中ヨリ之ヲ命ス

宮内大臣 伯耆田中光顯

第三條 各出張所ニ本寮所屬ノ宮内屬ヲ在勤セシメ主殿寮出張所ニ皇宮書部皇宮書手及仕人ヲ在勤セシム其ノ配置ハ各本寮頭之ヲ定ム

第四條 主殿寮出張所ニ殿掌殿部及殿丁ヲ置ク

殿掌ハ五人奏任待遇殿部ハ十三人判任待遇殿丁ハ三十人等外トス

第五條 殿掌ノ俸給ハ年俸殿部及殿丁ノ俸給ハ月俸トシ左ノ定限ニ依ル

殿掌 自百二十圓至百八十圓

殿部 自十圓至十七圓

殿丁 自五圓至十圓

第六條 宮内官官等俸給令第六條第十條乃至第十四條第十七條乃至第十九條明治四十年宮内省令

第六號第十六條第十七條ノ規定ハ第四條ノ職員ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十六年太政官達第四十一號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治十六年九月二日太政官達第四十一號ハ京都宮内省支廳中職員設置ノ件ナリ

○宮内省令第九號

大臣官房分課規程左ノ通定ム

明治四十年十一月一日

大臣官房分課規程

第一條 大臣官房ニ總務課調査課祕書課及文書課ヲ置ク

宮内大臣 伯耆田中光顯

第二條 總務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 行幸啓ニ關スル事項

二 皇族ニ關スル事項

三 救恤褒賞及贈賜ニ關スル事項

四 進獻ニ關スル事項

五 所管各局ノ主管ニ屬セサル財産ノ管理ニ關スル事項

六 前各號ノ外他課ニ屬セサル事項

第三條 調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 法規其ノ他重要ナル公文ノ起草及審査ニ關スル事項

二 皇族會議ニ關スル事項

三 帝室經濟會議ニ關スル事項

四 恩給扶助料等ニ關スル事項

第四條 祕書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密ニ關スル事項

二 職員ノ進退身分ニ關スル事項

三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

第五條 文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項

二 文書ノ翻譯ニ關スル事項

三 統計報告ノ調製ニ關スル事項

四 大臣官房ノ書類整理ニ關スル事項

附則
本令は明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○外務省令第七號

明治四十年三月三十一日
明治四十年十一月一日
外務大臣伯耆林董

第三條 臺灣ニ於ケル旅券ノ下付ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ樺太ニ於ケル旅券ノ下付ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル
臺灣住民カ内地ニ在リテ旅券ノ下付ヲ出願スルトキハ本令第二條第一項各號ノ事項及戶籍簿本添附ニ關スル規定ニシテ適用シ得サルモノハ之ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ出願官廳ニ内地旅券ヲ提出スルコトヲ要ス

(參照)

外務省令第一號外國旅券規則(明治四十年三月十五日)抄錄
第三條 臺灣ニ於ケル旅券ノ下付ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依ル
臺灣住民カ内地ニ在リテ旅券ノ下付ヲ出願スルトキハ本令ノ規定ニ依ル但シ第二條第一項各號ノ事項及戶籍簿本添附ニ關スル規定ニシテ適用シ得サルモノハ之ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ出願官廳ニ内地旅券ヲ提出スルコトヲ要ス

○大藏省令第四十八號

明治三十九年五月
明治四十年二月
大藏大臣法學博士男齋阪谷芳郎

第九條 左ノ二項ヲ加フ
記名國債證券ノ利札滅失又ハ紛失ニ由リ代利札交付ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ其ノ證券ノ引換ヲ

請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ引換ニ必要ナル事項ヲ代利札交付ノ請求書ニ附記シ之ニ該證券ヲ添ヘテ提出スルコトヲ要ス

第十三條ノ二 記名國債證券ニ付テ登錄ノ變更若ハ登錄所取扱店ノ轉換ヲ請求シ又ハ無記名國債證券ヲ記名證券ニ變換ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ其ノ證券ノ分割又ハ併合ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ分割又ハ併合ニ必要ナル事項ヲ登錄ニ關スル請求書ニ附記スルコトヲ要ス
記名國債證券ノ利札滅失又ハ紛失ニ由リ代利札交付ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ其ノ證券ノ分割又ハ併合ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ分割又ハ併合ニ必要ナル事項ヲ代利札交付ノ請求書ニ附記シ之ニ該證券ヲ添ヘテ提出スルコトヲ要ス

第十四條中「前二條」ヲ「前三條」ニ改ム
第十五條 國債證券ノ附屬利札盡キタルトキハ其ノ所有者ノ請求ニ因リ逐次次期以降ノ利札ヲ額足交付ス但シ時宜ニ由リ更ニ次期以降ノ利札ヲ附シタル證券ヲ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ之ヲ告示ス
前項利札ノ額足又ハ新證券ノ交付ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ該證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ但シ證券ハ請求後取扱店ノ通知ヲ得テ之ヲ提出スルコトヲ得

- 一 原證券ノ名稱額面金額ノ種類及枚數
- 二 原證券ノ記號及番號
- 三 繼足利札又ハ新證券ノ附屬利札面ニ記載スル利子仕拂期
- 四 記名無記名ノ區別
- 五 請求ノ年月日
- 六 請求者ノ住所

前項但書ノ場合ニ於テ請求後原證券ヲ他人ニ讓渡シ又ハ滅失若ハ紛失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ取扱店ニ届出ツヘシ

第二十二條第一項中最小額面金額ヲ額面金額種類ノ一ニ改ム

第二十六條ノ二、各共有者ノ持分相均シカラサル國債ニ付テ登錄ノ請求ヲ爲ス者ハ前二條ノ規定ニ依ル登錄ノ請求書ニ其ノ持分ノ金額別及氏名ヲ記載シ又ハ之ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第二十四條第二項ノ規定ハ前項ノ持分金額ニ之ヲ準用ス

第二十七條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 記名者ノ變更ニ在リテハ原記名及新記名、共有者ノ持分ノ變更ニ在リテハ其ノ持分金額及氏名

第二十八條第一項第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 記名者ノ變更ニ在リテハ原記名及新記名、共有者ノ持分ノ變更ニ在リテハ其ノ持分金額及氏名

第三十五條第二項中國債證券ノ下ニ又ハ其ノ利札ヲ加ヘ、分割若ハ併合又ハ滅失若ハ之ヲ滅失又ハ改メ代證券ノ下ニ又ハ代利札ヲ加フ

第三十八條中國債證券ノ下ニ又ハ其ノ利札ヲ代證券ノ下ニ何レモ又ハ代利札ヲ加フ

第三十九條 國債證券ノ分割ヲ請求スル者ハ併セテ一部ノ新規登錄、登錄簿移記又ハ登錄除却ヲ請求スルコトヲ得

無記名國債證券ト記名國債證券トノ併合ヲ請求スル者ハ併セテ新規登錄又ハ登錄除却ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ登錄、移記又ハ除却ニ必要ナル事項ヲ分割又ハ併合ノ請求書ニ附記スルコトヲ要ス

第五十二條第二項中但シノ下ニ利子仕拂期開始前ヲ加フ

第六十二條ニ左ノ一項ヲ加フ
滅失又ハ紛失シタル無記名國債證券ノ附屬利札中利子仕拂期ノ開始セサルモノ現存スルトキハ前項ノ規定ニ依リ元金ノ償還ヲ請求スル際之ヲ取扱店ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ利札ノ枚數及利札面ニ記載スル利子仕拂期ヲ請求書ニ附記スルコトヲ要ス

第六十五條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ第六十二條第二項ノ規定ニ依リ利札ヲ提出シタルトキハ償還ヲ受テヘキ元金中ヨリ其ノ提出利札相當ノ金額ヲ控除シ擔保額ヲ計算ス

第八十條第一項第一號中國債證券ノ引換ノ下ニ及第九條第二項ノ規定ニ依ル證券ノ引換ヲ同第六號ニ但シ乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ノ一部ヲ甲種國債登錄簿ニ移記スル爲其ノ殘部ニ對シ記名國債證券ノ交付ヲ要スルトキハ其ノ證券一枚毎ニ金二十錢ヲ加フノ但書ヲ加ヘ同第八號中ニ一件毎ニ金五錢ヲ證券一枚毎ニ金二十錢ニ改メ同第二項中共ノ多キ方ニノ下ニ「若シ其ノ金額相均シキトキハ孰レカ一方ニヲ加フ

〔參照〕
大藏省令第二十三號國債規則(明治三十九年五月二十九日抄録)

第十五條 國債證券ノ附屬利札並キタルトキハ其ノ所有者ハ該證券ヲ取扱店ニ提出シ次期以降利札ノ國債ヲ請求スヘシ但シ時宜ニ由リ更ニ次期以降ノ利札ヲ附シタル證券ヲ交付スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ該利札之ヲ指示ス

第二十二條 甲種國債登錄簿ノ登錄金額ハ各種國債證券ニ於ケル最小額面金額ヲ以テ算除シ得ヘキモノニ限ル

第二十七條 甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ登錄ノ變更ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

三 原記名及新記名
第二十八條 乙種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テ登錄ノ變更ヲ請求セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及署名捺印シタル書面ニ記名國債證券ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

五 原記名及新記名
第三十五條第二項

登錄變更又ハ登錄所管取扱店轉換ノ請求ト記名國債證券ノ分割若ハ併合又ハ滅失若ハ紛失ニ因ル代證券交付ノ請求トニ付テ亦前項ノ例ニ準ス
第三十八條 記名國債證券ノ滅失又ハ紛失ニ因リ代證券交付ノ請求ヲ爲ス者ハ併セテ登錄ノ除却ヲ請求スルコトヲ得ルノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ代證券交付ノ請求書ニ附記スルコトヲ要ス
第三十九條 第十二條ノ規定ニ依リ無記名國債證券ト記名國債證券トノ併合ヲ請求スル者ハ同時ニ新規定及ハ登錄除却ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ併合ノ請求書ニ附記スルニ
第五十二條 國債利子ノ任務期ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外毎年二回トシ各其ノ日以前六箇月間ニ屬スルモノヲ任務フ但シ元金償還ノ場合ニ於ケル定期分利子ハ元金ト同時ニ之ヲ任務フ
第八十條 左ノ各號ノ請求ヲ爲ス者ハ下ニ掲タル割合ヲ以テ手数料ヲ納ムルニ
一 海陸及ハ取扱シタル國債證券ノ引換 一枚毎ニ金二十圓
二 甲種國債登錄簿一件毎ニ金五圓
三 乙種國債登錄簿一件毎ニ金五圓
前各條ノ規定ニ依リ前項各號中ノ事項ヲ併セ請求スル場合ニ於テハ各事項ノ手数料金額ヲ比較シ其ノ多ニ從テ之ヲ納ムルニ

明治四十年十一月 大藏省令第四十九號 八國債規則第十五條但書ノ規定ニ依リ登錄券請求方ノ件ナリ

○大藏省令第四十九號

明治三十二年大藏省令第十四號中左ノ通改正ス

明治四十年十一月二十日

大藏大臣法學博士男爵谷芬郎

勝本稅關監督署ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

對馬國竹敷 竹敷稅關監督署

○陸軍省令第二十號

明治四十年ニ限リ徵兵事務條例施行細則附表八營兵集合地指定表ノ海軍兵集合地中「神戸」トアル

ヲ「京都」及「海濱湖島軍隊兵集合地中「神戸」トアルヲ「宇品」トス
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十一月十三日

陸軍大臣子爵寺內正毅

○司法省令第三十八號

廣島地方裁判所管内「福山區裁判所川北出張所」ヲ備後國深安郡中條村ニ移シ「福山區裁判所中條出張所」ト改稱ス

本令ハ明治四十年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十一月九日

司法大臣松田正久

○司法省令第三十九號

佐賀地方裁判所管内「佐賀區裁判所久池井出張所」ヲ肥前國佐賀郡春日村大字尼寺ニ移シ「佐賀區裁判所春日出張所」ト改稱ス

本令ハ明治四十年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十一月十六日

司法大臣松田正久

○司法省令第四十號

明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス
名古屋地方裁判所ノ部名古屋區裁判所熱田出張所ノ管轄欄中「稻永新田」ノ次ニ「築地」ヲ加フ

明治四十年十一月二十六日

司法大臣松田正久

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○文部省令第三十二號

當省所管ニ係ル不動産ノ登記ノ囑託ニ就テハ左ノ官吏ヲ指定ス

明治四十年十一月六日
北海道廳長官 府縣知事 文部大臣官房會計課長

○文部省令第三十三號
明治三十二年文部省令第三十四號中左ノ通改正ス

明治四十年十一月六日

文部大臣男爵牧野伸顯

第一條第一項ニ左ノ二號ヲ加ヘ第一號以下順次繰下ク

一 名稱
二 位置
第四條第一項中認定ヲ受ケタル學校ニ於テ「ノ下」ニ名稱、位置、ノ四字ヲ加フ

〔參照〕

文部省令第三十四號公立私立學校認定ニ關スル規程(明治三十二年六月二十八日抄録)
第一條 公立私立學校ニシテ授兵令第十三條又ハ文官任用令第三條ニ關シ官立府縣立中學校ト同等以上トシテ文部大臣ノ認定ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者、私立學校ニ在リテハ其學校代表者ニ於テ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ申請スヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若クハ其認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得
第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ學則、生徒定員、校地、校舍及學校維持ノ方法ヲ變更セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者私立學校ニ在リテハ其學校代表者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ又ハ中學校令施行規則ニ依リ文部大臣ニ届出フヘキ事項ニ關シテハ各其ノ規定ニ依ルヘシ

○文部省令第三十四號

明治三十八年文部省令第十二號私立醫學專門學校指定規則中左ノ通改正ス

文部大臣男爵牧野伸顯

第一條中「醫師免許規則第三條」ヲ「醫師法第一條第一項第一號」ニ改ム
附則

明治十六年十一月二十五號布告醫師免許規則第三條ニ依リ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校ハ醫師法第一條第一項第一號ニ依リ指定シタルモノト看做ス

〔參照〕

文部省令第十二號私立醫學專門學校指定規則(明治三十八年七月一日抄録)
第一條 私立醫學專門學校ニシテ醫師免許規則第三條ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但特別ノ規定ニ依リ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

○文部省令第三十五號

臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

文部大臣男爵牧野伸顯

臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

第一條 臺灣總督府中學校第二部ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク
第二條 臺灣總督府高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

○遞信省令第五十號

明治三十九年十一月一號遞信省令第五十一號年賀特別郵便規則中左ノ通改正ス

遞信大臣山縣伊三郎

第一條 年賀郵便物ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ特別取扱ト爲スコトヲ得

明治四十年十一月六日

文部大臣男爵牧野伸顯

北海道廳長官 府縣知事 文部大臣官房會計課長

○文部省令第三十三號

明治三十二年文部省令第三十四號中左ノ通改正ス

明治四十年十一月六日

文部大臣男爵牧野伸顯

第一條 第一項ニ左ノ二號ヲ加ヘ第一號以下順次繰下ク

一 名稱

二 位置

第四條 第一項中認定ヲ受ケタル學校ニ於テノ下ニ「名稱、位置」ノ四字ヲ加フ

〔參照〕

文部省令第三十四號公立私立學校認定ニ關スル規程(明治三十二年六月二十八日)抄録

第一條 公立私立學校ニシテ徵兵令第十三條又ハ文官任用令第三條ニ關シ 官立府縣立中學校ト同等以上トシテ文部大臣ノ認定ヲ受ケントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理若シテ私立學校ニ在リテハ其學校代表者ニ於テ左ノ事項ヲ記述シタル書類ヲ添ヘ申請スヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申シ若シテ其認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ學則生徒定員校地校舍及學校維持ノ方法ヲ規定セんとスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理若シテ私立學校ニ在リテハ其學校代表者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ又ハ中學校令施行規則ニ依リ文部大臣ニ届出フヘキ事項ニ關シテハ各其ノ規定ニ依ルヘシ

○文部省令第三十四號

明治三十八年文部省令第十二號私立醫學專門學校指定規則中左ノ通改正ス

明治四十年十一月八日

文部大臣男爵牧野伸顯

第一條 中醫師免許規則第三條ヲ「醫師法第一條第一項第一號」ニ改ム

附則

明治十六年十一月二十五號布告醫師免許規則第三條ニ依リ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校ハ醫師法第一條第一項第一號ニ依リ指定シタルモノト看做ス

〔參照〕

文部省令第十二號私立醫學專門學校指定規則(明治三十八年七月一日)抄録

第一條 私立醫學專門學校ニシテ醫師免許規則第三條ニ依リ文部大臣ノ指定ヲ受ケントスルトキハ其ノ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ但特別ノ規定ニ依リ既ニ文部大臣ニ開申シタル事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

○文部省令第三十五號

臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治四十年十一月十五日

文部大臣男爵牧野伸顯

臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程

第一條 臺灣總督府中學校第二部ノ生徒及卒業生ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校ノ生徒及卒業生ト同一ノ取扱ヲ受ク

第二條 臺灣總督府高等女學校ノ生徒及卒業生ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業生ト同一ノ取扱ヲ受ク

ヲ受ク

○遞信省令第五十號

明治三十九年十一月一號遞信省令第五十一號年賀特別郵便規則中左ノ通改正ス

明治四十年十一月二十二日

遞信大臣山縣伊三郎

第一條 年賀郵便物ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ特別取扱ト爲スコトヲ得

第四條 特別取扱ヲ受ケムトスル年賀郵便物ハ送ラニ束トシ年賀郵便ト記載シタル附札ヲ爲シ郵
便局所ニ差出スヘシ但シ其ノ数量ノ少キモノハ之ヲ封筒ニ納メ年賀郵便ト表記シテ郵便ニ投
入スルコトヲ得

〔参照〕

逓信省令第五十一號年賀特別郵便規則(明治三十九年十一月二十九日)附錄
第一條 十通以上ノ年賀郵便物ハ本規則ニ依リ送ラニ束トシ年賀郵便ト記載シタル附札ヲ爲シ
第四條 特別取扱ニ依ル年賀郵便物ヲ送ラニ束トシ年賀郵便ト記載シタル附札ヲ爲スヘシ

○内務省令第二十七號
藥品營業並藥品取扱規則第二十六條第二十七條及第三十七條ノ三ニ依ル命令左ノ通定ム

明治四十年十二月十一日

内務大臣原敬

- 第一條 藥品營業者藥局方適否試験ノ目的ヲ以テ藥品ヲ一時貯藏スルハ規則第二十六條及第二十
七條ニ依ルノ限ニ在ラス
- 第二條 藥品營業者製藥又ハ精製原料(藥局製劑ノ原料ヲ除ク)ニ供スル目的ヲ以テ藥品ヲ貯藏シ
又ハ其ノ目的ヲ以テ營業者間ニ販賣スルハ規則第二十六條及第二十七條ニ依ルノ限ニ在ラス
- 第三條 第一條及第二條ノ藥品ハ藥局又ハ陳列所以外ノ場所ニ他ノ藥品ト區別シテ貯藏スルコト
ヲ要ス
- 第四條 第一條及第二條ノ藥品ハ第一號又ハ第二號様式ノ帳簿ニ記入シ其ノ出納ヲ明ニスルコト
ヲ要ス
- 第五條 第三條ノ規定ニ從ヒテ貯藏シ且前條ニ依リ帳簿ニ記入シタルモノニ非サレハ第一條ノ目
的ヲ以テ貯藏シ又ハ第二條ノ目的ヲ以テ貯藏販賣スルモノト認ムルノ限ニ在ラス
- 第六條 規則第二十七條ノ三ノ藥劑師ハ之ヲ使用スル藥種商ニ於テ地方長官ニ其ノ届出ヲ爲シ
ル者タルコトヲ要ス
- 前項ノ藥劑師ハ其ノ藥種商ノ營業所以外ニ於テ藥品取扱ニ從事セサル者タルコトヲ要ス
- 第七條 前條ノ藥種商其ノ藥劑師ヲ連署ヲ以テシ藥劑師免狀ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
- 第八條 前條ノ藥種商其ノ藥劑師ヲ解雇シタルトキハ十日以内ニ地方長官ニ届出ヘシ
- 藥劑師失踪ノ宣告ヲ受ケ若ハ死亡シ又ハ免狀面ニ異動ヲ生シタルトキ亦前項ニ同シ但シ失踪又
ハ死亡ノ場合ニ於テハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 第六條ノ藥劑師ニシテ其ノ藥種商ノ營業所以外ニ於テ藥品取扱ニ從事シタル者及第七條

ニ違背シタル者ハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治四十年法律第三十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一號様式ノ一(試験用品用)

備

一、倉庫營業者運送取扱人其他營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受タル者ニ寄託中ニ係ル藥品ハ寄託者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘカラス若シ「受入」レタル試驗品ヲ上記ノ者ニ寄託スル等試驗終了前運送シタルトキハ「受入」及「試験中」ノ欄ヲ朱書訂正シ其ノ事由ヲ備考トシテ附記スヘシ

二、藥品營業者藥品ヲ他ノ藥品營業者ニ寄託シタルトキ亦前記ニ準ス但シ受寄者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘシ

三、同日中ニ數回受拂フ爲ニタルトキハ其ノ都度受拂數量等ヲ記入スルモ差支ナシ

四、同一種類ノ藥品ヲ數回受入レタル場合ニハ「試験中」ノ欄ニハ其ノ數回分ノ物ヲ合算シ又「受入總額」ノ欄ニハ當日不合格ト決定シタル額ヲ合算シテ記入スヘシ

五、「減損」ノ欄ニハ藥品ノ試験減、小分減、破損減等ノ數量ヲ記入スヘシ

六、不合格品ヲ他人ノ手ニ渡シ處置シタルトキハ其ノ渡先ヲ記入スヘシ其ノ減損シタルトキハ「處置方法」ノ欄ニ記入スヘシ

七、「合格」及「不合格」ノ欄ニハ當日受入レタル物ニ係ルト否ト同ハス當日試験成績ノ決定シタル數量ヲ記入スヘシ

八、頁ノ改マルトキハ次頁ノ始メニ其ノ前頁ノ終ノ數ヲ繰越高トシテ記入スヘシ

考

不合格品		
受入總額	處置方法	其數量

第一號様式ノ二(製藥原料用)

藥品名					
月	日	試験品			
		受入	合格	不合格	減損

試験中

備

一、倉庫營業者運送取扱人其他營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受タル者ニ寄託中ニ係ル藥品ハ寄託者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘカラス若シ「受入」レタル藥品ヲ上記ノ者ニ寄託スルトキハ「受入」ノ欄ニ數量及寄託先ヲ備考トシテ附記スヘシ

二、藥品營業者藥品ヲ他ノ藥品營業者ニ寄託シタルトキ亦前記ニ準ス但シ受寄者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘシ

三、受入レタル藥品ヲ返戻シ、料棄シ又ハ他ノ方法ニ依リ處置シタルトキハ「渡渡」ノ欄ニ其ノ數量及處置方法ヲ記入スヘシ其ノ減損シタルトキハ亦同シ

四、同日中ニ數回受拂フ爲ニタルトキハ其ノ都度受拂數量等ヲ記入スルモ差支ナシ

五、同一種類ノ藥品ヲ數回受入レタル場合ニハ「現在處置」ノ欄ニハ其ノ數回分ノ物ヲ合算シテ記入スヘシ

六、頁ノ改マルトキハ次頁ノ始メニ其ノ前頁ノ終ノ數ヲ繰越高トシテ記入スヘシ

七、此ノ帳簿ニハ精製原料ヲモ記入スヘシ

第二號様式ノ一(試驗藥品用)

藥品名		受入		渡		製劑濟 數量	現在 殘
月	日	數量	受入先	數量	賣渡先		

藥品名	前日ヨリ繰越	受入	試験		減損	試験中	不合格品		其數量
			合格	不合格			總受領	處置方法	

月 日

備考

- 一、倉庫營業者運送取扱人其他營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケル者ニ寄託中ニ係ル藥品ハ寄託者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入ス、ヘカラス若ニ試験品ト上記ノ者ニ寄託スル等試験終了前處置シタルトキハ「受入」及「試験中」ノ欄ヲ朱訂正シ其ノ事由ヲ備考トシテ附記スヘシ
- 二、藥品營業者藥品ヲ他ノ藥品營業者ニ寄託シタルトキ亦前號ニ準ス但シ受寄者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘシ
- 三、同日中ニ數回受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ都度藥品名ヲ重複記入シ數回ニ受拂數量ヲ記入スルモ支支ナシ
- 四、同一種類ノ藥品ヲ數回ニ受入レタル場合ニハ「試験中」ノ欄ニハ其ノ數回分ノ物ヲ藥品別ニ合算シ又「受入總額」ノ欄ニハ當日不合格ト決定シタル額ヲ合算シテ記入スヘシ
- 五、「減損」ノ欄ニハ藥品ノ試験減、小分減、破損減等ノ數量ヲ記入スヘシ
- 六、不合格品ヲ他人ノ手ニ渡シ處置シタルトキハ其ノ渡先ヲ記入スヘシ其ノ減損シタルトキハ「處置方法」ノ欄ニ記入スヘシ
- 七、「合格」及「不合格」ノ欄ニハ當日受入レタル物ニ係ルト否トテ同ハス當日試験成績ノ決定シタル數量ヲ記入スヘシ

第二號様式ノ二(製藥原料用)

備考	藥品名	受		入		出		製藥數量	現在品總計
		前日繰越	受入	受入先	数量	賣渡先	数量		

備考
 一、倉庫營業者運送取扱人其他營業者範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケル者ニ寄託中ニ係ル藥品ハ寄託者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘカラス若シニ受入レタル藥品ヲ上記ノ者ニ寄託スルトキハ「賣渡」ノ欄ニ數量及寄託先ヲ記入スヘシ
 二、藥品營業者藥品ヲ他ノ藥品營業者ニ寄託シタルトキ亦前記ニ準ス但シ受寄者ニ於テ「受入」ノ欄ニ記入スヘシ
 三、受入レタル藥品ヲ返戻シ、廢棄シ又ハ他ノ方法ニ依リ處置シタルトキハ「賣渡」ノ欄ニ其ノ數量及處置方法ヲ記入スヘシ其ノ減損シタルトキ亦同シ
 四、同日中ニ數回受拂ヲ爲シタルトキハ其ノ都度受拂數量ヲ記入スルモ差支ナシ
 五、同一種類ノ藥品ヲ數回受入レタル場合ニハ「現在品」ノ欄ニハ其ノ數回分ノ物ヲ合算シテ記入スヘシ
 六、此ノ欄ニハ精製原料ヲモ記入スヘシ
 ○内務省令第二十八號
 藥劑師藥種商又ハ製藥者何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品又ハ製劑(藥局方ニ記載シタル藥品ヲ指)

ヲ新ニ製造發賣シ又ハ輸入發賣セントスル者ハ見本品ヲ添へ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ届出ヘシ
 前項ノ藥品又ハ製劑ト同一品ニシテ名稱若ハ製法又ハ製造元ヲ異ニスルモノニ關シテ亦前項ニ同

本令ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス
 本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十一年二月十一日
 内務大臣原敬

○内務省令第二十九號
 明治四十年勅令第四十五號ハ明治四十一年二月一日ヨリ之ヲ東京府大島及八丈島ニ施行ス
 明治四十一年十二月二十八日
 内務大臣原敬

〔参照〕
 明治四十年三月十六日勅令第四十五號ハ沖繩縣間切島嶼ニ東京府伊豆七島及小笠原ニ於ケル名稱及區域ノ變更等ニ關スル件ナリ
 ○内務省令第三十號
 沖繩縣及島嶼町村制ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ東京府大島ニ同年十月一日ヨリ之ヲ同府八丈島ニ施行ス
 明治四十一年十二月二十八日
 内務大臣原敬

○大藏省令第五十號
 煙草專賣法第六條ニ依リ專賣局東京收納所外十四專賣局收納所管内ニ於ケル明治四十一年煙草耕作種類段別左ノ通之ヲ定ム
 明治四十一年十二月十八日
 大藏大臣法學博士勇齋阪谷芳郎

Table of administrative divisions for Yamaguchi Prefecture (縣) and its subprefectural regions (支庁). It lists various districts (郡), cities (市), and towns (町), along with their respective types (種類) and administrative status (地位).

Table of administrative divisions for Yamaguchi Prefecture (縣) and its subprefectural regions (支庁). It lists various districts (郡), cities (市), and towns (町), along with their respective types (種類) and administrative status (地位).

明治四十年十二月 省令 大藏省第五十號

納書局專所收三賣																	
石川郡			東白川郡			北會津郡			大沼郡			河沼郡			南會津郡		
高野村	東根町	同	田島村	二長村	同	坂高村	千原村	同	新井村	東松村	同	柳谷村	新谷村	同	若宮村	新宮村	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六百六十五町歩以内	四十八町歩以内	同	十三町歩以内	四十六町歩以内	同	六十五町歩以内	四十四町歩以内	同	六十三町歩以内	三十三町歩以内	同	四十七町歩以内	三十二町歩以内	同	四十七町歩以内	三十二町歩以内	同
納書局專所收仙賣																	
縣手					縣田					縣山形							
二戸郡	上野郡	種別郡	外川郡	種別郡	藤原郡	千原郡	八木郡	小矢郡	三浦郡	東成郡	南成郡	上野郡	米澤市	北村山	山口村	大宮村	小田島村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十七町歩以内	四十八町歩以内	七百六十町歩以内	十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内
所取出局專納書小賣																	
縣新																	
三島郡	大井村	村山	名山	山田	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一三十五町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内

五〇五

納書局專所收三賣																	
石川郡			東白川郡			北會津郡			大沼郡			河沼郡			南會津郡		
高野村	東根町	同	田島村	二長村	同	坂高村	千原村	同	新井村	東松村	同	柳谷村	新谷村	同	若宮村	新宮村	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六百六十五町歩以内	四十八町歩以内	同	十三町歩以内	四十六町歩以内	同	六十五町歩以内	四十四町歩以内	同	六十三町歩以内	三十三町歩以内	同	四十七町歩以内	三十二町歩以内	同	四十七町歩以内	三十二町歩以内	同
納書局專所收仙賣																	
縣手					縣田					縣山形							
二戸郡	上野郡	種別郡	外川郡	種別郡	藤原郡	千原郡	八木郡	小矢郡	三浦郡	東成郡	南成郡	上野郡	米澤市	北村山	山口村	大宮村	小田島村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十七町歩以内	四十八町歩以内	七百六十町歩以内	十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内	三十三町歩以内
所取出局專納書小賣																	
縣新																	
三島郡	大井村	村山	名山	山田	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村	代村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一三十五町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内	四十三町歩以内

明治四十年十二月 省令 大藏省第五十號

五〇四

Table with columns for 縣島根, 縣島取, and 西伯郡. Rows list various villages and their administrative status.

Table with columns for 縣兵庫, 縣奈良, 縣和歌山, 縣滋賀, and 縣山梨. Rows list various villages and their administrative status.

納道尾實所收									
三好郡					賀茂郡				
東祖谷山村	西祖谷山村	三山莊	三山莊	三山莊	早田原村	三津町	東野村	下野村	竹原町
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内
納田所收									
縣香川		縣高知		縣香川		縣高知		縣香川	
宇摩郡	香川郡	長岡郡	香川郡	長岡郡	香川郡	長岡郡	香川郡	長岡郡	香川郡
上野山	安原	東山	安原	東山	安原	東山	安原	東山	安原
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内
縣本									
縣香川		縣高知		縣香川		縣高知		縣香川	
阿蘇郡	高知郡	阿蘇郡	高知郡	阿蘇郡	高知郡	阿蘇郡	高知郡	阿蘇郡	高知郡
阿蘇郡	高知郡	阿蘇郡	高知郡	阿蘇郡	高知郡	阿蘇郡	高知郡	阿蘇郡	高知郡
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内

納本局實所收									
北海郡					大野郡				
南野村	川登村	西野村	西野村	西野村	大野村	大野村	大野村	大野村	大野村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内
縣宮崎									
縣宮崎		縣宮崎		縣宮崎		縣宮崎		縣宮崎	
宮崎郡	宮崎郡	宮崎郡	宮崎郡	宮崎郡	宮崎郡	宮崎郡	宮崎郡	宮崎郡	宮崎郡
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内	百三十一町歩以内

○陸軍省令第二十一號

明治四十年陸軍省令第十二號第一項但書ニ關シ步兵第三十三及第三十四旅團司令部ハ其ノ開闢ノトキヲ以テ各共ノ衛戍地ニ就キタルモノト看做ス

明治四十年十二月三日

○陸軍省令第二十二號

陸軍軍人恩給取扱手續中左ノ通改正ス

明治四十年十二月二十日

陸軍大臣子爵寺内正毅

陸軍大臣子爵寺内正毅

第三條中「軍醫長」ヲ「軍醫部長」ニ改ム

第九條 服役年ノ計算ハ曆ニ依ル現役ヲ離レタル月ノ端日數ヲ集計シ之ヲ月ニ換算スル場合ニハ其ノ現役ヲ離レタル月ノ曆日數ニ從ヒ算定ス

第十條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ履歷書及兵籍寫ニハ所管長官第八書式備考ニ依リ之ヲ證明スヘシ

第十一條 退職恩給、免除恩給、增加恩給、賑恤金、給助金ノ請求書類ハ正本一通副本二通ヲ呈出シ所

管長官ハ其ノ正副各一通ヲ陸軍大臣ニ進達スルモノトス但シ現役中刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其ノ宣告文ノ謄本ヲ添附スルヲ要ス

第五書式中軍醫長ヲ「軍醫部長」ニ改ム

第八書式ヲ左ノ如ク改ム

第九書式中備考ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八書式(用紙美濃紙)

履歷書

明治何年何月何日 徴兵ニテ何師團何隊ニ入營(軍醫長ハハ) (任何官)

同 何年何月何日 何兵一尋卒

同 何年何月何日 何ノ科ニ依リ禁錮何箇月ニ處セラル

同 何年何月何日 刑罰満限

同 何年何月何日 何兵上等兵

同 何年何月何日 任何兵伍長

同 何年何月何日 勲員下令(下等勲章ノ所屬者ニ限リ)

同 何年何月何日 外征従軍トシテ何港出發

同 何年何月何日 何地上陸

同 何年何月何日 任何兵軍曹

何府縣何郡(市町)村(普通職人土農(平民))

何府縣何郡(市町)村(普通職人)

官 氏 名

何年何月何日生

同 何年何月何日 何港出發

同 何年何月何日 復員下令

同 何年何月何日 任何兵曹長

同 何年何月何日 某地(其地) (守備トシテ何港出發)

同 何年何月何日 何地上陸

同 何年何月何日 何港出發

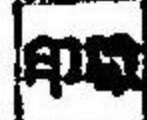
同 何年何月何日 何港隨着

同 何年何月何日 現役滿期(現役)

備考 死者ノ遺族ニ下付スル恩給ハ本式ニ準シて調製シ所管長官左記ノ如ク證明スルニ右相違無之依テ證明候也

年月日

職 氏 名



〔參照〕

陸軍省令第二十二號陸軍軍人恩給取扱手續(明治二十三年七月二十三日)抄録

第三條 傷疾疾病ニ基ク恩給ノ請求ニ係ルトキハ所管長官其診斷證書(第五書式)ヲ軍醫長ニ移シテ審査セシメタル上陸軍大臣ニ進達スルニ

地方醫師ノ診斷證書ヲ以テ恩給ヲ請求スルハ陸軍醫官ノ診斷ヲ受ケタルコトニ限リハサル場合ニ限リ其證書ニハ原因經過療法及ヒ現症ヲ詳細シテ醫師二名署名セシムル所管長官ハ醫官ヲシテ其病疾疾病ノ等差ヲ判定シ審査證書ヲ付シタル上書類ヲ軍醫長ニ移シテ之ヲ審査セシムルニ

第九條 服役年ヲ算スルニ當リ初任ノ月ニ端日數ヲ生シタルトキハ其月ノ大小ニ依リ計算スルヲ法トス故ニ現役ヲ離レタル月ノ端日數ト合セテ三十日以上ニ及ビタルトキハ其初任ノ月ノ大小ニ從ヒ一箇月ノ區域ヲ定ム

第十條 軍人恩給法施行規則第二條ニ依リ所管長官ヨリ其遺族ニ下付スル死者ノ恩給額ニハ宣給ニ限リ兵隊ノ寓ヲ論ニハシテ之ニ關ス

前項ノ恩給額(第八書式)及兵籍簿ニハ所管長官其事實ヲ證明スルニ但兵籍簿ノ證明書式ハ第八書式末文ニ依ル

第十一條 恩給賠償金給助金ノ請求書及ヒ恩給額ハ各二通ヲ差出スルニ

○文部省令第三十六號

明治四十年文部省令第三號仙臺高等工業學校規程中左ノ通改正ス

明治四十年十二月十九日

文部大臣野村敬司

第三條中各學科ノ學科目及其ノ程度ヲ左ノ如ク改ム
土木工學科

學科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
數學	五	五	五	四	二	二	二	二	二
物理學	四	四	四	四	二	二	二	二	二
物理學實驗				三	三	三			
化學	三	三	三						
英語	四	四	四	三	三	三	二	二	二
地質學	二	二	二						
測量	二	二	二	二	二	二			
應用力學		二	二	四	二	二			
建築材料	一	二	二	二	五	五			
石工學		一	二	二	二	二			

學科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
道							二		
鐵道及市街鐵道								二	
橋梁							四	四	四
河海工學							三	三	三
衛生工學							三	三	三
原動機				四	五	二			
電氣工學				二	五	二			
建築學							二	二	一
工業法令及經濟									
設計製圖及實習	一五	一〇	一三	一三	一五	一五	二〇	一五	二二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

(備考) 休業中其ノ他便宜ノ時ニ於テ工業ノ實地ニ就キ實習セシム以下各學科ノ備考ハ之ニ依リ

機械工學科

學科目	第一學年每週教授時數			第二學年每週教授時數			第三學年每週教授時數		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
數學	六	六	六						
物理學	四	四	四						

科目	第一學年			第二學年			第三學年			計
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	
物理學實驗										
英語										
工作法										
機械運動及力學										
材料及構造學										
水力學及水力原動機										
熱力學及熱力原動機										
原動機所設計及管理法										
機械重量及四格計算法										
特殊機械										
暖房及通風										
機械設計法										
電氣工學										
製造冶金學										
工業法令、經濟及簿記										
工場建築及衛生										
設計、製圖及實習										
算										
實										
計	一八	一一	一三	一六	一八	二〇	七	七	七	七

電氣工學科

科目	第一學年			第二學年			第三學年			計
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	
倫理										
體操										
數學										
物理學										
物理學實驗										
化學及製造化學										
英語										
電氣及磁氣										
交流理論										
電氣機械及器具										
電燈										
電氣鐵道										
電力										
電信及電話										
計	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二

科目	第一學年每 週教授時數			第二學年每 週教授時數			第三學年每 週教授時數		
	第一 學期	第二 學期	第三 學期	第一 學期	第二 學期	第三 學期	第一 學期	第二 學期	第三 學期
電氣工學設計法									
應用力學									
工作法		二			二				
原動機						七			
電氣化學						五			
製造冶金學									
工業法令、經濟 及簿記									
工場建築及衛生									
製圖實習及實驗	一五	一二		一〇	二一	一八	二三	一八	二二
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

採鑛冶金學科

科目	第一學年每 週教授時數			第二學年每 週教授時數			第三學年每 週教授時數		
	第一 學期	第二 學期	第三 學期	第一 學期	第二 學期	第三 學期	第一 學期	第二 學期	第三 學期
物理學	四	四	四						
數學	五	五	五						
體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	四	三	三	三	三	三	三
地質及礦物學	四	六	二						
採鑛學				三	三	三	三	三	三
冶金學				二	三	三	三	三	三
製造冶金學				四	二	二	二	二	二
電氣化學				二	二	二	二	二	二
原動機				六	五	五	五	五	五
電氣工學									
工業法令、經濟 及簿記									
工場建築及衛生									
吹管分析									
化學分析	六	四	四	六	五	六	七	五	六
試金術及冶金實 驗				一	四	四	四	三	三
物理學實驗									
化學及製造化學	三	三	三						

科目	第一學年每 週教授時數			第二學年每 週教授時數			第三學年每 週教授時數		
	第一 學期	第二 學期	第三 學期	第一 學期	第二 學期	第三 學期	第一 學期	第二 學期	第三 學期
物理學	四	四	四						
數學	五	五	五						
體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
倫理	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	四	四	四	三	三	三	三	三	三
地質及礦物學	四	六	二						
採鑛學				三	三	三	三	三	三
冶金學				二	三	三	三	三	三
製造冶金學				四	二	二	二	二	二
電氣化學				二	二	二	二	二	二
原動機				六	五	五	五	五	五
電氣工學									
工業法令、經濟 及簿記									
工場建築及衛生									
吹管分析									
化學分析	六	四	四	六	五	六	七	五	六
試金術及冶金實 驗				一	四	四	四	三	三
物理學實驗									
化學及製造化學	三	三	三						

設計圖及算書	一〇	七	六	九	九	一三	八	八一	一〇	一〇	一六	六	五	八
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

(備考) 第二學年以上ノ者ニ對シテハ特ニ探礦學科冶金學科ニ分テ各其ノ一ヲ專修セシム

附則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス
本令施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ハ其ノ卒業ニ至ルマ
テ新舊規定ヲ斟酌シ學校長之ヲ定ム

○農商務省令第二十號

國有林野法施行規則中左ノ通改正ス

明治四十年十二月二十日

農商務大臣松岡康毅

第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條ノ二 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ因リ鄰接地所有者ニ對シ通告書ノ送付ヲ爲ス
能ハサルトキハ大林區署長ハ官報ヲ以テ其ノ事由及通告ヲ爲スヘキ事實ノ要領ヲ公告スヘシ此
場合ニ於テハ其ノ公告ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ通告アリタル
モノト看做ス

○農商務省令第二十一號

森林法施行規則左ノ通定ム

明治四十年十二月二十六日

農商務大臣松岡康毅

森林法施行規則

第一條 公共團體又ハ社寺カ森林ヲ得喪シ又ハ廢止シタルトキハ其ノ代表者ハ遲滞ナク第一號様

式ニ準シテ屆書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

公共團體又ハ社寺ニ屬スル土地カ森林タルニ至リシトキハ其ノ代表者ハ遲滞ナク第二號様式ニ
準シテ屆書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ社寺ニ屬スル原野山嶽荒蕪地又ハ森林
タリシモノニシテ現ニ荒蕪セルモノニ付森林トシテ管理スヘキモノト否トヲ區分シ第三號様式

ニ準シテ區分書ヲ作り地方長官ノ定メタル期間内ニ之ヲ地方長官ニ差出シ認可ヲ受クヘシ
地方長官ハ區分ヲ更正シテ前項ノ認可ヲ與フルコトヲ得
前二項ニ依リ認可ヲ受ケタル區分ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ其ノ公共團體又ハ社寺ニ屬スル森林又ハ森林トシテ管理ス
ヘキ土地ニ付第四號又ハ第五號様式ニ準シテ管理ノ方法ヲ記載シタル屆書ヲ作り地方長官ノ定
メタル期間内ニ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ但シ地方長官ニ於テ森林法第九條ノ規定ニ依リ認可
ヲ受ケレムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ届出テタル方法ヲ變更シタルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ
地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 第十條ノ規定ハ森林法第十條ノ規定ニ依リ施業方法ヲ指定シ若ハ造林ヲ命ジタル者ニ之
ヲ準用ス

第五條 森林法第十一條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ

第六條 森林法第十三條ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ハ慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第七條 保安林編入解除ノ申請書ハ第六號様式ニ準シテ之ヲ作り第七號又ハ第八號様式ニ準シテ
作りタル圖面ヲ添附スヘシ但シ全部ノ解除ニ付テハ圖面ノ添附ヲ要セス

第八條 森林法第十七條ノ規定ニ依リ申請書ヲ却下スル場合ニ於テハ理由ヲ附シタル書面ヲ以テ

之ヲ爲スヘシ

第九條 保安林ノ編入解除ニ關スル處分ノ告示アリタルトキハ地方長官ハ遲滞ナク森林法第二十
三條ノ通知及揭示ヲ爲スヘシ

第十條 保安林ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項發生シタルトキハ其ノ所有者ハ其ノ都度之ヲ
地方長官ニ届出ツヘシ森林法第十八條ノ規定ニ依リ告示アリタル森林ニ關シテモ亦同シ

- 一 森林所有者ノ變更
- 二 地番ノ分合

三 地形又ハ林相ノ異動但シ輕微ナルモノヲ除ク

前項第一號ノ届出ハ新ニ所有者トナリシ者ニ於テ之ヲ爲シ届書ニ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附
スヘシ

第十一條 農商務大臣ニ於テ森林法第二十七條ノ規定ニ依リ制限、禁止又ハ指定ヲ爲ス場合ニ於
テハ地方長官ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通達セシムヘシ

第十二條 森林法第二十八條ノ規定ニ依リ補償ハ農商務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官之ヲ行フヘシ

第十三條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損害ハ其ノ伐採禁止ノ當時存在スル
森林立木竹ヲ普通保安林ノ立木竹トシテ價額ヲ見積リ其ノ價額ノ年利五厘ニ相當スル金額ヲ以
テ毎年ノ直接損害額ト看做シ之ヲ算定スヘシ

前項損害ノ算定ニ付テハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル森林ニ在リテハ伐採禁止ノ當時其ノ未タ伐期
ニ達セサル森林ニ在リテハ其ノ伐期ニ達シタル當時ノ立木竹ノ時價ヨリ三割ヲ減シタルモノヲ
以テ普通保安林ノ立木竹ノ價額ト看做ス但シ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ時價ニ對ス
ル割引ノ歩合ヲ増減スルコトヲ得

第十四條 伐期ニ達セサル森林ニ付テハ其ノ伐期ニ達シタル年ヨリ前條ノ補償ヲ爲スモノトス

前項ノ伐期ハ農商務大臣ニ於テ樹種作業別及地方ノ慣行等ヲ斟酌シテ之ヲ定メ伐採禁止ノ際地
方長官ヲシテ之ヲ保安林所有者ニ通達セシムヘシ

第十五條 森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依リ損害額ハ造林ニ要シタル實費額ニ依ルモノトス

第十六條 森林法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ損害ノ補償請求期間ハ其ノ既ニ伐期ニ達シタル
森林ニ在リテハ伐採禁止ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ九十日、其ノ未タ伐期ニ達セサル森林ニ在リ
テハ第十四條第二項ノ規定ニ依リ定マリタル伐期ニ達シタル年ノ初日ヨリ末日迄トス

森林法第二十八條第二項ノ規定ニ依リ損害ノ補償請求期間ハ各年分ニ付翌年三月三十一日迄ト
ス

第十七條 森林法第二十八條ノ規定ニ依リ補償ヲ請求セムトスル者ハ請求書ニ損害算定書ヲ添附
シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ請求者ニシテ立木竹ノミノ所有者ナルトキハ其ノ所有ヲ證スヘキ書面ヲ請求書ニ添附ス
ヘシ

第十八條 森林法第二十八條第三項但書ノ規定ニ依リ負擔ノ要否及其ノ金額ハ農商務大臣ノ認可
ヲ得テ地方長官之ヲ決定スヘシ

前項ノ負擔金額ハ地方長官ニ於テ之ヲ徵收ス

第十九條 森林法第三十二條ノ規定ニ依リ開墾ノ制限又ハ禁止ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二十條 森林法第四十條ノ規定ニ依リ土地使用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ事業計画書
及圖面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

- 一 使用スヘキ土地ノ所在、地番、種目、所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所
- 二 使用面積

三 使用ノ時期及期間
四 使用ノ目的

第二十一條 使用スヘキ土地内ニ左ニ掲ケタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ前

條ノ申請書ニ添附スヘシ

一 御料墓地及御料地

二 國有地

三 現ニ公用ニ供スル土地

四 社寺院内地

五 名所、舊跡及古墳墓

第二十二條 前二條ノ規定ハ森林法第四十條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用

ス

第二十三條 森林法第四十條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ得又ハ協議調ヒタル後同條同項ノ目的ニ

土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ但シ帝室林野管理局

又ハ政府ニ在リテハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ届書又ハ通知書ヲ受ケタルトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 森林法第五十五條ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求メトスル者ハ左ニ掲ケタル

事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出スヘシ

一 申請人及相手方ノ氏名、名稱、住所

二 使用又ハ收用スヘキ土地ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所

三 申請ノ目的及理由

四 立證方法

第二十五條 森林法第五十六條ノ規定ニ依リ土地收用法第六十七條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テ

爲ス公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 第二十條乃至第二十五條ノ規定ハ森林法第五十七條ノ規定ニ依ル水ノ使用ニ關スル

權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第二十七條 森林法第五十八條ノ規定ニ依リ工作物ノ使用、變更又ハ除却ノ許可ヲ受ケトスル

者ハ申請書ニ事業計劃書及必要ノ圖面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ種類、所在、位置等

二 使用、變更又ハ除却スヘキ工作物ノ所有者及關係人ノ氏名、名稱、住所

三 使用、變更又ハ除却ノ時期及期間

四 使用、變更又ハ除却ノ目的

五 其ノ他工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ關スル重要ノ事項

第二十八條 前條ノ規定ハ森林法第五十八條第一項但書ノ規定ニ依リ協議ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用

ス

第二十九條 第二十三條ノ規定ハ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ廢止シタル場合ニ

之ヲ準用ス

第三十條 第二十四條ノ規定ハ森林法第五十八條第三項ノ規定ニ依リ地方森林會ノ裁決ヲ求

ル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 地方森林會ノ裁決ハ會長ニ於テ其ノ原本ヲ當事者ニ交付スヘシ

第三十二條 森林法第六十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ

伐採セムトスル者ハ地方長官ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第三十三條 森林法第六十七條但書ノ規定ニ基キ森林組合ニ加入ノ義務ナシト定メタル者ノ買取及其ノ所有ニ係ル森林面積ハ之ヲ同法第六十六條各號ノ計算ニ加ヘス

第三十四條 森林組合設立ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ定款ヲ組合員タル資格ヲ有スル者ニ示レ期間ヲ指定シテ意見ヲ申出テシムヘシ

森林組合設立ノ際第三十六條第二項ノ規定ニ依リ加入義務ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ前項ノ期間内ニ地方長官ニ申請スヘシ

第三十五條 森林組合設立ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及前條第一項ノ規定ニ依ル意見書其ノ他森林法第六十六條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證明スル書面ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三十六條 御料林又ハ國有林ニ付テハ帝室林野管理局又ハ政府ハ獨立シテ經營スルヲ不便ナリトスル場合ヲ除クノ外森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス

前項以外ノ森林ニシテ試驗演習等特種ノ目的ニ供セラレ若ハ面積廣大ニシテ獨立經營ノ方法確定シ其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ地方長官之ヲ協同經營ニ屬セシムルノ必要ナシト認メタルモノニ付テハ其ノ森林所有者ハ森林組合ニ加入スルノ義務ナキモノトス

第三十七條 森林法第九條第十條第二十七條又ハ第七百七條ノ規定ニ依リ處分ヲ受ケタル森林カ森林組合ノ經營ニ屬シタル場合ニ於テ其ノ處分ノ變更又ハ解除ヲ要スルモノアルトキハ森林組合ハ其ノ處分ヲ爲シタル官廳ニ對シ其ノ變更解除ヲ申請スルコトヲ得

第三十八條 森林組合ニ於テ森林ノ施業案若ハ施業要領、造林計劃、林道若ハ河川ニ關スル工事、其ノ他事業ノ計劃設計ヲ定メムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項認可申請書ニハ其ノ費用及其ノ收支ニ關スル豫定ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第三十九條 森林組合ニ於テ總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款中ニ總代ノ選任解任ノ方法、解散及任期ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第四十條 森林組合合併ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書、總會ノ決議録、財産目錄、貸借對照表、合併契約書及合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

森林組合解散ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ理由書及總會ノ決議録ヲ添附シ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第四十一條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ森林組合ハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

一 定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢シタルトキ

二 理事、監事ノ選任若ハ解任アリタルトキ又ハ其ノ缺ケタルトキ

三 森林組合令第十六條第一號第二號又ハ第五號ノ事項ヲ定メタルトキ

四 森林組合令第二十三條第二項ノ書類ニ付總會ノ調査ヲ經タルトキ

第四十二條 森林組合ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

第四十三條 森林法第七十八條ノ規定ニ依リ火入ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ御料林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テハ帝室林野管理局森林官吏、國有林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テハ林區署森林官吏其ノ他ノ森林又ハ之ニ接近セル土地ニ係ルモノニ付テハ警察官吏ニ申請スヘシ

火入ヲ爲サムトスル森林又ハ土地カ他人ノ所有若ハ占有ニ屬スルトキハ所有者又ハ占有者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ但シ御料林又ハ國有林内ノ火入ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條 前條ノ申請ヲ許可シタルトキハ第九號様式ニ準シテ許可證ヲ作り之ヲ申請人ニ交付スヘシ

前項ノ許可證ハ火入者ニ於テ火入ノ際之ヲ攜帶スヘシ

第四十五條 火入ニ付延焼其ノ他危害ノ虞アルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ハ何時ニテモ火入ノ差止又ハ火入ノ方法若ハ期日ノ變更其ノ他相當ノ處置ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 森林又ハ之ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲シタル者ハ火氣消滅シタル後ニ非ヤレハ其ノ場所ヲ去立ルコトヲ得ス

第四十七條 第十條ノ規定ハ森林法第七條ノ規定ニ依リ造林ヲ命シタルモノニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者又ハ許可ヲ得タル期日ニ違ヒテ火入ヲ爲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス第四十六條ニ違反シタル者亦同シ

第四十九條 第四條第十條第二十三條第一項第二十六條第二十九條第四十七條及第五十條ノ規定ニ違反シテ届出ヲ怠リタル者又ハ第四十四條第二項ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

第五十條 本則施行ノ際現ニ森林法第二條ノ規定ニ依リ保安林所有者タル者ハ本則施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ其ノ土地ニ關スル權利ヲ證スル書類ヲ添附シテ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十一條 地方長官前條ノ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ保安林カ舊森林法ノ規定ニ基キ土地所有者ニ對シテ施業法要領ヲ通達シタルモノナルトキハ遲滞ナク更ニ森林所有者ニ對シテ之ヲ通達スヘシ其ノ届出前條ノ保安林所有者アルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第五十二條 公共團體又ハ社寺ノ代表者ハ本則施行ノ際現ニ存在スル公有林又ハ社寺有林ニ付第十號様式ニ準シテ届書ヲ作り本則施行後遲滞ナク之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第五十三條 本則施行前第三條若ハ前條ノ届出ニ相當スル届出ヲ爲シ又ハ第二條ノ認可ニ相當スル認可ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ届出又ハ認可ハ本則ニ依リタルモノト看做ス

第五十四條 本則ハ森林法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

公有林(社寺有林)取得(喪失)(廢止)届

所	在		地目	森林面積	所有者	備
	町村大字	字				
計						
						何某所打地ニ明治何年何月何年何月ニ至ル迄何十箇年
						何某所打地ニ明治何年何月何年何月ニ至ル迄何十箇年
						何某所打地ニ明治何年何月何年何月ニ至ル迄何十箇年
						何某所打地ニ明治何年何月何年何月ニ至ル迄何十箇年

右取得(喪失)又ハ地上權消滅(田畑ニ開墾)(何々)候ニ付此段及御届候也

何町(村)長(何社社神職又ハ何寺住職)

年月日

(氏子、檀徒又ハ信徒總代)

何 某

何 某

地方長官宛

注

一 公共團體又ハ社寺カ森林法第二條ニ依ル森林ノ所有者ト爲リタル場合ニ於テハ個考權ニ其ノ權利ノ種類及範圍ヲ記載スヘキモノトス以下第二號及第十號様式亦同シ

一 森林法第二條ニ依ル森林所有者ノ權利消滅シタル爲公共團體又ハ社寺カ森林所有者タルニ至レルトキハ取付届ヲ爲スヘキモノトス

一 地番ノ全部カ森林ニアラサルトキハ何番ノ内ト記載スヘシ第二號第四號第五號第十號様式亦同シ

一 面積欄ニハ實測又ハ見込面積ヲ記載シ其ノ段別ノ上ニ實測又ハ見込ノ文字ヲ附記スヘシ第二號第三號第四號第五號第六號第十號様式亦同シ

第二號様式

公有林(社寺有林)成立届

町村大字字	在	地目	森林面積	所有者	備
					考
					何某所有地ニ明治何年何月ヨリ何年何月ニ至ル迄何十何年何月ノ地上權ヲ得タルモノナリ
					何某所有地ニ明治何年何月ヨリ何年何月ニ至ル迄何十何年何月ノ地上權ヲ得タルモノナリ
					何某所有地ニ明治何年何月ヨリ何年何月ニ至ル迄何十何年何月ノ地上權ヲ得タルモノナリ
					何某所有地ニ明治何年何月ヨリ何年何月ニ至ル迄何十何年何月ノ地上權ヲ得タルモノナリ
計					何某所有地ニ明治何年何月ヨリ何年何月ニ至ル迄何十何年何月ノ地上權ヲ得タルモノナリ

右ハ今般森林ト相成候ニ付此段及御届候也

年月日

何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)
(何々森林組合理事)

(氏子 檀越又ハ信徒總代)

何 何
、、
、、
、、
、、
某 某

第三號様式

地方長官宛

管理區分書

町村大字字	在	地目	面積	所有者	事
					山
計					

備考
右御認可相成度此段申請候也

年月日

何町(村)長(何神社神職又ハ何寺住職)

(氏子 檀越又ハ信徒總代)

何 何
、、
、、
、、
、、
某 某

注意

一 總テノ箇所ヲ森林トシテ管理シ森林以外ニ供スル箇所ナキ場合ニ於テハ「森林トシテ管理セサルモノ」ト稱シテ
欄トシテ斜線ヲ劃スルモノトス
一 事由欄ニハ森林トシテ管理セサル箇所ニ付其ノ事由ヲ詳記スルモノトス

地方長官宛

管理方法届

所在 町村大字字 地番(ノ内)

備	管理方法	現	面	所
考	跡地ノ植栽	況	積	有 者
	天然生ヲ養育ス(杉ヲ植栽ス)	雑木林(杉松ヲ主トセル混成林ニシテ大凡三十年生乃至五十年生ノ杉二分十五年生乃至三十年生ノ松七分其ノ他ノ樹木一分) 地方ノ樹行ニ依リ三十年前後ヲ以テ育伐ス(大凡十五年間ニ輪伐ヲ爲ス)		

第四號様式

右及欄填候也

年月日

何町(村)長(何神社職員又ハ何寺住僧)何々森林組合
理事()
(氏子、種徒又ハ信徒總代)
何 何
、 某 某
、 某 某
、 某 某

第五號樣式

管理方法届

備 考	所在地目	町 村 大 字 字 地 番 丁 内
	所有 者	
	面 積	
	現 況	荒蕪地(草生地)
	管 理 方 法	植栽方法 人工植栽(天然生ヲ補育ス)
	三ナル樹種	栲(杉)(扁柏)
	植栽ノ時期 及期間	明治何年ヨリ 同何年ニ至ル何箇年間

年月日

何町(村)長(何神社職員又ハ何寺住僧)何々森林組合
理事()
何 某

第六號樣式

地方長官宛

保安林編入(解除)申請書

國 郡 町 村 大 字 字 地 番 地 目	全 面 積	要 編 入 (解 除) 實 積 又 ハ 見 込 面 積	所 有 者 住 所 氏 名
何 何 何 何 何 何	六 町 〇 〇 〇 〇	六 町 〇 〇 〇 〇	國 郡 町 (村) 大 字 何 何 某
ク ク ク ク ク ク	五 町 〇 〇 〇 〇	五 町 〇 〇 〇 〇	國 郡 町 (村) 大 字 何 何 某
、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、
何 何 何 何 何 何	五 〇 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇 〇	國 郡 町 (村) 大 字 何 何 某
ク ク ク ク ク ク	一 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	國 郡 町 (村) 大 字 何 何 某
、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、
何 何 何 何 何 何	五 〇 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇 〇	國 郡 町 (村) 大 字 何 何 某
ク ク ク ク ク ク	九 町 〇 〇 〇	九 町 〇 〇 〇	國 郡 町 (村) 大 字 何 何 某
、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、	、 、 、 、 、 、

以上編入ノ例

以上解除ノ例

右ハ何々(保安林編入又ハ解除)ヲ要スル事山ヲ詳記ス(ヘシ)ニ付保安林編入(解除)相成度(別紙圖面及附々添附)此
段申請候也

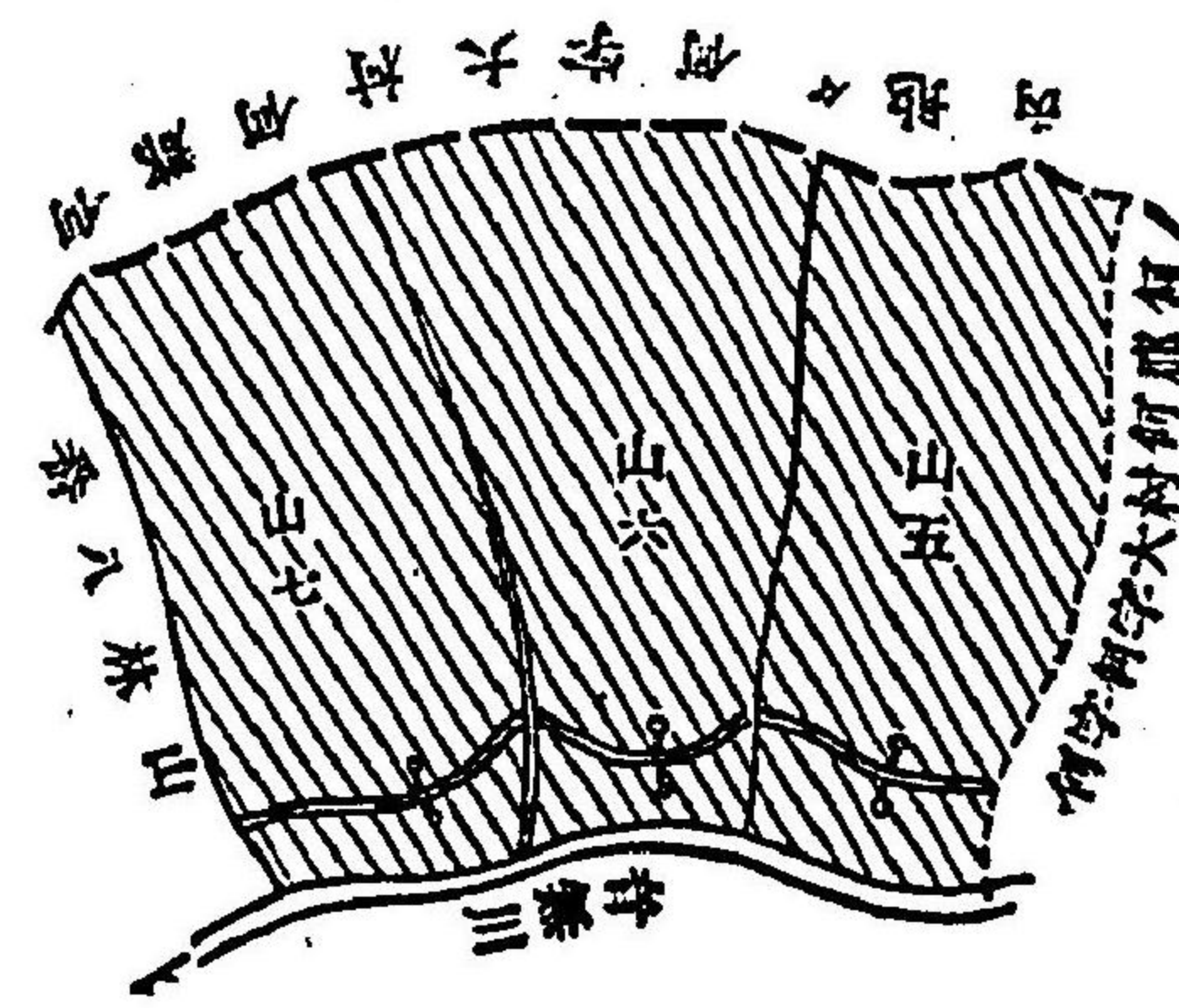
年月日
農商務大臣宛
住所
申請者 氏名(何々森林組合理事氏名)

第七號樣式

保安林編入圖

何國何郡何町(村)大字何字何番
又ハ番何乃至何番何

縮尺何百一分一



保安林編入要地

注意

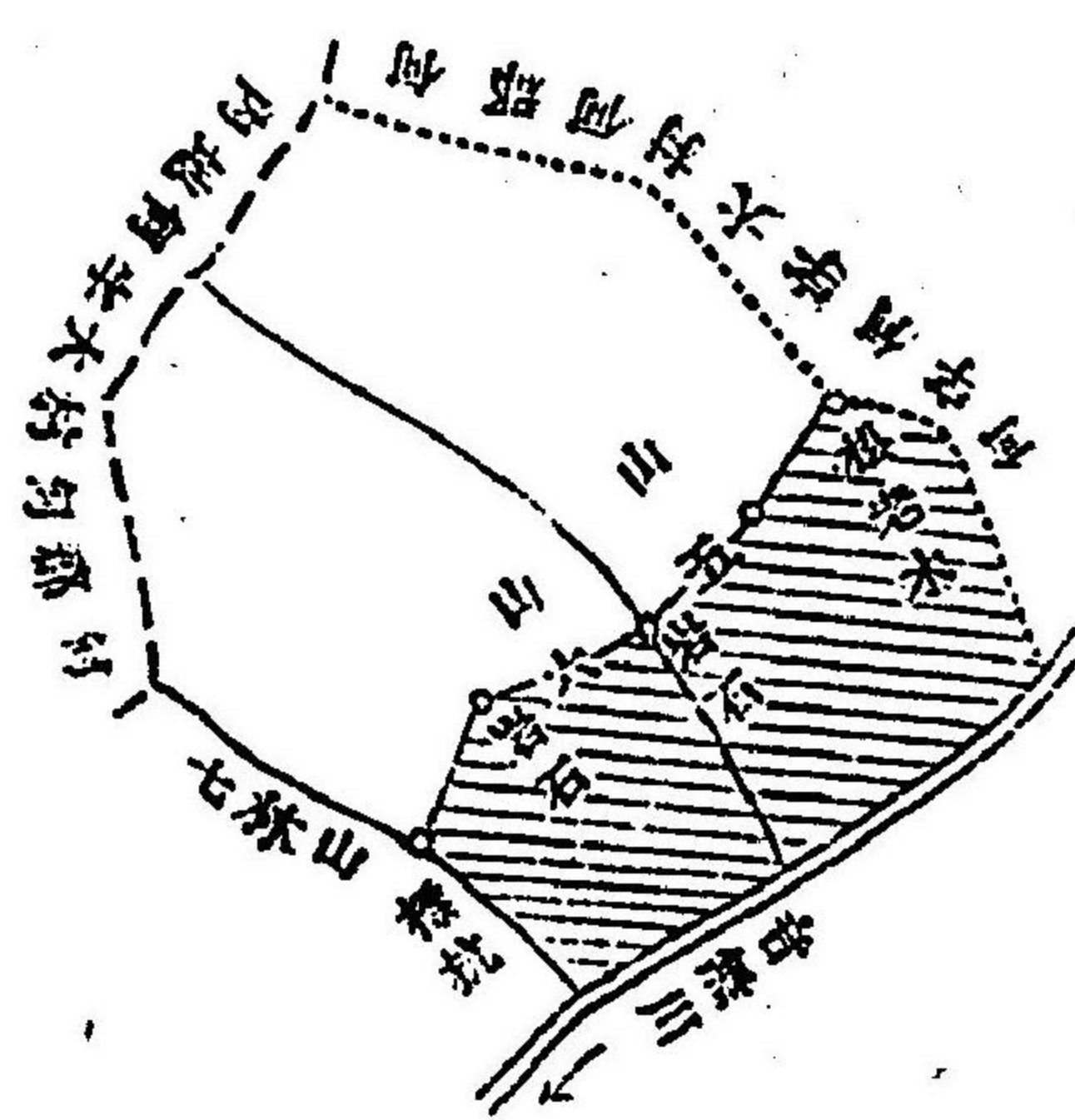
地番ノ一部ニ係ルトキハ編入スヘキ區域ノ境界ヲ判明ナラシムヘシ

第八號樣式

保安林解除圖

何國何郡何町何村大字何字何番
又ハ番何乃至何番何

縮尺何百一分一



保安林解除要地

第九號樣式

注意
解除スヘキ區域ノ境界ヲ判明ナラシムヘシ

表

森林火入許可證			
火入日	火入所	許可年月	取得官吏

裏

火入者心得
一 火入者ハ火入ノ際此ノ證書ヲ携帯スヘシ 一 火入者ハ證書ヲ火入初日ヲ火入箇所ニ持込 セル森林ノ所有者若ハ管理者ニ通知スヘシ 一 他ノ陸境ノ廣アル箇所ハ相當ノ防火設備 フガスヘシ 一 火入ニ關シ森林官吏又ハ警察官吏ノ指揮 アリタルトキハ其ノ指揮ニ従フヘシ

第十號樣式

公有林(社寺有林)現在屆

計	町村大字		在	地目	森林面積	所有者	備考
	大字	字					
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ
							何某所有地ニ明治何年何月何日ノ地上權ヲ得タルモノナリ

右ハ森林法施行規則第五十二條ニ依リ此段及御届候也

年月日

何町(村)長(何神社神職又ハ何住持)

(正子 權佐又ハ信徒總代)

何 某
、 、 、
、 、 、
、 、 、

地方長官宛

○農商務省令第二十二號

御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分林ニ對シ森林法適用ノ件左ノ通定ム

明治四十年十二月二十六日

農商務大臣 松岡康毅

御料地又ハ國有地ノ上ニ存在スル部分林ハ森林法第二十八條ニ依ル損害補償請求ノ場合ニ於テ造林者ノ有スル分收權ノ部分ニ限リ私有林ニ關スル規定ヲ適用スルノ外其ノ地籍御料ニ屬スルトキハ御料林ニ關スル規定ヲ適用シ其ノ地籍國ニ屬スルトキハ國有林ニ關スル規定ヲ適用ス

○逓信省令第五十一號

明治三十三年四月 逓信省令第十六號造船規程第二編中左ノ通改正シ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス

明治四十年十二月十日

逓信大臣 山縣伊三郎

第二章

第二條 汽罐ノ製造ニ供用スル鋼材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

一 抗張試驗 胴板用及ヒ支梁用鋼板、山形材共ノ他ノ形材ハ一平方吋ノ抗張力二十七噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ厚八分ノ三吋未満ナルトキハ百分ノ十七以上、厚八分ノ三吋以上ナルトキハ百分ノ二十以上、其ノ他ノ諸鋼板ハ一平方吋ノ抗張力二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ八吋ノ長ニ於テ厚八分ノ三吋未満ナルトキハ百分ノ二十以上、厚八分ノ三吋以上ナルトキハ百分ノ二十三以上ナルヲ要ス

支柱用鋼材ノ一平方吋ノ抗張力ハ二十七噸以上三十二噸以下、螺旋支柱用及ヒ鉸釘用鋼材ノ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ試驗材ノ徑ノ八倍ノ長ニ於テ支柱用鋼材ハ百分ノ二十以上、螺旋支柱用鋼材ハ百分ノ二十三以上、鉸釘用鋼材ハ百分ノ二十五以上ナルヲ要ス

製造ニ供シタル鋼材ニ前項ノ試驗ヲ執行セサル鉸釘ニ付テハ該鉸釘ヲ以テ有效ノ長カ試驗材ノ徑ノ二倍半ヲ有スル試驗材ヲ製作シ抗張試驗ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テ一平方吋ノ抗張力ハ二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ截面積ノ縮小ノ割合ハ百分ノ六十以上ナルヲ要ス

二 屈曲試驗 鋼板、支柱用及ヒ螺旋支柱用鋼材ハ試驗材ヲ熱セサルモノ及ヒ之ヲ血紅色ニ熱シ華氏八十度ヲ超エサル水中ニテ冷却シタルモノ共ニ試驗材ノ厚又ハ徑ノ三倍ヲ超ユサル

内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

鉸釘ハ之ヲ熱セシテ釘身ヲ百八十度屈曲シ相接著セシメ屈曲ノ外部ニ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第五條 塊鋼ハ左ノ試験ヲ執行スヘシ但試験材ハ之ヲ鍛鍊スルコトヲ得

一 抗張試験 一平方吋ノ抗張力ハ二十七噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ二吋ノ長ニ於テ百分ノ三十以上ナルヲ要ス

二 屈曲試験 一吋角ノ試験材ヲ作り一吋ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第六條 鐵板及ヒ鋼板ノ試験材ノ厚ハ汽罐ノ製造ニ供用スル板ノ厚ト同一ナルヲ要シ其ノ幅ハ試験材ノ厚八分ノ三吋未滿ナルトキハ二吋二分ノ一ヲ、八分ノ三吋以上八分ノ七吋以下ナルトキハ二吋ヲ、八分ノ七吋ヲ超ユルトキハ一吋二分ノ一ヲ超エサルヲ要ス

支柱用、螺旋支柱用及ヒ鉸釘用材料ノ試験材ノ徑ハ二分ノ一吋以上、塊鋼ノ試験材ノ徑ハ四分ノ三吋以下ナルヲ要ス

厚十六分ノ三吋ヲ超エサル鐵材及ヒ鋼材ニハ抗張試験ヲ省略スルコトヲ得

第七條 本章第一條及ヒ第二條ノ各試験ハ同一ノ部分ニ供用スル材料ニシテ其ノ種類及ヒ厚又ハ徑同一ナルトキハ鐵板、鋼板、支柱、螺旋支柱及ヒ鉸釘用材料ニ在リテハ各種ヨリ一箇、鉸釘ニ在リテハ五百箇未滿毎ニ一箇、本章第三條ノ試験ハ各銘解ヨリ一箇、本章第五條ノ試験ハ各塊ヨリ一箇ヲ採リ之ヲ執行シ検査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ二箇迄ニ増シ適否ヲ檢定スヘシ前項ノ試験材カ試験ニ合格セサルトキハ更ニ二箇ノ試験材ヲ採リ其ノ適否ノ檢定ニ二箇ノ試験材カ共ニ試験ニ合格スルトキハ之ヲ合格トス

第二章 材カ共ニ試験ニ合格スルトキハ之ヲ合格トス

第一條 第二號中「低壓汽箱ハ最大汽壓ヲ低壓汽箱ハ最大汽壓ニ〇・八ヲ乘シタルモノ」ニ改ム

同條第二項ノ次ニ左ノ四項ヲ加フ

一 「タービン」汽機ノ外筐ハ最良質材料ヲ以テ製造シ粗削ヲ爲シタル後左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

一 「タービン」式「タービン」汽機ノ高壓外筐ニ於テハ其ノ外筐一箇ヨリ成ルトキハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、二箇以上ヨリ成ルトキハ前部ノ外筐ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、後部ノ外筐ハ最大汽壓ノ三分ノ二

二 「タービン」式「タービン」汽機ノ低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ每平方吋四十五磅、後部ノ外筐ハ每平方吋三十磅

三 「タービン」式「タービン」汽機ノ後退外筐ニ於テハ最大汽壓

四 「タービン」式「タービン」汽機ノ外筐ニ於テハ第一膨脹階段ハ初壓力ノ一倍二分ノ一、以下各階段毎ニ二十五磅ヲ減ス但每平方吋三十磅ヲ下ルコトヲ得ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

「バーソンス」式「タービン」汽機ニ於テハ高壓タービン汽機ノ後端又ハ之ニ相當スル場所及ヒ低壓タービン汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ完全ナル迷出弁ヲ備フヘシ

第十五條中「注射冷汽及ヒ」ヲ削ル

第二十五條中「吸水口ヲ備フヘシ」ヲ「吸水口ヲ備ヘ該唧筒ニハ正給水唧筒ニ屬スルモノノ外別ニ給水管及ヒ制限弁ヲ備フヘシ」ニ改ム

第二十六條 前條ノ唧筒ノ外尙蒸汽唧筒一箇ヲ備ヘ各區劃室ヨリ溢水ヲ取り之ヲ船外ニ排出シ且海水ヲ冷汽器及ヒ甲板上ニ送り得ヘキ様裝置スヘシ但獨立ノ循環唧筒二箇以上ヲ備ヘ共ノ吐出口ニ於テ互ニ聯結スル裝置アルトキハ冷汽器ニ送水スル裝置ヲ爲ササルコトヲ得

第二十九條ニ左ノ但書ヲ加フ

但曲拐ヲ有セサル獨立直働給水唧筒ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十條中「及ヒ鍊鋼」ヲ削ル

第四章

第六條中「鉄釘ノ徑」ヲ「鉄釘孔ノ徑」ニ改メ同條ニ左ノ但書ヲ加フ

但平板ニ於テ累接サルヘキ板ノ厚ニ差異アル場合ニハ鉄釘孔ノ徑ハ其ノ平均ノ厚ヨリ小ナルヘカラス

第七條表中「累接ニシテ」ヲ「累接又ハ單覆板銜接ニシテ」ニ改ム

第八條中「〇」ノ下「累接ナルトキ」ヲ「累接又ハ單覆板銜接ナルトキ」ニ改ム「二〇」ヲ「二〇・七七」ニ改ム「九・二五」ヲ「二〇」ニ改ム「一八・五」ヲ「一九・二」ニ改ム但書中「二十六噸」ヲ「二十七噸」ニ改ム

第十條第二號ヲ左ノ如ク改ム

鋼製支柱 最小ノ徑一分二分ノ一ヲ超エサル螺旋支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付八千磅、最小ノ徑

一分二分ノ一以上ノ螺旋支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付九千磅、最小ノ徑一分二分ノ一ヲ超エサル螺旋支柱ニアラサル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付九千磅、最小ノ徑一分二分ノ一以上ノ螺旋支柱ニアラサル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付一萬磅

同條第四號中「二十六噸」ヲ「二十七噸」ニ改ム

第十六條表中「六・六〇〇」ヲ「六・八五〇」ニ改ム「九・九〇〇」ヲ「一〇・二八〇」ニ改ム「一一・〇〇〇」ヲ「一一・四二〇」ニ改ム「一一・五五〇」ヲ「一二・九六〇」ニ改ム「一八・八〇〇」ヲ「二二・三四〇」ニ改ム「二〇」ノ下ニ左ノ但書ヲ加フ

但鋼製支梁ニ在リテハ一平方吋ノ最小抗張力二十七噸ヲ超ユルトキハ其ノ割合ヲ以テ定數ヲ増加スルコトヲ得

第十八條第一項中「テイトン」式ノ下ニ「リーズ、フォーシ」社「バルブ」式「ベアドモア」式ヲ加フ

同條第二項中「鋼製火爐」ノ下ニ「及ヒ突出圈ノ距離八吋又ハ九吋ナル」ヲ「フォーシ」式火爐ヲ加フ

同條第三項中「D」ノ下ヲ左ノ如ク改ム

ハ「フォンクス」式「テイトン」式「モリソン」式「ベアドモア」式及ヒ螺旋形火爐ナルトキハ該形ノ外邊ノ徑、肋形「ブラオン」式及ヒ「リーズ、フォーシ」社「バルブ」式火爐ナルトキハ該形ノ外邊ノ徑ニテ

第十九條 汽罐ハ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一 筒形汽罐ハ每平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ二倍

二 水管汽罐ハ最大汽壓ノ一倍半ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ

第五章

第一條第一項中「瓣」ノ全面積ヲ「瓣及ヒ排汽管ノ全面積」ニ改ム

第四條第一項ニ左ノ但書ヲ加ヘ第二項ヲ削ル

明治四十年十二月 省令 逓信省第五十一號

五四一

但汽罐室ト汽機室トノ間ニ支水隔壁ヲ有スルカ又ハ汽罐室ノ長殊ニ大ナルモノニ在リテハ揚費
裝置ヲ汽罐室ニ設クルコトヲ得

附則

本令施行前船籍ニ登録シタル船舶ニレテ舊規程ニ合格スト認メラレタルモノハ本令施行後ト雖モ
該規程ニ依ルコトヲ得

本令施行前造船認許證書ノ交付ヲ受ケ又ハ明治四十一年四月三十日迄ニ造船認許證書ノ交付ヲ申
請スル船舶ハ明治三十三年^四逓信省令第十六號造船規程第二編ノ規定ニ依ルコトヲ得但「タービ
ン」汽機及ヒ水管汽罐ノ水壓試驗ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

○逓信省令第五十二號

明治三十三年^{十二}逓信省令第八十八號船舶検査規程中左ノ通改正ス

明治四十年十二月十日

逓信大臣山縣伊三郎

第八條第六項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

「タービン」汽機ニ付テハ検査官吏ノ適當ト認ムル所ニ依リ其ノ構造ヲ査取シ第二項第三號ニ依
リ特別検査ノ期間ヲ定ムヘシ

第九十六條第一號中「滑瓣」ノ下ニ「タービン」汽機ノ外管上半」ヲ、「溢水唧筒」ノ下ニ「注油唧筒」ヲ
加フ

第九十七條第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第五號ヲ第六號トス

五 「タービン」汽機ノ「ロートル」ヲ取出シ置クコト

第九十九條中第一號乃至第三號ヲ左ノ如ク改ム

一 汽管「タービン」汽機ノ外管及ヒ「ホヰール」冷汽器唧筒船尾管等ヲ鑄造シタルトキ竝ニ仕上
ヲ了リタルトキ

二 諸軸、諸桿及ヒ「タービン」汽機ノ「ロートル」ノ粗削ヲ爲シタルトキ

三 諸軸及ヒ汽管ノ中心線ヲ定ムルトキ竝ニ「タービン」汽機ノ「ロートル」ノ組立ヲ了リタルトキ

第一百一條ノ二 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルト
キハ「タービン」汽機ノ外管ハ粗削ヲ爲シタル後左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

一 「タービン」式「タービン」汽機ノ高壓外管ニ於テハ其ノ外管一箇ヨリ成ルトキハ最大汽壓
ノ一倍三分ノ一、二箇以上ヨリ成ルトキハ前部ノ外管ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、後部ノ
外管ハ最大汽壓ノ三分ノ二

二 「タービン」式「タービン」汽機ノ低壓外管ニ於テハ前部ノ外管ハ每平方吋四十五磅、後部ノ
外管ハ每平方吋三十磅

三 「タービン」式「タービン」汽機ノ後退外管ニ於テハ最大汽壓

四 「カーチス」式「タービン」汽機ノ外管ニ於テハ第一膨脹階段ハ初壓力ノ一倍二分ノ一、以下各
階段毎ニ二十五磅ヲ減ス但每平方吋三十磅ヲ下ルコトヲ得ス

「タービン」式「タービン」汽機ノ高壓外管ニ於ケル水壓力ハ高壓「タービン」汽機ニ於テ減少シタ
ル汽壓ヲ使用シ且該汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ適當ナル逃出弁ヲ備フルモノニ
在リテハ前項第一號ノ最大汽壓ニ代フルニ初壓力ヲ以テスルコトヲ得又汽機ノ初壓力毎平方吋
百六十磅以上ナルトキハ前項第二號ニ定ムル前部外管ノ水壓力ヲ相當ニ増加スヘシ

「タービン」汽機ニ附屬スル汽管、弁、噴子等ハ其ノ附屬スル外管ト同一ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ
「タービン」式「タービン」汽機ノ高壓外管ト低壓外管トノ間ニアル汽管、弁及ヒ噴子ハ低壓前部
外管ト同一ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第一百十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム
汽罐ハ特別検査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ執行スヘシ

- 一 新ニ使用スル筒形汽罐ハ每平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ二倍
 - 二 既ニ使用シタル筒形汽罐ハ每平方吋ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ四十五磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ一倍半
 - 三 新ニ使用スル水管汽罐ハ最大汽壓ノ一倍半ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ
 - 四 既ニ使用シタル水管汽罐ハ最大汽壓ノ一倍四分ノ一ニ十五磅ヲ加ヘタルモノ
- 但曲拐ヲ有セサル獨立直働給水唧筒ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 第四百十條ノ二 減壓弁ヲ以テ減少シタル汽壓ヲ使用スル汽機ニ在リテハ減壓弁ノ次ニ相當ノ大サヲ有スル逃出弁ヲ備フヘシ
- 第四百十條ノ三 「パーソンズ」式「タービン」汽機ニ於テハ高壓「タービン」汽機ノ後端又ハ之ニ相當スル場所及ヒ低壓「タービン」汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ完全ナル逃出弁ヲ備フヘシ
- 第四百一十一條ノ二中、第四百十條ヲ「第四百十條ノ三ニ改ム」
- 第八號表中「滑動弁」ノ次ニ左ノ欄ヲ

「接續弁」上下ノ黃銅ノ次ニ左ノ欄ヲ	「隔心」	「錐」	「一組」
「主軸受黃銅」	「各軸受」	「付一組」	「同上」
「タービン」汽機ナルトキ			

「主軸受螺釘及ヒ母螺」摘要欄ニ「タービン」汽機ナルトキハ此ノ限ニ在ラスヲ「折取唧筒摘要欄」ニ「但排氣唧筒弁ト同形ニシテ相轉用シ得ルモノ」ニ在リテハ此ノ限ニ在ラスヲ「制氣弁及ヒ座筒」

要欄ニ「汽罐ノ數五箇以上ナルトキハ更ニ汽罐四箇又ハ其ノ未滿毎ニ一組ノ割合ヲ以テ増備スヘシ」ヲ加ヘ「火床架摘要欄」ヲ「汽罐ノ數五箇以上ナルトキハ汽罐四箇分ニ止ム」又火床架ノ數ハ四箇ヲ最少ノ限度トスニ改メ「熔管」ノ欄ヲ削リ同表備考ニ左ノ一項ヲ加フ

隔心弁ハ明治四十一年七月一日以前ニ製造シタル汽機ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

附則

本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス但第八條、第九十六條、第九十七條及ヒ第九十九條ノ改正ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○逓信省令第五十三號

明治三十三年十二月 逓信省令第九十一號機關檢査規程中左ノ適改正シ明治四十一年一月一日ヨリ施行ス

明治四十一年十二月十日

逓信大臣山縣伊三郎

第二章

第二條 汽罐ノ製造ニ供用スル鋼材ニハ左ノ試驗ヲ執行スヘシ

- 一 抗張試驗 鋼板用鋼板、支梁用鋼板及ヒ支柱用鋼材ハ一平方吋ノ抗張力二十六噸以上三十二噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ鋼板ニ在リテハ八吋ノ長ニ於テ、支柱用鋼材ニ在リテハ試驗材ノ徑ノ八倍ノ長ニ於テ何レモ百分ノ二十以上、其ノ他ノ諸鋼板、螺旋支柱用及ヒ鉸釘用鋼材ハ一平方吋ノ抗張力二十五噸以上三十噸以下ニシテ其ノ伸張ノ割合ハ鋼板ニ在リテハ八吋ノ長ニ於テ、螺旋支柱用及ヒ鉸釘用鋼材ニ在リテハ試驗材ノ徑ノ八倍ノ長ニ於テ何レモ百分ノ二十以上ナルヲ要ス
- 二 屈曲試驗 鋼板、支柱用及ヒ螺旋支柱用鋼材ハ試驗材ヲ血紅色ニ熱シタル後蘇氏八十度ノ水中ニテ冷却シ之ヲ試驗材ノ厚又ハ徑ノ二倍ヲ超エサル内徑ヲ以テ百八十度屈曲シ又鋼製

ノ鉸釘ハ之ヲ熱セシテ釘身ヲ百八十度屈曲シ相接觸セシメ屈曲ノ外部ニ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

三 鍛鍊試験 鉸釘ハ之ヲ熱シ釘頭ヲ釘徑ノ二倍半迄平扁ニ打壓シ裂疵ヲ生セサルヲ要ス

第七條中「鉸釘ノ徑ヲ」鉸釘孔ノ徑ニ改メ同條ニ左ノ但書ヲ加フ
但平板ニ於テ累接サルヘキ板ノ厚ニ差異アル場合ニハ鉸釘孔ノ徑ハ其ノ平均ノ厚ヨリ小ナルヘカラス

第十一條第二號ヲ左ノ如ク改ム

鋼製支柱 最小ノ徑一吋二分ノ一ヲ超ニサル螺旋支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付八千磅、最小ノ徑一吋二分ノ一以上ノ螺旋支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付九千磅、最小ノ徑一吋二分ノ一ヲ超ニサル螺旋支柱ニアラサル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付八千六百六十七磅、最小ノ徑一吋二分ノ一以上ノ螺旋支柱ニアラサル支柱ノ内力ハ一平方吋ニ付九千六百二十磅

但鋼製支梁ニ在リテハ一平方吋ノ最小抗張力二十六噸ヲ超ニルトキハ其ノ割合ヲ以テ定數ヲ増加スルコトヲ得

第十九條第一項中「フォックス式」ノ下ニ「デイトン式」「リース、フォージ」社「バルブ式」ペアドモア式」ヲ加フ

同條第二項中「鋼製火爐」ノ下ニ「及」突出箇ノ距離八吋又ハ九吋ナル「ブラオン」式火爐」ヲ加フ

同條第三項中「D」ノ下ヲ左ノ如ク改ム
ハ「フォックス式」「デイトン式」「モリソン式」「ペアドモア式」及「螺旋形火爐ナルトキハ結形ノ外邊ノ徑肋形」「ブラオン式」及「リース、フォージ」社「バルブ式」火爐ナルトキハ最小部外邊ノ徑(吋ニテ)

○逓信省令第五十四號

明治三十二年六月 逓信省令第二十六號中左ノ通追加ス
本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年十二月十六日

逓信大臣山縣伊三郎

- 北海道 釧路郡釧路町長
- 新潟縣 佐渡郡小木町長
- 石川縣 石川郡上金石町長
- 島根縣 知夫郡黒木村長

〔參照〕

明治三十二年六月 逓信省令第二十六號ハ船員法ニ依リ管海官廳ノ事務ヲ行ハシムヘキ市町村長月長及之ニ準スヘキ者指定ノ件ナリ

○逓信省令第五十五號

特別高壓電線路取締規則左ノ通之ヲ定メ本日ヨリ施行ス

明治四十年十二月二十一日

逓信大臣山縣伊三郎

特別高壓電線路取締規則

第一條 特別高壓架空電線路ヲ施設スル電氣事業者ハ其電線路ノ附近地ニ於テ適當ノ標識ヲ設クヘシ

第二條 前條ノ電氣事業者ハ特別高壓電線路保守區間竝其區間ニ於ケル保線主任者及共駐在所ヲ定メ地方長官(東京府ニ在リテハ)ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三條 第一條ノ電氣事業者ハ保線主任者若ハ保線係員ヲシテ電線路ヲ毎日巡視セシムヘシ
第四條 保線主任者若ハ保線係員其保線區間ニ於ケル特別高壓電線路ニ危險又ハ其兆候アルコト

ヲ知リタルトキハ速ニ現場ニ出張シ適當ノ措置ヲ爲スヘシ
第五條 親權者、後見人其他監督義務者ハ十六歳未滿ノ者ニ對シ左ノ行爲ヲ制止スヘシ

一、電柱ニ接近シテ遊戯ヲ爲スコト
二、特別高壓電線ノ近傍ニ於テ紙屑ヲ揚ケ又ハ瓦礫ヲ擲チ其他電線路ニ障害ヲ及ボスヘキ遊戯ヲ爲スコト

第六條 特別高壓電線ノ支持物及其周圍ノ藩籬等ニ動物又ハ舟筏等ヲ繫留スヘカラス

第七條 特別高壓電線ノ支持物ニ接近シテ焚火ヲ爲スヘカラス

第八條 特別高壓電線ノ電線、電柱、碍子其他ノ工作物ヲ毀損シ又ハ之ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ或ハ柱竿ヲ觸レ又ハ其電線路ニ接近シテ濫ニ建造物ヲ建設スル等電氣的障害ヲ生スヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

第九條 第二條又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三條第四條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ノ罰則ハ第二條及第三條ノ電氣事業者カ法人ナル場合ニ於テハ之ヲ其代表者ニ適用ス

○逓信省令第五十六號

明治二十九年九月逓信省令第十六號造船獎勵法施行細則中左ノ通改正ス

逓信大臣山縣伊三郎

第十五條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

「タービン汽機ニ在テハ逓信大臣ノ適當ト認ムル器械ニ依リ算定シタル軸馬力ノ平均數ニ九十分ノ五分ノ百ヲ乘シタルモノヲ以テ實馬力ノ平均數ト看做ス

同條第三項ヲ第四項トシ同項中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム

法令全書

府令

○統監府令第一號(官報一月十四日)

統監府郵便所長採用規則左ノ通定ム

明治四十年一月八日

臨時統監代理韓國駐節軍司令官男爵長谷川好道

統監府郵便所長採用規則

第一條 統監府郵便所長ハ年齡滿二十年以上ノ男子ニシテ左ニ掲クル各號ノ資格ヲ具備スル者ヨリ之ヲ採用ス

一 其ノ郵便所所在地ニ在住スル者

二 實價三百圓以上ノ不動産若ハ記名國債證券ヲ所有スル者又ハ統監府通信管理局長ニ於テ同額以上ノ確實ナル資産ヲ有スト認メタル者但シ滿三年以上ノ通信業務ニ従事スル官吏ハ本號ノ資格ヲ要セス

三 中學校第三學年修業ノ者若ハ統監府通信管理局長ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認ムル者

第二條 左ニ掲クル各號ノ一ニ該當スル者ハ統監府郵便所長ト爲ルコトヲ得ス

一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 輕罪ヲ犯シタル者但シ輕禁錮ニシテ滿期後滿五箇年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 故意ヲ以テ通信ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者

四 懲戒處分ニ依リ官職ヲ免セラレ滿二箇年ヲ經過セザル者

第三條 統監府郵便所長職責ニ其ノ職務ヲ奉シタル後老年又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ其ノ職ヲ

辭スルカ或ハ在職中死亡セシトキ其ノ嗣子又ハ相續人タル男子年滿十六年以上ニ及ビ第一條各號ノ資格ヲ具備シ且第二條各號ニ該當セサル者ハ特ニ採用スルコトヲ得

第四條 非戸主ニシテ其ノ戸主實價三百圓以上ノ不動產若ハ記名國債證券ヲ所有スル者又ハ統監府通信管理局長ニ於テ同額以上ノ確實ナル資産ヲ有スト認メタル者ノ保證アル場合ニ於テハ其ノ本人ノ資産第一條第二號ニ適合セサルモ特ニ採用スルコトヲ得

○統監府令第二號(官報一月十四日)
統監府郵便所長手當金年額左ノ通定ム

明治四十年一月八日
臨時統監代理韓國駐節軍司令官男爵長谷川好道
手當金年額

等級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
年額	六百圓	四百五十圓	三百圓	二百五十圓	二百圓	九十六圓	七十二圓	六十圓	四十五圓	三十圓

○關東都督府令第一號(官報一月二十六日)
電話規則左ノ通相定ム

明治四十年一月九日

關東都督男爵大島義昌

電話規則

第一條 電話加入區域ハ普通加入區域及特別加入區域ノ二種トシ其ノ加入區域ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 官廳用ニ供スル電話ハ電話加入區域ニ拘ラス之ヲ加入セシムルコトヲ得
前項ニ依リ加入セシメタル電話ハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外之ヲ加入區域内ノモノト看做ス

第三條 電話交換ニ加入セムトスル者ハ一加入毎ニ加入申込書第一號ヲ當該郵便電信局以下申出スヘシ
他人ノ所有ニ係ル家屋ニ電話機ヲ設置セムトスルトキハ其ノ家屋所有者ノ承諾書第二號ヲ加入申込書ニ添附スヘシ

第四條 電話加入ハ二人以上合同シテ一加入ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 加入申込者又ハ加入者其ノ使用ニ供スル電話機ニ依リ特ニ指定スル長距離電話通話ヲ爲サムトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ
前項ノ請求ヲ取消シ又ハ長距離通話ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ

第六條 電話開通ノ順序ハ加入申込登記ノ順序ニ依ル

第七條 郵便電信局ニ於テ電話加入ノ申込ヲ受理シタルトキハ其ノ申込順序ニ依リ之ヲ原簿ニ登記シ其ノ順序ヲ申込者ニ通知ス但シ新ニ電話交換業務ヲ開始スル場合ニ於テハ其ノ加入申込受理開始ノ日ヨリ五日間ニ於ケル加入申込ニ對スル登記順序ハ關東都督府郵便電信局長之ヲ定ム

第八條 左記各號ノ場合ニ於ケル電話ノ開通ハ申込登記ノ順序ニ依ラス之ヲ繰上グルコトヲ得

一 官廳公署及公益事業等ノ用ニ供スルモノニシテ特急架設ノ必要アリト認メタルモノ

二 工事施行上ノ都合ニ依ルモノ

第九條 左記各號ノ場合ニ於テハ電話ノ開通ハ申込登記ノ順序ニ依ラス之ヲ繰延フ但シ關東都督府郵便電信局長ニ於テ特ニ其ノ必要ヲ認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 一人ニシテ現ニ二箇以上ノ加入申込ヲ有スル場合ニ於ケル一箇以外ノ申込スル家屋又ハ同居者等ノ名義ヲ以テスル加入申込ハ一名限リ以テシタルモノト看做ス

二 工事施行上順序ニ依リ難キモノ

三 電話開通工事施行ノ猶豫ヲ請求シタルモノ

四 電話開通工事著手ノ通知ヲ受ケタル後電話機設置場所ノ變更ヲ請求シタルモノ

第十條 加入申込者又ハ加入者其ノ電話機及附屬物品ノ設置場所ヲ變更又ハ移轉セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ但シ他人ノ所有ニ係ル家屋ニ設置セムトスルトキハ其ノ家屋所有者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

第十一條 加入申込者卓上電話機ノ設置ヲ請求セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ

加入者卓上電話機ヲ普通電話機ニ、普通電話機ヲ卓上電話機ニ又卓上電話機ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ

卓上電話機設置ノ請求書ニハ其ノ種別ヲ附記スヘシ

第十二條 加入申込者又ハ加入者左記各號ノ裝置ヲ爲サトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テハ加入申込者又ハ加入者ハ其ノ私設ニ係ル線條、機械及附屬物品ニ關シ之カ認可ヲ受クヘシ又其ノ維持或交換取扱方法ハ當該局ニ於テ指示スルコトアルヘシ

一 加入電話機ニ受話器ヲ増設セムトスルトキ

二 加入電話機設置場所同一戸内ニ於テ同一回線中ニ電話機又ハ電鈴ヲ増設セムトスルトキ

三 加入電話機設置場所同一ナル自己ノ邸宅内若ハ構内ニ於テ電信法第二條第一號及明治三十三年九月通信省令第五十一號官應用電信電話規程第一條第一號ニ依リ施設シタル電話機ヲ

交換線ニ接続セムトスルトキ

四 同一邸宅内若ハ構内ニ加入以上ノ電話機ヲ有スル加入者カ其ノ電話機ニ共通スル電話機ヲ増設セムトスルトキ

五 前各號ニ依リ増設又ハ接続シタル電話機、受話器若ハ電鈴ヲ撤去シ及接続ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキ

第十三條 加入申込者其ノ申込ヲ取消サトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ

第十四條 電話加入期間ハ電話開通ノ日ヨリ起算シ滿一年トス但シ其ノ期間ノ末日カ第二十九條ニ掲クル一期ノ中途ナルトキハ該期末日迄ノ日數ヲ附加ス

前項ノ加入期間以後ハ毎三箇月ヲ以テ一加入期間トス

第十五條 加入者其ノ加入ヲ取消サトスルトキハ當該加入期ノ末日ヨリ十五日以前ニ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ其ノ請求書ヲ爲ササル者ハ次期ノ加入ヲ繼續スルモノト看做ス

第十六條 加入申込者ノ名義ハ第十七條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ他人ノ名義ニ變更スルコトヲ得ス現ニ加入ヲ有スル者ハ第十七條ノ場合ヲ除クノ外名義ノ變更ニ因リ更ニ加入ヲ有スルコトヲ得ス但シ關東都府郵便電信局長ニ於テ特ニ其ノ必要ヲ認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

加入者其ノ加入ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書ヲ當該局ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第十七條 加入者又ハ加入申込者死亡、失踪又ハ隱居ノ場合ニ於テ其ノ加入ヲ繼承セムトスル者ハ其ノ相續人又ハ管理人タルノ證明書ヲ添ヘ其ノ請求書ヲ當該局ニ差出スヘシ

第十八條 第八條第一號ニ依リ開通シタル電話ハ同號以外ノモノノ名義ニ變更スルコトヲ得ス

第二條ニ依リ開通シタル電話ハ官廳相互間ノ外名義ヲ變更スルコトヲ得ス

第十九條 電話加入區域變更ノ爲加入申込者又ハ加入者ノ位置他ノ加入區域内ニ編入セラレタルトキハ所屬替ヲ爲スモノトシ又加入區域外ト爲リタルトキハ加入申込ハ之ヲ取消シ加入ハ其ノ儘繼續ス但シ其ノ加入ヲ繼續シタル電話機及附屬物品ハ電話加入區域以内ヘノ外他ニ移轉スルコトヲ得ス

第二十條 電話開通工事著手ノ際加入申込者ノ所在不明ナルトキ及加入申込者又ハ加入者死亡又ハ失踪ノ場合ニ於テ相續人又ハ管理人ヨリ何等申出ナキトキハ其ノ加入申込又ハ加入ヲ取消スコトアルヘシ

第二十一條 加入區域外トノ通話及電話取扱局所ニ於テスル通話ハ每五分時間迄ヲ以テ一通話時トシ他ニ通話請求ナキ場合ヲ除クノ外一通話時ヲ超ニテ繼續スルコトヲ得ス其ノ通話順序ハ請求ノ順序ニ依ル但シ通話請求ノ順序ニ依リ接續ヲ爲ス場合ニ於テ之カ通話ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ハ消滅スルモノトス

第二十二條 前條ノ通話ニシテ規定ノ電話料ノ二倍ヲ納ムルトキハ至急通話トシテ一般通話請求ニ先立チ通話ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 加入申込者ハ加入登記料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スヘキ加入申込者ハ電話線接續料ヲ納ムヘシ

第二十四條 加入者其ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ第十七條ノ場合ヲ除クノ外名義書換料ヲ納ムヘシ

第二十五條 加入者電話使用料ヲ納ムヘシ

特別加入區域ニ屬スル加入者、第二條ニ依ル加入者、第五條ニ依リ通話ヲ爲ス加入者又ハ第十一條ニ依リ卓上電話機ヲ設置シ若ハ第十二條ニ依リ機械ヲ増設シ又ハ私設電話機ヲ接續シタル加入者ハ電話使用料ノ外附加使用料ヲ納ムヘシ

第二十六條 加入者第十條ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ

加入者特別加入區域内ニ於テ又ハ普通加入區域内ヨリ特別加入區域内ニ機械ノ移轉ヲ請求セムトスルトキハ機械移轉料ノ外電話線接續料ヲ納ムヘシ

第二十七條 第二十一條ノ通話ヲ請求スル者ハ電話料ヲ納ムヘシ

第二十八條 電話ニ關スル料金ハ左ノ如シ

一 加入登記料、名義書換料及電話使用料	土地ノ種別	加入登記料	名義書換料	電話使用料年額
甲		金二十圓	金五圓	金八十四圓
乙		金十五圓	金三圓	金七十二圓
丙		金十圓	金二圓	金六十圓

二 附加使用料

一 特別加入	年額	特別加入區域内	金二圓五十錢
町數ノ計算方ハ普通加入區域ヲ距ル電話線路ノ工程ト最近道路ノ工程トヲ比較シ何レカ其ノ距離ノ短キモノニ依リ	丁程一町迄毎ニ		
一 第二條ニ依リ加入者	年額	丁程一町	金二圓五十錢
ノ引渡シタル線路	迄毎ニ		
一 長距離電話	年額	一箇毎ニ	金八圓
	年額	一箇毎ニ	金十五圓
一 卓上電話機	年額	一箇毎ニ	金八圓
	年額	一箇毎ニ	金十五圓

一 増設機械

普通電話機

年額一箇每二

金十五圓

卓上電話機

年額一箇每二

金三十圓

受話器

年額一箇每二

金十五圓

電話鈴

年額一箇每二

金十圓

一 私設電話機接續

年額一箇每二

金十圓

三 電話料

同一加入區域内及同一電話取扱局所呼出地域内ノ電話

一 通話時ノ電話料金十圓

一 同一電話呼出料金十圓

四 電話線接續料

特別加入區域内ノ丁種一町比毎ニ

金十二圓

町數ノ計算方ハ特別加入區域内ニ於ケル新設電話線路ノ丁種ト普通加入區域ヲ用テ是等距離ノ丁種トヲ比較シ何レモ其ノ距離ノ短キモノニ依ル

五 機械移轉料

一 同一邸宅内若ハ構内ノ移轉

金三圓

一 同一邸宅内若ハ構内ニ於テ一電鈴及附屬物品ノ移轉

金二十圓

一 他ノ邸宅内若ハ構内ヘノ移轉

金二十圓

前項第一號土地ノ種別第三號加入區域外通話ヲ爲シ得ル區域及其ノ料金ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十九條 電話使用料及附加使用料ハ年額ヲ四分ノ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ每一期分ヲ其ノ

期ノ初月一日ヨリ十日迄ニ之ヲ當該局ニ納ムヘシ

第一期 四月一日ヨリ六月三十日迄

第二期 七月一日ヨリ九月三十日迄

第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日迄

第四期 一月一日ヨリ三月三十一日迄

第三十條 加入初期ノ電話使用料及附加使用料ハ電話開通ノ日ヨリ其ノ期ノ末日ハ至ル迄ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ當該局ニ之ヲ納ムヘシ其ノ加入後新ニ附加使用料ヲ納ムヘキ場合ノ生シタルトキ亦同シ

第三十一條 加入者第十四條ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキハ其ノ期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ノ未納額ヲ一時ニ納ムヘシ

加入者第十五條ノ取消請求期限ヲ過キテ加入取消ノ請求ヲ爲シタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ場合ニ於テ當該加入期ノ末日ヨリ十五日以前ニ第五條第二項第十條第十一條第十二條ノ第五號ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ次期ニ屬スル電話使用料及附加使用料ヲ納ムヘシ

第三十二條 電話料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ

一 電話取扱局所自働電話ニ來ル者ハ一通話時ノ料金ヲ其ノ局所ニ前納シ一通話時以上ニ掛リタルトキハ通話ヲ終リタル後其ノ未納料金ヲ納ムヘシ

一 自働電話所ニ於テ通話セムトスル者ハ當該局所ノ指定スル方法ニ依リ一通話時毎ニ其ノ料金を納ムヘシ

一 加入者ハ一箇月分取纏メ翌月二十日迄ニ當該局ニ納ムヘシ

第三十三條 加入登記料ハ加入申込ヲ爲ストキ名義替換料ハ其ノ請求ヲ爲ストキ電話線接續料及機械移轉料ハ當該局ノ指定スル期日迄ニ之ヲ納ムヘシ

第三十四條 左ノ料金ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

一 加入登記料、名義書換料

一 電話取扱局所自動電話ニ於テ納ムヘキ電話料

第三十五條 加入登記料、名義書換料、電話線接續料及機械移轉料ハ其ノ申込又ハ請求ヲ取消シタルトキト雖之ヲ還付セス但シ第十九條ニ依リ加入申込ヲ取消シタルトキハ其ノ申込者ノ請求ヲ俟テ還付ス

電話取扱局所ニ來ル者ノ前納シタル電話料ハ既ニ郵便切手ニ消印シタル後又ハ自動電話機ニ差入レタル後ハ之ヲ還付セス

第三十六條 加入者第十四條ノ加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シタルトキ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖其ノ期間内ニ屬スル電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セス

第四十六條ニ依リ通話ヲ停止セラレタルトキハ其ノ停止期間中ノ電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セス

長距離通話ノ廢止、電話機及其ノ附屬物品ノ移轉、増設機械ノ撤去、電話機ノ變更又ハ私設電話機接續ノ廢止ニ因リ附加使用料ノ消滅若ハ減少スヘキ場合ト雖其ノ期ノ附加使用料ハ之ヲ免除セス

第三十七條 加入者ノ過失懈怠若ハ故意ニ因ラスレテ電話不通ニ至リ其ノ日數十五日以上ニ互ルトキハ不通期間ノ電話使用料及附加使用料ヲ徵收セス若シ既納ノ電話使用料及附加使用料アリタルトキハ加入者ノ請求ニ因リ其ノ不通日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ之ヲ還付ス但シ加入者自己ノ都合ニ依リ復舊工事ヲ延期シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項不通ノ日數ハ當該局ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ起算ス

第三十八條 郵便切手ヲ以テ納ムタル電話ニ關スル料金ヲ還付スル場合ニハ郵便切手ヲ用フ

第三十九條 電話ニ關スル料金ヲ徵收又ハ還付スヘキ場合ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上ケ計算ス

第四十條 加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其ノ附屬物品ハ當該局ニ於テ之ヲ設備ス

前項ノ電話機及其ノ附屬物品ヲ加入者自ラ供給セムトスルトキハ之ヲ當該局ニ請求スヘシ但シ其ノ請求ニ應シタル場合ト雖電話使用料及附加使用料ハ之ヲ減免セス

第二條ニ依リ加入申込者ハ當該局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ普通加入區域外ニ係ル電話線路ヲ建設シ之ヲ當該局ニ引渡スヘシ其ノ加入後移轉ノ爲線路ノ新設ヲ要スルトキ亦同シ但シ關東都督ニ於テ引渡ヲ受クル必要ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 當該局ハ時時吏員又ハ其ノ所屬員ヲ派遣シ加入者ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅内若ハ構内ニ在ル電話線、電話機及其ノ附屬物品ヲ點檢セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帯セシム

第四十二條 郵便電信局ハ加入者ノ使用ニ供スル電話線、電話機及其ノ附屬物品ヲ撤去シ又ハ移轉スル場合ニ於テ其ノ電線、機械及物品ノ裝置シアリタル遺棄物ヲ原形ニ修復スルノ責ニ任セス

第四十三條 加入者ノ過失懈怠若ハ故意ニ因リ其ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅内若ハ構内ニ在ル電話線、電話機及其ノ附屬物品ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ第四十五條ニ違背セル所爲ニ因リ復舊工事ヲ要スルトキハ加入者ニ於テ其ノ補充若ハ修繕ニ要スル費用ヲ辨償スヘシ

第四十四條 加入者ハ報酬ヲ受ケテ其ノ使用ニ供スル電話機ヲ他人ノ用ニ供シ又ハ報酬ヲ受クル

者ニ之ヲ貸與スヘカラス

第四十五條 加入者ハ其ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅内若ハ構内ニ在ル電話線電話機及其ノ附屬物品ヲ取外シ若ハ移轉シ又ハ其ノ設置法ヲ變更シ若ハ之ヲ分解スヘカラス但シ水火共ノ他ノ事變ニ際シ保護ノ目的ニ出テタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

加入者ハ其ノ使用ニ供スル電話機設置ノ邸宅内若ハ構内ニ在ル電話線電話機及其ノ附屬物品ニ他ノ線條機械等ヲ連結スヘカラス

第四十六條 加入者電話使用料附加使用料及電話料ヲ規定ノ期日迄ニ納付セサルトキ又ハ第四十三條ノ補修費ヲ辨償セサルトキハ其ノ滞納ノ期間通話ヲ停止ス

加入者前條第一項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ故ナク第四十一條ノ毀壞ヲ拒ミタルトキハ七日以内ノ期間通話ヲ停止スルコトアルヘレ

第十二條第三號ニ依ル加入者安リニ其ノ接續ヲ變更シ若ハ他ノ線條機械等ヲ連結シタルトキ又ハ過失懈怠若ハ故意ニ因リ通話ヲ不良ナラシメタルトキハ其ノ接續ヲ停止スルコトアルヘレ

第四十七條 加入者第四十四條ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第一項ニ依リ通話ヲ停止セラレタル日ヨリ三十日以内ニ滞納ノ金額ヲ納付セサルトキハ加入ヨリ除名ス

加入者第四十五條第二項ニ違背スルノ所爲アリタルトキ又ハ前條第一項第二項ニ依リ一年三回以上通話ヲ停止セラレタルトキハ加入ヨリ除名スルコトアルヘレ

第四十八條 前條ニ依リ除名セラレタル者ハ其ノ除名ノ日ヨリ滿一年ヲ經過スルニアラザレハ再ヒ同一ノ加入區域内ニ於テ加入申込又ハ加入ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 郵便電信局ハ電話交換ヨリ生スル一切ノ事故ニ對シ其ノ責任任セス

附則

第五十條 本規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年關東洲民政署告示第三十九號電話規則、安東縣軍政署電話交換規則並奉天軍政署及遼陽軍政署ノ定メタル電話交換ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第五十一條 本規則施行前ニ於ケル電話加入申込又ハ電話加入ハ本規則ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十二條 本規則施行前ニ爲シタル電話加入申込ニシテ明治四十年一月三十一日迄ニ其ノ申込ヲ取消スモノアルトキハ請求ニ因リ其ノ加入登記料ヲ還付ス

第一號書式 加入申込書

電話規則ニ從ヒ何地電話交換ニ加入致度左ニ電話機設置場所ヲ指定シ(別紙承諾書相連ヘ)此段申込候也

明治何年何月何日 何市(郡)區(町)村(何番地) 何 某印

何郵便電信局御中 一電話機設置場所 何市(郡)區(町)村(何番地) 但シ家庭所有者ハ何某ニ有之候

第二號書式 承諾書

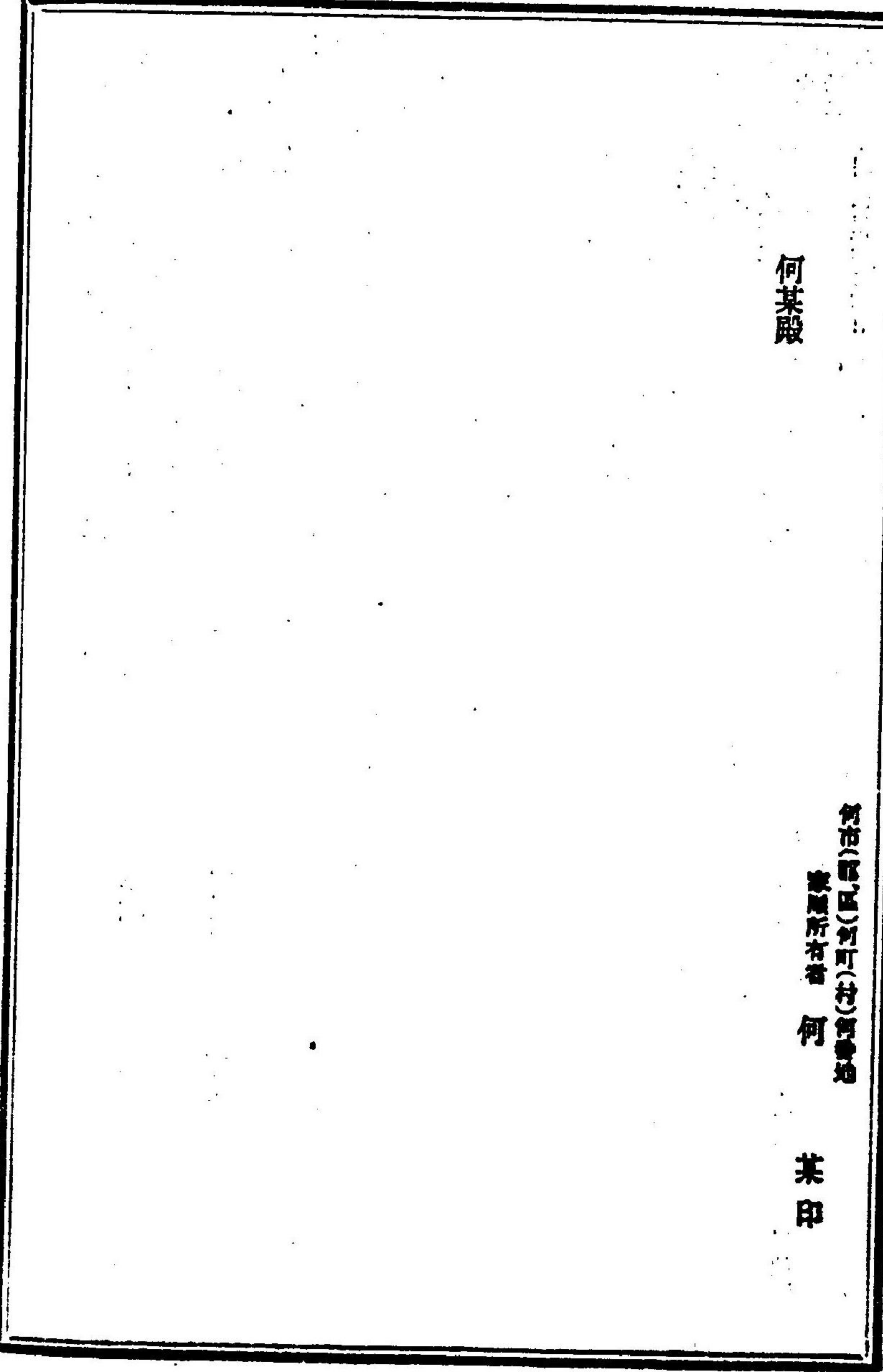
今般貴殿ニ於テ何地電話交換ニ加入ノ爲私所有ノ何市(郡)區(町)村(何番地)何家庭ニ電話機設置ノ趣ハ私ニ於テ放棄候也

何市(町)村(町)村(町)村

何

其印

何其殿



○統監府令第三號(官報二月六日)

土地建物證明規則ニ依リ證明又ハ查證ヲ受ケタル典當ノ執行ニ付テハ韓國勅令土地家屋典當執行規則及同法部令土地家屋典當執行規則施行細則ノ規定ニ從フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年二月一日

臨時統監代理韓國駐劄軍司令官男爵長谷川好道

○統監府令第四號(官報二月六日)

明治三十九年九統監府令第三十八號中第六號ヲ左ノ通改正ス

明治四十年二月一日

臨時統監代理韓國駐劄軍司令官男爵長谷川好道

六 土地建物ノ證明又ハ查證、土地建物證明臺帳ノ閱覽、證明シタル契約書ノ正本ノ下付及典當ノ執行ニ關スル異議ノ裁定ニ對シ徵收スル手数料

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

統監府令第三十八號(明治三十九年十月三日官報)抄錄

左ニ掲クル手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

六 土地建物ノ查證及證明ニ對シ徵收スル手数料

○統監府令第五號(官報二月十五日)

明治四十年二月十一日ヨリ左記各地間ノ電話料及電話呼出料左ノ通定ム但シ一通話時ハ當分ノ内

五分時間トス

明治四十年二月九日

臨時統監代理韓國駐節軍司令官男爵長谷川好道

地 域 新羅州清國安東縣間

一 通話料 金二十錢
一 四ノ電 呼出料 金十錢

○統監府令第六號(官報二月十五日)

明治三十九年二月十二日 逕信省令第六十一號新聞電報規則第二條第一項ノ料金ハ韓國内ニ在リテハ五十字又ハ其ノ未滿毎ニ金三十錢トス

明治四十年二月九日

臨時統監代理韓國駐節軍司令官男爵長谷川好道

○統監府令第七號(官報二月十九日)

明治三十九年二月十二日 統監府令第五十一號手小荷物賃金表中左ノ通改正ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年二月十日

臨時統監代理韓國駐節軍司令官男爵長谷川好道

第一項中「一箇毎ニ之ヲ計算ス」ノ下ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ手荷物ハ此ノ限ニ在ラス

第九項中「第五十一條」ノ下ニ「及第六十三條」ヲ加フ

第九項第二號中「及貴重品」ヲ削ル

同第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 貴重品ニ對スル保管料ハ一箇ニ付六時間若ハ其ノ未滿ヲ増ス毎ニ第一號割合ノ二倍トス

○統監府令第八號(官報二月二十六日)

統監府鐵道管理局小蒸汽船釜山港内運航規程左ノ通定ス

明治四十年二月二十日

臨時統監代理韓國駐節軍司令官男爵長谷川好道

統監府鐵道管理局小蒸汽船釜山港内運航規程

第一條 統監府鐵道管理局ハ所屬小蒸汽船ヲ用ヒ釜山港内ニ於テ必要ニ感シ左記ノ業務ヲ爲スコトヲ得

一 鐵道乗降客便宜ノ爲草梁棧橋ト釜山間ニ於ケル日歐回定時ノ航行

二 汽船ト鐵道トノ連絡ヲ圖ル爲本船又ハ釜山棧橋ト草梁棧橋間ニ於ケル旅客ノ送迎及小手荷物ノ運搬

三 鐵道便ニ據ル大貨物ノ集配及其ノ曳船

第二條 小蒸汽船ヲ以テ運送スル旅客荷物ノ取扱方ハ鐵道ニ關スル一般ノ規定ヲ準用ス

第三條 第一條各號ニ對スル料金及取扱細則ハ統監府鐵道管理局長官之ヲ定ム

附 則

本規程ハ明治四十年三月一日ヨリ施行ス

○臺灣總督府令第一號(官報二月八日)

製茶稅則施行細則左ノ通相定ス

明治四十年一月二十六日

臺灣總督子爵佐久間左馬太

製茶稅則施行細則

第一條 製茶稅ヲ納付セムトスル者ハ製茶ノ種類、箇數、斤量及稅額ヲ記載シタル書面ヲ稅關又ハ稅關支署ニ差出スヘシ

第二條 製茶檢査ノ際總斤量ニ於テ斤位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨テ斤位ニ止ム

第三條 納濟證書下付ノ申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
輸出若ハ出港ノ場合ハ納濟證書下付ノ申請ヲ要セス

第四條 納濟證書ニハ製茶ノ種類、箇數、斤量及貨主ノ住所、氏名ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ明治四十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年三月府令第十八號製茶稅則施行細則ハ之ヲ廢止ス

○臺灣總督府令第二號 (官報二月八日)

明治三十九年勅令第三百十八號ニ依ル臺灣居住者徵兵身體検査願書ハ左記様式ニ依リ所轄廳ヲ經テ検査ヲ受ケントスル部隊ニ差出スヘシ

明治四十年二月一日 臺灣總督子爵佐久間左馬太

(様式) (用紙半紙原紙)

徵兵身體検査願

本籍 何縣(何市)何郡何町(村)何番地(番戶、番屋敷)
寄附地 何縣(何市)何郡何町(村)何番地(番戶、番屋敷)
職業 氏名 生年月日

明治何年徵兵適齡ニ相當候ニ付テハ明治三十九年勅令第三百十八號ニ依リ(何地ニ於テ)身體検査相受度候間此願書ヲ提出ス
明治 年 月 日 右 氏 名印

身體検査部隊宛

備考

一 職業記載方

- イ、本業副業ハ收入ノ多少ニ依リ區別シ收入ノ多キヲ本業トシ其少キヲ副業トス
- ロ、本業及副業ヲ有スル者ハ之ヲ併記スヘシ(假令ハ大工ニシテ製糖ヲ副業トスル者ハ大工業經營者ト記スルカ如シ)
- ハ、商工業ハ其職業名ヲ記スヘシ(假令ハ吳服商又ハ大工職ト記スルカ如シ)
- ニ、官吏、教員、神職、僧侶、銀行員、會計員、會社員、生徒(學校名ヲ冠ス)等ハ其官ヲ記スヘシ
- ホ、元官吏、教員、銀行員、會計員、農園工業者ニシテ現ニ無職業ノ者ハ(無職業元何ト)ト記スヘシ
- 事故ニ因リ適齡當時身體検査ヲ受ケタル者ハ其ノ理由ヲ明記スヘシ(假令ハ徵兵令第二十三條ニ依リ何處學校在學ノ爲徵集候補等ト記載シ尙是等ハ證明書ヲ添付スヘシ)
- 三、一年志願兵志願ノ者ハ(一年志願致度候ニ付身體検査願ト現役志願ノ者ハ(現役志願致度候ニ付身體検査願)ト記シ本文ニハ(徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵服役致度候ニ付テハ明治三十九年勅令第三百十八號ニ依リ(三)ト(徵兵令第十二條ニ依リ現役ニ服役シ度候ニ付テハ明治三十九年勅令第三百十八號ニ依リ(三)ト)ト記載スヘシ

○臺灣總督府令第三號 (官報二月八日)

明治三十五年一月府令第六號中斗六郵便電信局ノ次ニ左ノ通追加ス

本令ハ明治四十年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年二月一日

苗栗郵便電信局

臺灣總督子爵佐久間左馬太

○關東都督府令第二號 (官報二月一日)

明治三十九年陸軍省令第十六號ニ依リ明治四十年關東州南滿洲及其ノ附近ニアル者ノ徵兵身體検査ニ關スル規程左ノ通相定ム

明治四十年一月十七日

第一條 徵兵身體検査場ハ左ノ如シ

關東都督府大島義昌

族順 要塞砲兵隊

奉天 歩兵第五十四聯隊

鐵嶺 歩兵第五十五聯隊

公主嶺 歩兵第五十六聯隊

安東縣 歩兵第五十三聯隊第一大隊

第二條 徵兵身體検査ヲ受ケントスル者ハ願書 明治三十九年陸軍省令第十六號第一條ノ規定ニ據テ
記入ニ寫眞 最近ニ採影シタルモノヲ添付スルコトヲ要ス若シ其ノ添付セズルモノハ檢査セズルニ付
シテハ之ニ代フルハキ人相書ニ領事又ハ民政署長等ノ證明セルモノヲ付シ一葉ヲ添付シ
二月十日迄ニ關東州ニ在リテハ民政署長南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ發務署長共ノ他ニ在リテ
ハ領事ノ身分證明ヲ得前條検査場タル軍隊ノ長ニ差出スヘシ

第三條 徵兵検査員ハ第一條ニ指定シタル部隊長ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 身體検査ニ要スル軍醫及下士ハ師團長及要塞司令官ニ於テ適宜之ヲ指示スヘシ

第五條 徵兵検査員ハ徵兵身體検査施行日割ヲ本人ニ通達スヘシ

○關東都督府令第三號(官報二月一日)
大連商陳列館規程左ノ通相定ム

明治四十年二月二十二日

大連商陳列館規程

第一條 大連ニ商陳列館ヲ置ク

第二條 商陳列館ニ左ノ職員ヲ置キ大連民政署長之ヲ監理ス

一 書記 若干人

關東都督男爵大島義昌

二 通譯 若干人

但シ必要ニ應ジ技術員ヲ置ク

第三條 書記通譯又ハ技術員ハ大連民政署長ノ指揮ヲ承ケ庶務通譯又ハ技術ニ従事ス

附則

明治三十八年七月告示第二號ハ之ヲ廢止ス

○關東都督府令第四號(官報二月五日)

關東都督府民政部土木課大連出張所規程左ノ通相定ム

明治四十年一月十四日

關東都督男爵大島義昌

關東都督府民政部土木課大連出張所規程

第一條 關東都督府民政部土木課出張所ヲ大連ニ置キ大連ニ於ケル工事ニ關シ左ノ事務ヲ掌ラシ

一 工事ノ設計施行監督並検査ニ關スル事項

二 水道維持ニ關スル事項

三 工所用物品ノ出納保管ニ關スル事項

四 民政部所管建物ノ管理ニ關スル事項

第二條 出張所ニ左ノ職員ヲ置キ民政部土木課員ヲ以テ之ニ充ツ

一所 長 一人

一助 手 若干人

一書 記 若干人

第三條 所長ハ民政部土木課長ノ監督ヲ受ケ出張所全般ノ事務ヲ掌理ス
若事故アルトキハ所屬官吏ニ代理ヲ命シ又ハ事務ノ幾部ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セ
シムルコトヲ得

第四條 所長ハ事務ノ分任擔當ヲ指定スルコトヲ得

第五條 所長ハ工事ニ關聯スル輕易ナル事項ハ出張所ノ名ヲ以テ在大連各官衙ト照會往復スルコ
トヲ得

第六條 所長ハ常備職工人夫等ノ備入及解備ヲ專行スルコトヲ得

第七條 出張所ニ必要簿冊ヲ備ヘ毎翌月十日迄ニ工事進行ノ狀況其ノ他詳細ヲ具シ民政部土木課
長ニ報告スヘシ但シ臨時必要ト認ムル事項ハ即時報告スヘシ

第八條 營繕及土木ニ關スル測量調査ハ此ノ規程ニ於ケル工事ト看做ス

○關東都督府令第五號(官報二月九日)

營口附近ニ於テペスト病發生漸次蔓延ノ兆アルニ付同地方ヨリ來ル旅客ニ對シ左ノ停車場ニ於テ
檢疫ヲ施行ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年一月二十七日

牛家屯

大石橋

新民屯

奉

天

關東都督府男爵大島義昌

○關東都督府令第六號(官報二月九日)

南滿洲鐵道附屬地居留民會規則左ノ通相定ム

明治四十年一月二十九日

關東都督府男爵大島義昌

南滿洲鐵道附屬地居留民會規則

第一條 警務署長ハ關東州外南滿洲鐵道附屬地中必要ト認ムル場所ニ居留民會ヲ設クルコトヲ得

第二條 居留民會ハ南滿洲鐵道各附屬地ヲ一區劃トシテ其ノ附屬地ニ居留スル住民ヲ以テ組織ス
但シ各附屬地ノ戶數人口及距離ノ關係上必要ト認ムルトキハ二以上ノ附屬地ヲ聯合スル居留民
會ヲ設クルコトヲ得

第三條 居留民會ハ衛生、土木、教育其ノ他居留民共同ノ利益ニ關スル事項ヲ協議處理スルヲ目的
トス

第四條 居留民會ニ會長一人副會長一人委員若干人ヲ置ク

委員ノ定數ハ警務署長之ヲ定ム

第五條 會長副會長ハ警務署長指名シ都督之ヲ認可ス

第六條 委員ハ當分ノ内居留民ノ選舉ニ依ラス警務署長之ヲ指名ス

警務署長ハ前項ノ委員ヲ指名シタルトキハ直ニ都督ニ報告スヘシ

第七條 會長副會長及委員ハ名譽職トス其ノ任期ハ一箇年トス

第八條 居留民會ハ警務署長ノ認可ヲ經テ理事其ノ他必要ノ有給吏員ヲ置クコトヲ得

第九條 會長及副會長ハ當然委員ノ資格ヲ有ス

會長ハ會議ノトキ議長トナリ又居留民會ヲ代表シ議決事項ヲ施行ス副會長ハ會長事故アルトキ
其ノ代理ヲナス

委員ハ居留民會ヲ代表シ會議ノトキ議決權ヲ有シ其ノ議決事項ノ施行ニ參與ス

第十條 居留民會ハ議事ノ必要アル毎ニ會長之ヲ招集ス若委員三分一以上ノ請求アルトキハ必ス

之ヲ招集スヘシ

第十一條 居留民會ノ議事ハ委員半數以上出席シ其ノ過半數ニ依リテ決定スヘシ若ク否同數ナルトキハ議長之ヲ採決ス

第十二條 居留民會ハ第三條ノ施設ニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲メ賦課金及課目ヲ議決シ居留民ニ賦課徴收スルコトヲ得

第十三條 居留民會ニ於テ議決シタル事項ハ警務署長ノ認可ヲ受クヘシ
警務署長前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ直ニ都督ニ報告スヘシ

第十四條 居留民會ハ收入支出及豫算決算ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル帳簿ヲ備ヘ毎月末其ノ明細書ヲ警務署長ニ提出スヘシ

第十五條 居留民會ハ百圓以上ノ支出ニ關シテハ警務署長ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 領事官所轄ノ居留民ト相接スル地ニ在ル居留民會ハ其ノ利害ヲ同フスル事項ニ關シテハ領事官所轄居留民會行政委員ト協議シ負擔ノ地ニル範圍ニ於テ其ノ施行ノ一致ヲ圖ルコトヲ要ス

第十七條 都督ハ公安上必要ト認ムルトキハ居留民會ヲ解散シ又ハ會長副會長及委員ノ指名ヲ取消スコトアルヘシ

第十八條 居留民會ハ本規則ニ基キ處務細則ヲ作り警務署長ノ認可ヲ得之ヲ施行スヘシ

附則

第十九條 南滿洲鐵道株式會社カ事業ヲ開始スルニ當リ政府ノ命令ニ依リ又ハ定款ニ基キ施行ス

ヘキ事項ニ關シテハ其ノ施行ノ時期ヨリ本規則ヲ適用セス

第二十條 本規則ハ居留民會ニ對シ特別制度ヲ定ムル地ニ之ヲ適用セス

第二十一條 本規則ハ明治四十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都府令第七號(官報二月十五日)

熊岳城ノ東方約三里ノ瓦房峪河家溝柳家寨紅旗堡四臺等ニ肺病發生シ流行地ト認ムルヲ以テ當分ノ内同地方ヲ發シ若ハ同地方ヲ經テ南滿洲鐵道附屬地内ニ立入り若ハ物件ヲ輸入シ又ハ蓋平熊岳城萬家嶺停車場ヨリ旅客若ハ物件ノ乘車ヲ禁止ス但シ蓋平熊岳城萬家嶺鐵道附屬地内ニ在留者ニシテ警務署長又ハ守備隊長ノ證明書ヲ有スル者ハ此ノ限リニアラス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年二月四日

關東都府男爵大島義昌

○關東都府令第八號(官報二月十九日)

明治三十九年十月府令第二十五號金州民政署管内支署ノ名稱位置管轄區域中左ノ通改正ス

明治四十年二月七日

關東都府男爵大島義昌

金州民政署普蘭店支署ノ位置標普蘭店ノ下會掛符橋ヲ普蘭店街ニ管轄區域標鮑城堡會ヲ朝陽寺會ニ小周家屯會ヲ花兒山會ニ孫家大道會ヲ因龍山會ニ手島ヲ平島ニ駱駝島ヲ路花島ニ華國寺會ヲ華嚴寺會ニ黃曉廟會ヲ黃曉子廟會ニ改メ平島ノ次ニ交流島ヲ加フ

○關東都府令第九號(官報二月十九日)

衛生組合規則左ノ通相定ム

明治四十年二月 府令 關東都府第七號 第八號 第九號 衛生組合規則

明治四十年二月八日

關東都督府大島義昌

衛生組合規則

- 第一條 民政署長ハ汚物ノ掃除及清潔方法消毒方法其ノ他傳染病豫防救治ニ關スル方法施行ノ爲必要ト認メタルトキハ區域ヲ定メ衛生組合ヲ設クルコトヲ得
- 衛生組合ハ規約ヲ設ケ前項ノ事務ヲ施行ス
- 第二條 民政署長ノ指定シタル區域内ノ居住者ハ當然衛生組合員トス
- 第三條 衛生組合ノ經費ハ其ノ組合ノ負擔トス
- 經費ノ收支方法ハ組合之ヲ定メ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 衛生組合規約ハ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 衛生組合ニハ組合長一名副組合長二名ヲ置クヘシ
- 前項ノ外衛生組合ニハ衛生上ノ技能アル顧問一名ヲ置クコトヲ得
- 第六條 組合長ハ組合ヲ代表シ規約ニ基キ其ノ事務ヲ掌理ス
- 第七條 副組合長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
- 第八條 土地ノ狀況ニ依リ一衛生組合ノ地區ヲ小區域ニ區劃スルノ必要アルトキハ各區ニ衛生委員及副衛生委員各一名ヲ置キ其ノ區域内ニ於ケル衛生事務ヲ補佐セシムルコトヲ得
- 第九條 衛生組合長副組合長顧問衛生委員及副衛生委員ハ民政署長之ヲ擔任ス
- 第十條 本規則施行ノ爲必要ナル規程ハ民政署長之ヲ定ム

○統監府令第九號(官報三月十二日)

明治四十年四月一日ヨリ左記各地間ノ電話料及電話呼出料左ノ通定ム

明治四十年三月五日

臨時統監代理韓國駐紮軍司令官男爵長谷川好道

地 域 咸興西郡津南

一週電話料

金二十圓

一週ノ電

金十圓

○統監府令第十號(官報三月二十日)

明治三十九年十一月二週信省令第六十一號新聞電報規則ハ韓滿間發着電報ニ之ヲ準用ス但シ同規則第二條第一項ノ料金ハ明治四十年二月統監府令第六號ノ料金ニ同シ

附 則

本令ハ明治四十年三月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年三月十五日

臨時統監代理韓國駐紮軍司令官男爵長谷川好道

○統監府令第十一號

明治四十年三月十五日ヨリ左記地名ノ電話加入登記料及電話使用料左ノ通定ム

明治四十年三月十四日

臨時統監代理韓國駐紮軍司令官男爵長谷川好道

地 名 龍山

加入登記料

金十圓

電話使用料年額

金六十圓

○統監府令第十二號(官報三月二十六日)

明治四十年四月一日ヨリ左記各地間ノ電話料及電話呼出料左ノ通定ム

明治四十年三月十九日

臨時統監代理韓國駐紮軍司令官男爵長谷川好道

地 域

一週電話料

一週ノ電

地 域

一週電話料

一週ノ電

香川京城間

金四十圓

電話呼出料

金二十圓

香川龍山間

金四十圓

○臺灣總督府令第四號(官報三月四日)
明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス

明治四十年二月十九日

臺灣總督子爵佐久馬左馬太

苗栗基隆間	四十五錢	十錢	苗栗鹿港間	三十五錢	十錢
苗栗臺北間	四十五錢	十錢	苗栗員林間	三十五錢	十錢
苗栗淡水間	四十五錢	十錢	苗栗北斗間	四十五錢	十錢
苗栗新竹間	二十五錢	十錢	苗栗斗六間	四十五錢	十錢
苗栗葫蘆墩間	三十錢	十錢	苗栗嘉義間	五十五錢	十錢
苗栗臺中區	三十錢	十錢	苗栗鹽水港間	六十五錢	十錢
苗栗彰化間	三十五錢	十錢	苗栗臺南間	七十五錢	十錢

○臺灣總督府令第五號(官報三月九日)

明治三十七年三月府令第二十四號臺灣公學校規則中左ノ通改正ス

明治四十年二月二十六日

臺灣總督子爵佐久馬左馬太

第二條中「十六歲ヲ二十歲ニ改ム」
 第三條 公學校ノ修業年限ハ六箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ四箇年又ハ八箇年ト爲スコトヲ得
 公學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、漢文、唱歌、體操トシテ女兒ノ爲ニ裁縫ヲ加ヘ修業年限八箇年ノ
 公學校ニハ理科、圖書及男兒ノ爲ニ手工、農業、商業ノ一科目若ハ二科目ヲ加フ
 土地ノ情況ニ依リ漢文、唱歌、裁縫ヲ缺キ又修業年限六箇年ノ公學校ニ在テハ男兒ノ爲ニ手工、農
 業、商業ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得

局長ハ修業年限ヲ四箇年又ハ八箇年ト爲サントスルトキ又ハ教科目ヲ加除セントスルトキ若ハ

第二項ノ教科目ヲ定メントスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 削除

第二章中設置ヲ設立ニ第七條、第八條中「局長ヲ臺灣總督ニ改ム」

第十一條第四項中「產業ノ下ニ重要ナル制度ヲ加フ」

第十二條第二項中「ニ及ヒ漸次度量衡貨幣及時ノ計算ヲ、分數、步合算及比例ニ改メ第五項ヲ左ノ如ク改ム」

算術ノ問題ハ度量衡、貨幣及時ノ計算ニ關スル事項等ニ就キ日常ニ適切ナルモノヲ選ビ且他ノ

教科目ニ於テ授ケタル事項ニ連絡セシムヘシ

第十七條第三項 削除

第十九條ノ二 理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ其ノ相互及人生ニ

對スル關係ノ大要ヲ理解セシメ迷信ヲ去リ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ

要旨トス

理科ハ植物、動物、礦物、地文及通常ノ物理化學上ノ現象中主トシテ兒童ノ目擊シ得ル事項ニシテ

成ルヘク農業、商業、工業等實際生活ニ適切ナルモノヲ選ビテ教授シ又人身生理及衛生ノ大要ヲ

授ケヘシ

理科ヲ授ケルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ若ハ標本、模型、圖書等ヲ示シ又簡單ナル實驗ヲ施

シ明瞭ニ理解セシメンコトヲ要ス

第十九條ノ三 圖書ハ通常ノ形態ヲ看取シ正レク之ヲ畫クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要

旨トス

圖書ハ先ツ單形ヨリ始メ漸ク簡單ナル形態ニ及ホシ時時直線曲線ニ基キタル諸形ヲ工夫シテ之

ヲ畫カシムヘシ尙進ミテハ簡易ナル幾何畫ヲ授ケルコトヲ得

圖書ヲ授クルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目擊セル物體中ニ就キ
 テ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハントニ注意スヘシ
 第二十條 每週教授時數ハ第一學年二十時第二學年二十六時第三學年乃至第六學年二十八時第
 七、第八學年三十時トス但シ夏季休業十週間及夏季休業後四週間ハ每週教授時數ヨリ十時以內
 ヲ減スルコトヲ得
 前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ廳長ニ於テ各教科目ノ每週教授時數ヲ便宜斟酌スヘシ
 教授時ハ四十五分トス
 第二十一條 各學年ノ教授程度及各教科目每週教授時數ハ別表ニ依ルヘシ
 第二十二條 修業年限六箇年ノ公學校ニ於テ手工、農業、商業ノ中二科目ヲ加設スル場合ニ限リ二
 時以內每週教授時數ヲ増スコトヲ得
 第二十二條ノ二 二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ每週教授時數ヲ第一、第二學年ニ在テハ各部十八
 時迄ニ其ノ他ハ各部二十一時迄ニ減スルコトヲ得但シ夏季休業前十週間及夏季休業後四週間ハ
 各學年共十五時迄ニ減スルコトヲ得
 第二十二條ノ三 二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ各教科目ノ每週教授時數ハ廳長之ヲ定メ臺灣總督
 ノ認可ヲ受クヘシ但シ前條ニ依リ夏季休業前後ニ每週教授時數ヲ減スル場合ニ於テハ廳長ニ於
 テ便宜斟酌スヘシ
 第二十二條ノ四 數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ
 兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得
 第三十五條 學校長ハ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第二號書式ノ修業證書第二十二
 條ノ四ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ第三號書式ノ學習證書ヲ授與スヘシ
 第六章 削除
 第一號書式中本校ノ下ニ修業年限ヲ加フ

圖畫ヲ授クルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目擊セル物體中ニ就キ
 テ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハントニ注意スヘシ
 第二十條 每週教授時數ハ第一學年二十時第二學年二十六時第三學年乃至第六學年二十八時第
 七、第八學年三十時トス但シ夏季休業十週間及夏季休業後四週間ハ每週教授時數ヨリ十時以內
 ヲ減スルコトヲ得
 前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ廳長ニ於テ各教科目ノ每週教授時數ヲ便宜斟酌スヘシ
 教授時ハ四十五分トス
 第二十一條 各學年ノ教授程度及各教科目每週教授時數ハ別表ニ依ルヘシ
 第二十二條 修業年限六箇年ノ公學校ニ於テ手工、農業、商業ノ中二科目ヲ加設スル場合ニ限リ二
 時以內每週教授時數ヲ増スコトヲ得
 第二十二條ノ二 二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ每週教授時數ヲ第一、第二學年ニ在テハ各部十八
 時迄ニ其ノ他ハ各部二十一時迄ニ減スルコトヲ得但シ夏季休業前十週間及夏季休業後四週間ハ
 各學年共十五時迄ニ減スルコトヲ得
 第二十二條ノ三 二部教授ヲ爲ス場合ニ於テハ各教科目ノ每週教授時數ハ廳長之ヲ定メ臺灣總督
 ノ認可ヲ受クヘシ但シ前條ニ依リ夏季休業前後ニ每週教授時數ヲ減スル場合ニ於テハ廳長ニ於
 テ便宜斟酌スヘシ
 第二十二條ノ四 數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ
 兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得
 第三十五條 學校長ハ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第二號書式ノ修業證書第二十二
 條ノ四ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ第三號書式ノ學習證書ヲ授與スヘシ
 第六章 削除
 第一號書式中本校ノ下ニ修業年限ヲ加フ

(別表)

修業年限六箇年公學校各學年教授ノ程度及每週教授時數表

教科書	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年		第五學年		第六學年	
	時數	教授	時數	教授	時數	教授	時數	教授	時數	教授	時數	教授
修身	二	道徳ノ要旨	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上
國語	九	近習ナル事 項ノ話シ方 片假名及近 習ナル事 文ノ讀ミ方 力、書	二	同上	三	同上	三	同上	一	同上	一	同上
算術	四	二十以下ノ 數ノ範圍内 ニ於ケル數 ノ加減乘除 方及加減乘	四	同上	五	同上	五	同上	五	同上	五	同上
漢文	五	單字及短 句ノ讀ミ方 及短文ノ讀 方	五	同上	五	同上	五	同上	五	同上	五	同上
體操	二	遊戯及普通 體操	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上
唱歌	一	單音唱歌	一	同上	一	同上	一	同上	一	同上	一	同上
裁縫					三	運針法			四	縫衣類ノ 縫ヒ方		
手工							三	縫衣類ノ 縫ヒ方				
農業									農事ノ大要			
									水産ノ大要			

商業					
計	二三	二六	二八	二八	二八

一 手工、農業、商業ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルトキハ修身科ヲ除外シ他ノ教科目ノ每週教授時數ヨリ各二時以内ヲ割キテ其ノ每週教授時數ニ充ツルヘシ

一 漢文、唱歌、遊藝ノ二科目又ハ數科目ヲ缺クトキハ其ノ每週教授時數ハ總世論ノ每週教授時數ニ充ツルヘシ

修業年限四箇年公學校各學年教授ノ程度及每週教授時數表

教科目	第一學年		第二學年		第三學年		第四學年	
	每週時數	教授時數	每週時數	教授時數	每週時數	教授時數	每週時數	教授時數
修身	二	二	二	二	二	二	二	二
國語	九	九	九	九	九	九	九	九
算術	四	四	四	四	四	四	四	四
漢文	五	五	五	五	五	五	五	五
體操	二	二	二	二	二	二	二	二
唱歌	一	一	一	一	一	一	一	一
繪圖								
計	二三	二六	二八	二八	二八	二八	二八	二八

〔參照〕

臺灣總督府令第二十四號臺灣公學校規則(明治三十七年三月二十八日官報)抄錄

第二條 公學校生徒ノ年齡ハ滿七歲以上滿十六歲以下トス

第三條 公學校ノ修業年限ハ六箇年トシ其ノ教科目ハ修身、國語、算術、漢文、體操トシ女兒ノ爲ニ縫紉ヲ加フ

土地ノ情況ニ依リ唱歌、手工、農業、商業ノ一科目又ハ數科目ヲ加ヘ又漢文、國語ヲ割クコトヲ得

前項ニ依リ加フル教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

教科目ヲ加除シ若ハ之ヲ隨意科目ト爲サントスルトキハ校長ニ於テ臺灣總督府ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 土地ノ情況ニ依リ公學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第二章 設置

第七條 公學校ヲ設置セントスルトキハ街庄、社長ヨリ其ノ名稱、位置、敷地、建築物ノ圖面、生徒ノ修業經費、維持ノ方法及本財産ノ有無ヲ具シ校長ノ認可ヲ受クヘシ

公學校ヲ分離シ若ハ他ノ公學校ト合併シ又ハ分校ヲ設置セントスルトキハ其ノ理由ヲ具シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 公學校ヲ廢止セントスルトキハ街庄、社長ヨリ其ノ事由ヲ具シ校長ノ認可ヲ受クヘシ分校ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第十一條 第四項

談話及文章ハ雅馴ニシテ國語ノ模範トナルヘキモノヲ選ビ無難ナル方言ヲ避ケヘシ其ノ材料ハ修身、歴史、地理、理科、農業等其ノ他生活ニ必須ナル事項ニシテ兒童ノ心方ニ適シ趣味ニ富ムモノトスルヘシ女兒ニハ時ニ家事上ノ事項ヲ交ヘシ

第十二條 第一項第二項及第五項

算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ算術ヲ算盤ヲシムルヲ以テ要ス

此ノ科ニ於テハ初ハ十以内ノ數ノ數ヘ方、書キ方及加減乘除ヲ授ケ漸ク進ミテハ其ノ範圍ヲ廣メテ可以下ノ數ニ及ビ更ニ進ミテ一般ノ數ノ加減乘除並小數ノ算ヲ書キ方及簡易ナル加減乘除ニ及ビ深次度乘除、分數及時ノ計算ヲ授ケヘシ

算術ノ問題ハ他ノ教科ニ於テ授ケタル事項及日常ニ關切ナルモノヲ選ブヘシ

第十七條 第三項

土地ノ情況ニ依リテハ女兒ニ遊花ノ初歩ヲ授ケルコトヲ得

第二十條 各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ別表ニ依ルヘシ

唱歌、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルトキハ、修身科ヲ除キ他ノ教科目ノ每週教授時數ヨリ各二時以内ヲ制
キテ其ノ教授時數ニ充ツルヘシ

漢文ヲ開クトキハ其ノ教授時數ヲ國語ニ三時算術、體操ニ各一時ヲ充テ餘額ハ課シタルトキハ漢文ノ教授時數ヲ全ク之ニ
充ツルヘシ

第二十一條 每週教授時數ハ一學年ハ二十三日三學年ハ二十六日四學年ハ二十七時四學年以上ハ二十八時トス
但シ夏期休業前十週間及夏期休業後四週間ハ每週教授時數ヨリ十時以内ヲ減スルコトヲ得

前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ、校長ニ於テ各教科目ノ每週教授時數ヲ便宜科酌スルヘシ

第二十二條 唱歌、手工、農業、商業ノ中二科目以上ヲ加設スル場合ニ限リ二時以内每週教授時數ヲ増スコトヲ得

第三十五條 學校長ハ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第二號書式ノ修業證書ヲ授與スルヘシ

臺灣總督府令第六號(官報三月十二日)

明治三十七年十一月府令第八十五號中電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ追加ス

葫蘆墩嘉義間	四十五錢	十錢	員林新竹間	四十五錢	十錢
鹿港臺北間	六十五錢	十錢	員林斗六間	二十五錢	十錢
鹿港淡水間	六十五錢	十錢	員林嘉義間	三十五錢	十錢
鹿港新竹間	四十五錢	十錢	北斗臺北間	六十五錢	十錢
鹿港斗六間	三十五錢	十錢	北斗淡水間	七十五錢	十錢
鹿港嘉義間	三十五錢	十錢	北斗新竹間	五十五錢	十錢
員林臺北間	六十五錢	十錢	北斗斗六間	二十五錢	十錢
員林淡水間	六十五錢	十錢	北斗嘉義間	三十五錢	十錢

臺灣總督府令第七號(官報三月十二日)
臺灣樟樹造林獎勵規則施行規則左ノ通相定ム

明治四十年二月二十八日

臺灣總督子爵佐久間左馬太

臺灣樟樹造林獎勵規則施行規則

第一條 造林ノ爲樟苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號様式ニ依リ毎年九月末日迄ニ造林地
所轄ノ地方廳ニ願書ヲ差出スルヘシ

第二條 樟樹造林ノ爲官有地ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ別記第二號様式ニ依リ見取圖並造林設計
書ヲ添付シ其ノ土地所轄ノ地方廳ニ願書ヲ差出スルヘシ

第三條 樟樹造林ノ爲官有地ノ貸付ヲ受ケタルトキハ四至境界ニ別記圖形ニ依リ標杭ヲ建設スルヘ
シ

第四條 造林者ハ事業實行ノ都度成功ノ程度ヲ地方廳ニ届出ヘシ

第五條 樟樹造林ノ爲官有地ノ貸付ヲ受ケタル者全部成功ノ後業主權ノ付與ヲ受ケムトスルトキ
ハ別記第三號様式ニ依リ所轄地方廳ニ願書ヲ差出スルヘシ

第六條 地方廳ニ於テ第一條、第二條及第五條ノ願書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シテ
進達スルヘシ

第七條 下付ニ係ル樟苗ヲ以テ造林シタル樟樹若ハ無償ニテ業主權ヲ付與シタル造林地ハ臺灣總
督ノ許可ヲ受クルニ非レハ讓渡シ、貸渡シ又ハ擔保ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八條 地方廳ニ於テハ樟苗下付臺帳、樟樹造林地貸付臺帳及業主權付與臺帳ヲ編製シ每年度末
日現在ヲ翌年度四月限臺灣總督ニ報告スルヘシ但シ臺帳様式ハ別記ニ之ヲ定ム

(別記)

第一號様式

樟苗下付願

一 樟苗 何萬本

但何種何種何庄民有地(官有地)何十何甲何分ニ植付用一坪何本種ノニ取替林ノ仕立ツト見込(實付ノ割合)ヲ以テ相違
樹種(種ノ見込)

右樟苗製造原料トシテ明治何年何月ヨリ何月迄ニ造林致度候條目下付被下度臺灣總督府造林獎勵規則ヲ遵守シ此段相願候

年月日

住所

氏名

第二號樣式

樟樹造林ノ爲官有地無償貸付願

何種何種何庄土名何々官有原野(又ハ何々)

一 面積 何百何十何甲

願地ノ界外

借地期限

右樟樹造林ノ爲無償ニテ貸付下被下度且成功ノ上ハ無償ニテ業主權付與相美座別紙圖面並造林設計書添附申請候造林獎勵
規則ヲ遵守シ此段相願候

年月日

住所

氏名

臺灣總督府
造林設計書

何種何種何庄土名何々官有原野(又ハ何々)

一 面積 何百何十何甲

造林面積 何百甲

一 出願地内現存立木竹 (無シ)

何樹 目通直徑 何何何何 何木

何樹 同上 何木

一 植栽決定株苗數 何何百何本 (又ハ何何何何何十)

一 植栽期限 何何年何月 何何年

一 植栽方法及手入 (盤地、植栽方法及手入法ノ概要ヲ記入ス)

一 毎年ノ植栽面積及苗數左ノ如シ

初年目 (明治一十年春季施行)

面積 何十何甲步

苗木 何十何本

經費 何百何十圓

二年目 (明治一十年春季施行)

面積 何十何甲步

苗木 何十何本

經費 何百何十圓

三年目

面積 何十何甲步

苗木 何十何本

經費 何百何十圓

右ノ通ニ候也

年月日

何某